

パプアニューギニア独立国
教育省
高等教育省

パプアニューギニア国
教育分野におけるジェンダー支援可能性に
係る情報収集・確認調査
報告書

令和2年3月
(2020年)

独立行政法人
国際協力機構 (JICA)

株式会社かいはつマネジメント・コンサルティング

人間

JR

20-014

目次

第1章	本件業務の概要	1
1.1.	業務の目的.....	1
1.2.	業務の背景.....	1
1.3.	現地調査行程.....	3
第2章	調査結果	4
2.1.	文献調査.....	4
2.1.1.	PNGにおけるジェンダーの状況・課題.....	4
2.1.2.	教育分野におけるジェンダーに関する課題.....	10
2.2.	現地調査.....	19
2.2.1.	教育分野におけるジェンダーに関する聞き取り結果.....	19
2.2.2.	聞き取り調査結果の考察.....	22
2.2.3.	PNGにおける政府機関におけるジェンダー関係の取組み.....	23
2.2.3.	PNGにおける他ドナーのジェンダーに関する取組み.....	24
2.3.	まとめと考察.....	26
2.3.1.	ジェンダー全般.....	26
2.3.2.	教育におけるジェンダー課題.....	29
第3章	提言	31
3.1.	PNGにおけるジェンダー平等実現に関する中長期的かつ包括的取組み.....	31
3.2.	教育セクターが果たすべき役割.....	32
3.3.	初等学校および初等教員養成校で取り組むべきジェンダー格差是正支援活動.....	33

略語集

略称	英語	日本語
DHERST	Department of Higher Education, Research, Science & Technology	高等教育省
DSP	Development Strategic Plan 2010-2030	開発戦略計画 2010-2030
GBV	Gender Based Violence	ジェンダーに基づく暴力
GESI	Gender Equity and Social Inclusion	ジェンダー平等と社会包摂
GDI	Gender-related Development Index	ジェンダー開発指数
GGI	Gender Gap Index	ジェンダーギャップ指数
GII	Gender Inequality Index	ジェンダー不平等指数
HDI	Human Development Index	人間開発指数
JICA	Japan International Cooperation Agency	国際協力機構
MTDP3	Medium Term Development Plan 3 2018-2022	中期開発計画 2018-2022
NEP	National Education Plan 2015-2019	国家教育計画 2015-2019
NDoE	National Department of Education	教育省
OBE/C	Outcome-Based Education/Curriculum	成果主義教育/カリキュラム
PNG	Papua New Guinea	パプアニューギニア
SBE/C	Standard-Based Education/Curriculum	基準達成教育/カリキュラム
SRGBV	School Related Gender Based Violence	学校におけるジェンダーに基づく暴力
UBEP	Universal Basic Education Plan 2010-2019	基礎教育完全普及計画 2010-2019

第1章 本件業務の概要

1.1. 業務の目的

本調査は、歴史的文化的背景により依然ジェンダー格差が深刻な状況にあるパプアニューギニア（以下、PNG）において、社会全体および教育分野におけるジェンダーの現状および課題を包括的に整理すること、そして、教育分野におけるジェンダー格差是正のための JICA の今後の支援可能性を検討するための情報収集と分析を行い、以下に関する提言を行うことを目的として実施した。

- ① PNGにおけるジェンダー平等実現に関する中長期的、かつ（教育セクター以外の他セクターを含む）包括的取組（政策、現状と課題、支援ニーズ）
- ② 上記①を目指すために教育セクターが果たすべき役割
- ③ 上記②を具体的に実現するために、初等学校および初等教員養成校で取り組むべきジェンダー格差是正支援活動

1.2. 業務の背景

PNGは約861万人の人口のうち、約40%が1日1.25USD以下と貧困ライン以下で暮らしている¹。国土の多くは密林に覆われ、大規模な耕作に適した土地は全土の5%に満たない²。人口の87.5%はそのような農村部に暮らしている³。農村部の多くは地理的に隔絶されており、植民地化を経て各地域間の交流が進む50年くらい前までは外の世界との交流もなかった⁴とされている。

こうした地政学および歴史的背景から、各地域間での交流が困難であった。そのため、PNGは多数の部族と言語をもつ国家として形成され、国家よりも地域や部族への帰属意識が強い人も多くいるとされている⁵。農村部に多く見られる、家父長制に基づく伝統的な価値観や社会規範が強い村落出身の男女は、特に男女の役割分担や地位関係に固定的な価値観を有し、強いジェンダーバイアスを持つ傾向にある。女性はこうした伝統的価値観に基づき、暴力や従属的な扱いを受けるなど様々な課題に直面している。こうした社会でジェンダー平等を実現するためには、男性を含めて社会全体の女性に対する態度、価値観、行為を見直す必要がある。

PNGの人口の35%は14歳未満で若年層が多く、教育は人々の意識変容に大きな役割を果たす可能性が高い。教育は男女平等の意識を醸成したり、論理的・科学的思考を養ったりすることにより、多様な価値観を認め合う環境を作り出し、対立が生じた際に平和的に解決することができる社会を作り出すことに寄与すると考えられる。

JICAはPNGにおいて「テレビ番組による授業改善プロジェクト」（2005-2008年）、「メディアを活用した遠隔教育普及・組織強化プロジェクト」（2012-2015年）、「理数科教育の質の改善プロジェクト」（2016-2019年）など複数の教育分野のプロジェクトを実施しており、これらのプロジェクト内ではジェンダー配慮が考慮されてきた。また、今後予定されている「初等理数

¹ 'Boosting Education Standards Together in PNG (BEST PNG) Program', p.11

² 'Universal Basic Education Plan 2010-2019' (以下、UBEP) p.3

³ 'Country Gender Assessment of Agriculture and the Rural Sector in Papua New Guinea' p. ix

⁴ UBEP, p.4

⁵ 外務省 (<https://www.mofa.go.jp/mofaj/press/pr/wakaru/topics/vol71/index.html>)

科教員養成校強化プロジェクト」に対するジェンダー支援可能性検討のため、JICA社会基盤・平和構築部ジェンダー平等・貧困削減推進室によるジェンダー現地調査が2019年7月に実施された。本調査はその流れを汲み、PNGにおけるジェンダー平等に関する中長期的な方向性や教育分野におけるジェンダー支援可能性を検討するために実施された。

1.3. 現地調査行程

日付		面談先・スケジュール
2020/1/20	Mon	成田発
2020/1/21	Tue	ポートモレスビー着 JICA PNG事務所での打合せ
2020/1/22	Wed	Ginigoada Foundation (現地NGO) Women's Business Resource Center (現地NGO) 司法省
2020/1/23	Thu	Ginigoada Foundation (現地NGO) 警察 家族・性的暴力ユニット 首都区ジェンダー局 教育局カリキュラム開発局 高等教育省
2020/1/24	Fri	コミュニティ開発省 UN Women
2020/1/25	Sat	書類整理
2020/1/26	Sun	エンガ州へ移動
2020/1/27	Mon	初等教員養成校① Enga Teachers College
2020/1/28	Tue	エンガ州教育局 初等学校① Wabag Primary School
2020/1/29	Wed	初等学校① Wabag Primary School (再訪) 初等教員養成校① Enga Teachers College (再訪)
2020/1/30	Thu	エンガ州からポートモレスビーへ移動
2020/1/31	Fri	書類整理 中間報告会
2020/2/1	Sat	書類整理
2020/2/2	Sun	東ニューブリテン州へ移動
2020/2/3	Mon	初等教員養成校② Gaulim Teacher College 中等学校① Malabanga High School 中等学校② Kokopo Secondary School
2020/2/4	Tue	初等教員養成校③ Sonoma Adventist College 中等学校① Malabanga High School (再訪) 初等教員養成校④ Divine Word University Kabaleo
2020/2/5	Wed	東ニューブリテン州教育局 中等学校③ Olsh High School 初等学校② Kabaleo Primary School
2020/2/6	Thu	東ニューブリテン州からポートモレスビーへ移動 書類整理
2020/2/7	Fri	初等教員養成校⑤ Sacred Heart Teachers College
2020/2/8	Sat	書類整理
2020/2/9	Sun	書類整理
2020/2/10	Mon	初等学校③ Bomana Primary School 中等学校④ Koyari High School
2020/2/11	Tue	初等教員養成校⑤ Sacred Heart Teachers College (再訪) Human Right Defender 高等教育省
2020/2/12	Wed	教育局カリキュラム開発局
2020/2/13	Thu	JICA PNG事務所帰国報告 首都区 家庭内・性的暴力対策委員会事務局 首都区 ジェンダー局
2020/2/14	Fri	ポートモレスビー発、成田着

エンガ州の訪問先

東ニューブリテン州の訪問先

第2章 調査結果

第2章では調査結果を文献調査および現地調査に分けて、それぞれの調査で判明した PNG におけるジェンダー全般と教育分野におけるジェンダー状況及び課題を整理する。

2.1. 文献調査

2.1.1. PNG におけるジェンダーの状況・課題

(1) ジェンダーにかかる国際的指標

表1の通り、男女平等に関する国際的な指標として主に人間開発指数（Human Development Index: HDI）、ジェンダー開発指数（Gender-related Development Index: GDI）、ジェンダー不平等指数（Gender Inequality Index: GII）、ジェンダーギャップ指数（Gender Gap Index: GGI）の4つがある。GDIは最新のレポートではPNGが含まれていないため、GDI以外の指標のPNGの現状を以下(a)～(c)に概観する。

表1 ジェンダーにかかる国際的な指標

人間開発指数 Human Development Index	「長寿で健康な生活」「知識」及び「人間らしい生活水準」という人間開発の3つの側面を測るもの。具体的には、出生時の平均寿命、知識（平均就学年数および予想就学年数）、1人当たり国民総取得（GNI）を用いて算出している。
ジェンダー開発指数 Gender-related Development Index	人間開発における男女格差を表すもので、男女別の人間開発指数（HDI）の比率で示される。各国のGDIランキングは、HDIにおける男女平等からの絶対偏差に基づいており、男性優位の不平等も女性優位の不平等も同じ扱いでランキングに反映される。
ジェンダー不平等指数 Gender Inequality Index	国家の人間開発の達成が男女の不平等によってどの程度妨げられているかを明らかにするもの。次の3側面5指標から構成されている。 【保健分野】妊産婦死亡率、15-19歳の女性1,000人当たりの出生数 【エンパワーメント】国会議員女性割合、中等教育以上の教育を受けた人の割合（男女別） 【労働市場】労働力率（男女別）
ジェンダーギャップ指数 Gender Gap Index	世界経済フォーラムが、各国内の男女間の格差を数値化しランク付けしたもの。経済分野、教育分野、政治分野および保健分野のデータから算出され、0が完全不平等、1が完全平等を意味する。具体的には次のデータから算出される。 【経済分野】労働力率、同じ仕事の賃金の同等性、所得の推計値、管理職に占める比率、専門職に占める比率 【教育分野】識字率、初等・中等・高等教育の各在学率 【保健分野】新生児の男女比率、健康寿命 【政治分野】国会議員に占める比率、閣僚の比率、最近50年の行政府の長の在任年数

(出典: 男女共同参画白書 令和元年版⁶より筆者作成)

⁶ 男女共同参画局 (2019) 「令和元年版男女共同参画白書」

http://www.gender.go.jp/about_danjo/whitepaper/r01/zentai/index.html#pdf

(a) 人間開発指数 (HDI)

HDI は男女間の格差に言及した指標ではないが、国全体の開発状況を把握するために取り上げる。PNG の HDI は 2019 年の時点で、189 か国中 155 位であり、他の大洋州諸国と比較しても、1 人当たり GNI を除く指標が最下位にあるなど、低い順位にある。特に平均就学年数は、大洋州諸国平均の 9 年の約半分の 4.6 年となっている。

表 2 大洋州諸国の HDI

国名	順位	HDI	平均余命	予想就学年数	平均就学年数	1 人当たり GNI (USD)
パラオ	55	0.814	73.7	15.6	12.4	16,720
フィジー	98	0.724	67.3	14.4	10.9	9,110
トンガ	105	0.717	70.8	14.3	11.2	5,783
サモア	111	0.707	73.2	12.5	10.6	5,885
マーシャル	117	0.698	73.9	12.4	10.9	4,633
ミクロネシア	134	0.614	67.8	11.5	7.7	3,700
バヌアツ	141	0.597	70.3	11.4	6.8	2,808
ソロモン	153	0.557	72.8	10.2	5.5	2,027
PNG	155	0.543	64.3	10.0	4.6	3,686
上記大洋州諸国平均	—	0.663	70.5	12.5	9.0	6039

(出典：2019 Human Development Index Ranking⁷より筆者作成)

(b) ジェンダー不平等指数 (GII)

GII は、保健 (妊産婦死亡率、青年期の女子の出産率)、エンパワーメント (女性の議席占有率、男女の中等教育への進学率)、労働市場 (男女の 15 歳以上の労働参加率) の指標を用いて、国家の人間開発がジェンダー不平等によりどの程度妨げられているか示している。PNG は、189 位中 161 位に位置しており、労働参加率を除くと周辺国と比較して低い順位にある。

表 3 大洋州諸国の GII⁸

国・地域名	ジェンダー不平等指数		妊産婦死亡率 ⁹	青年期女子の出産率 ¹⁰	女性の議席占有率	中等教育への進学率		15 歳以上の労働参加率	
	指数	ランク				女性	男性	女性	男性
フィジー	0.357	78	30	49.4	19.6	78.3	70.2	38.1	76.1
サモア	0.364	80	51	23.9	10.0	79.1	71.6	23.7	38.6
トンガ	0.418	96	124	14.7	7.4	94.0	93.4	45.3	74.1
PNG	0.740	161	215	52.7	0.0	9.9	15.2	46.0	47.6
小島嶼国平均	0.453	—	192	57.5	24.6	59.0	61.5	51.0	70.2
途上国平均	0.466	—	231	46.8	22.4	55.0	65.8	46.6	76.6

(出典：Human Development Indices and Indicators 2019 (UNDP)を元に筆者作成)

⁷ UNDP (<http://hdr.undp.org/en/content/2019-human-development-index-ranking>)

⁸ Human Development Indices and Indicators 2018 (UNDP), p.38-41
http://hdr.undp.org/sites/default/files/2018_human_development_statistical_update.pdf

⁹ 100,000 出産毎の死亡率。

¹⁰ 15-19 歳の女子 1000 人中の出産率。

(c)ジェンダーギャップ指数 (GGI)

GGIでは、経済、教育、保健、政治の各分野における複数の指標を基に、男女間のジェンダー不平等を表している。PNGは153か国中123位に位置している。世界的な傾向として、4分野のうち教育及び保健分野で格差が克服されつつある一方、経済分野では57.8%、政治分野では24.7%と格差が残っている。PNGは大洋州諸国と比較して、経済分野の順位がよいのに対し、政治分野が世界的にみても最も低い。

表4 大洋州諸国の GGI

国名	全体		経済		教育		保健		政治	
	順位	スコア	順位	スコア	順位	スコア	順位	スコア	順位	スコア
フィジー	103	0.678	123	0.584	51	0.997	41	0.979	97	0.150
バヌアツ	126	0.638	98	0.637	121	0.947	128	0.967	152	0.000
PNG	127	0.635	70	0.683	132	0.895	136	0.964	152	0.000
上記大洋州諸国平均	119	0.650	97	0.634	101	0.946	102	0.970	134	0.050

(出典：Global Gender Gap Report 2020 を元に筆者作成)

上記(a)~(c)のとおり、PNGはジェンダーに関する国際的指標において、いずれも低い順位に位置している。

(2) PNGのジェンダー関連政策

PNGではジェンダー不平等が国家として取り組むべき課題として認識されており、ジェンダー平等の実現が分野横断的課題として各政策文書において言及されている。PNGのジェンダーや男女平等に関して言及している主要な政策や国家計画は下表のとおり。

表5 PNGのジェンダーに関する政策文書

名称	ジェンダーに関する項目
憲法	ジェンダー平等に関して、目標 1: 総合的な人間開発および目標 2: 平等と参加において、性別にかかわらずすべての市民は政治、社会、教育、経済活動に平等に参加できることが明記されている。
PNG ビジョン 2050 Papua New Guinea Vision 2050	2009年に定められた PNG の長期的国家ビジョンで、教育やエンパワーメントなど 7 つの柱が掲げられ、そのすべてにおいてジェンダーが分野横断的な課題として取り上げられている。
PNG 開発戦略計画 2010-2030 Papua New Guinea Development Strategic Plan 2010-2030	PNG 開発戦略計画として、憲法および Vision 2050 で定められた目標を実行するための方向性を定めている。分野横断的政策の一つとしてジェンダーが掲げられており、全国民が性別にかかわらず国の開発に参加し、利益を得る平等な機会を有することを定めている。
中期開発計画 III 2018-2022 Medium Term Development Plan III 2018-2022	Vision 2050 および開発戦略計画 2010-2030 に基づき定められた 5 か年開発計画で 8 つの重点項目において、達成すべき指標と計画を定めている。ジェンダー不平等は PNG における主要な開発課題の一つとして位置づけられている。女性の経済的エンパワーメントや女性を含む全市民の意思決定プロセスへの参加について取り組むべき課題として、掲げられている。
女性とジェンダー平等の国家政策 2011-2015 National Policy for Women and Gender Equality 2011-2015	コミュニティ開発省が作成。女性の平等と代表、女性の経済的エンパワーメント、ジェンダーに基づく暴力と脆弱性の 3 点を主な内容としている。

(出典：上記政策文書に基づき、筆者作成)

教育関係のジェンダー平等に関係する政策としては教育省が以下のとおり定めており、各学校は同政策に基づき、生徒の行動規範・ルールにおいてジェンダー平等を推進している。

表 6 PNG におけるジェンダーに関する教育政策

政策名	概要
Behavior Management Policy	教育省により 2009 年に発行され、2014 年に改訂された政策。学校における生徒の行動規範として制定されており、主要原則の一つとして尊敬、平等、公平が挙げられている。
Gender Equality in Education Policy	2002 年に教育におけるジェンダー格差是正を目的として施行された。
Gender Equality in School	2009 年に上記の Gender Equality in Education Policy の流れを受けて、教育省が学校におけるジェンダー平等促進のために制定した。AusAID の協力を得て教師用のガイドラインも制定している。

(出典：上記の政策文書に基づき、筆者作成)

(3) PNG におけるジェンダー課題

PNG におけるジェンダー課題について、「女性とジェンダー平等の国家政策 2011-2015」において掲げられているジェンダーに関する分野（農業および環境分野を除く）に基づき、関係政策文書に列挙された課題を記載する。

表 7 PNG におけるジェンダー課題

分野	課題
ジェンダーに基づく暴力 (Gender Based Violence: GBV)	<ul style="list-style-type: none"> ・ GBV に分類される課題として、家庭内暴力、家族・性的暴行、ドラッグ・アルコール中毒、土地紛争、盗み、ギャンブル、魔女狩りがある¹¹。 ・ 文化的背景および被害者の恐怖のため被害状況は明らかになっていない。被害者を保護しケアする機関の能力強化が必要である¹²。 ・ GBV は問題の性質上、被害者が声を上げにくく実態を把握するのが困難である。数少ない統計データとして以下のようなデータがある¹³。 <ul style="list-style-type: none"> ➢ 2009 年に沿岸、山岳、島嶼州の都市部で調査した 200 名の女性のうち 65.3%が家庭内暴力を経験していた。 ➢ 2012 年に首都区で発生した性的虐待事件のうち 62%は子どもが巻き込まれていた。 ➢ 山岳地方のシンプー州だけで、毎年 150 件の暴力や殺人が魔女狩りの結果として発生している。
保健・HIV/AIDS	<ul style="list-style-type: none"> ・ 健康関係の指標は改善してきているが、地方部と都市部の差は以下のとおり依然として大きい¹⁴。 <ul style="list-style-type: none"> ➢ 専門スタッフによる出産時の支援は都市部で 88%が受けているのに対して、地方部では 47%のみ。 ➢ 自宅出産は都市部で 13%のみなのに対し、地方部では 55%。 ・ 出産時のみならず、地方部では重労働、栄養不足、安全な水へのアクセスの欠如、出産数の多さ、家庭内暴力などの影響を受けて、女性の健康が害されがちである¹⁵。 ・ USAIDS によると、PNG で HIV に感染していると推定される 15 歳

¹¹ “Papua New Guinea National Strategy to Prevent and Respond to Gender Based Violence 2016-2025”

¹² PNG 開発戦略計画 2010-2030

¹³ “Papua New Guinea National Strategy to Prevent and Respond to Gender Based Violence 2016-2025”

¹⁴ “Gender Analysis (Summary)” (ADB) <https://www.adb.org/sites/default/files/linked-documents/cps-png-2016-2020-ga.pdf>

¹⁵ 同上

	<p>以上の成人人口は約 42,000 人（人口の 0.49%）で、女性が約 60%（推定 25,000 人）を占めている。また、性産業従事者の HIV 感染率は 17.8%と特に高い¹⁶。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ HIV/AIDS に関する意識啓発・教育・訓練の欠如、差別や侮辱、不十分な施設やサービスが課題となっている。
教育	<p>※教育分野については「2.1.2.教育分野におけるジェンダーに関する課題」および「2.2.1.教育分野におけるジェンダーに関する聞き取り結果」にて詳細に記述する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 15 歳以上の識字率は女性（57.9%）より男性（65.3%）が高い¹⁷。 ・ 初等学校の修了後、中等学校への進学が男子生徒（61%）と比較して女子生徒（57%）の割合が低い¹⁸。 ・ PNG の成長性を高めるため、高等教育における男女平等を実現する必要がある¹⁹。
文化的慣習・伝統	<ul style="list-style-type: none"> ・ PNG では婚資（特に山岳地方、パプア地域の沿岸地域）、一夫多妻制、およびそれらに基づく男性優位の思想が依然としてある²⁰。 <ul style="list-style-type: none"> ➢ 婚資：婚資は PNG では「女を買う」と表現されることが多く、妻への暴力が正当化²¹される根拠として使われることがある。
経済的エンパワーメント	<ul style="list-style-type: none"> ・ PNG の女性の多くは働いているものの、男性よりインフォーマルセクターでの労働や賃金が安い労働に従事することが多い。以下の項目²²のとおり収入額やマネジメント層、技術職に占める割合も男性が大きく上回っている。 <ul style="list-style-type: none"> ➢ 労働力率：女性 47.9%、男性 49.0% ➢ 所得推計値：女性 2.8, 男性 3.8 ➢ 賃金労働従事者：男性 66%、女性 38%。 ➢ インフォーマルセクターでの労働従事者：男性 15%、女性 46% ➢ 経営層やシニアスタッフの割合：女性 18.1%, 男性 81.9% ➢ 技術専門職の割合：女性 39.7%, 男性 60.3% ➢ 銀行口座を有している成人は 37%で、そのうちの 12.5%未満が女性。
意思決定	<ul style="list-style-type: none"> ・ 1972 年の独立以来女性の国会議員は 8 名のみ。 ・ 現在の女性国会議員数が 0 であることをはじめ、政治、国際フォーラム、経済、環境、メディアなど様々な分野において女性の意思決定機関への参加率は低い。 ・ PNG の女性は市民活動や政治活動に参加する際に差別、暴力、支援の欠如など多くの問題に直面している²³。

（出典：脚注に記した出典元から筆者作成）

上記の政策文書のうち、PNG 開発戦略計画 2010-2030 および中期開発計画 III 2018-2022 においては具体的なジェンダー関係指標が掲げられている。

PNG 開発戦略計画 2010-2030 では、1 人当たり GDP およびジェンダー開発指数を比較した際に、国の発展とジェンダー平等に相関関係がみられることから、女性が教育を受け経済活動に参加することは、国家の利益につながるとうたっている。指標としては男女就学率、高等教育における女性の比率、賃金労働における女性の比率、家庭内暴力の女性と子どもの被害撲滅を掲げている。

¹⁶ USAID “Papua New Guinea Overview” <https://www.unaids.org/en/regionscountries/countries/papuanewguinea>

¹⁷ UNESCO “Papua New Guinea Education and Literacy” <http://uis.unesco.org/en/country/pg>

¹⁸ “Boosting Education Standards Together in PNG (BEST PNG) Program”

¹⁹ 「PNG 開発戦略計画 2010-2030」

²⁰ 「女性とジェンダー平等の国家政策 2011-2015」

²¹ 馬場淳（2012）「保護される人権、切り裂かれる社会—パプアニューギニアにおける反 DV 政策の功罪—」 p. 92

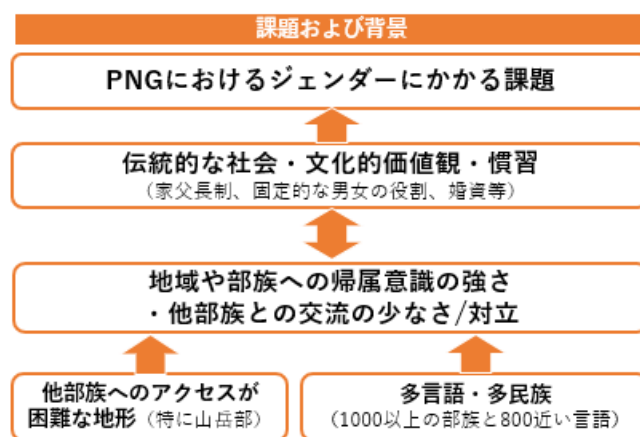
²² 本項目において列挙したデータは「中期開発計画 III 2018-2022」より抜粋。

²³ 本項目において列挙したデータは「中期開発計画 III 2018-2022」より抜粋。

中期開発計画 III に 2018-2022 では、特に女性の経済的エンパワーメントと、政治分野での女性の参加がジェンダー関係の課題として取り上げられている。

上記課題の社会文化的背景を検討する。PNG本島の地形は中央部の4,000m級の山が存在する山岳地方、海岸部から内陸にかけての低湿地帯と熱帯林から構成され、外部からの影響を受ける以前の人々の生活基盤は、タロイモなどの根菜類の焼畑農耕と採集狩猟に依拠していた。これらは小規模な集団が散在していたほうが効率的な生活様式であり、拡散した集団と言語の分化を進め、現在では約800の言語を持つ部族が暮らしている。PNGが外界と接触するのは、ヨーロッパ人の来訪があった十六世紀初めであり、上記の地勢とマラリアの影響により300年以上本格的な植民活動は行われなかった。その後、1884年にドイツおよびイギリスによる植民地化を経て、イギリスの植民地支配が1905年からオーストラリアに引き継がれた際に、オーストラリアに近く、良港が存在したポートモレスビーが行政の中心地とされた。植民地政府は早くから植民地化した海岸部や島嶼部から、徐々に内陸部への接触を進めていった。これらの歴史的背景があって、植民地化の影響が早くから見られた島嶼部や海岸部はインフラの整備や教育や保健医療等のサービスの普及が比較的早く進んだ。一方で、内陸部、特に高地にあたる山岳部は1950～60年代にかけて高地縦貫道の建設やコーヒー等の換金作物の栽培の普及により、ようやく人々や物質の往来が盛んになった。一方で、同じ山岳部でもこうした主要道路へのアクセスが遠い周辺部は社会経済的な整備が他地域と比較して進んでいない²⁴。

こうした地政学のおよび歴史的背景から、各地域間での交流が困難であったため、PNGは多数の部族と言語をもつ多様な国家となった。このため、国家より地域や部族への帰属意識が高く、逆に他部族との交流が少ないため、エンガ州の一部地域など場所によってはいまだ部族対立が残る地域もある。PNGでは伝統的に女性の地位が低く、女性が公の場に出ることは望ましくないとされている²⁵。こうした価値観は農村部に多く見られ、家父長制に基づく伝統的な価値観や社会規範が強い村落出身の男女は、特に男女の役割分担や地位関係に固定的な価値観を有し、強いジェンダーバイアスを持つ傾向にあると考えられる。



(出典：筆者作成)

図1 PNGにおけるジェンダー課題および背景

²⁴ 「パプアニューギニアの『場所』の物語」 p.106-119

²⁵ 「キリスト教と伝統—パプアニューギニアにおける国家アイデンティティの構築—」 p. 206

2.1.2. 教育分野におけるジェンダーに関する課題

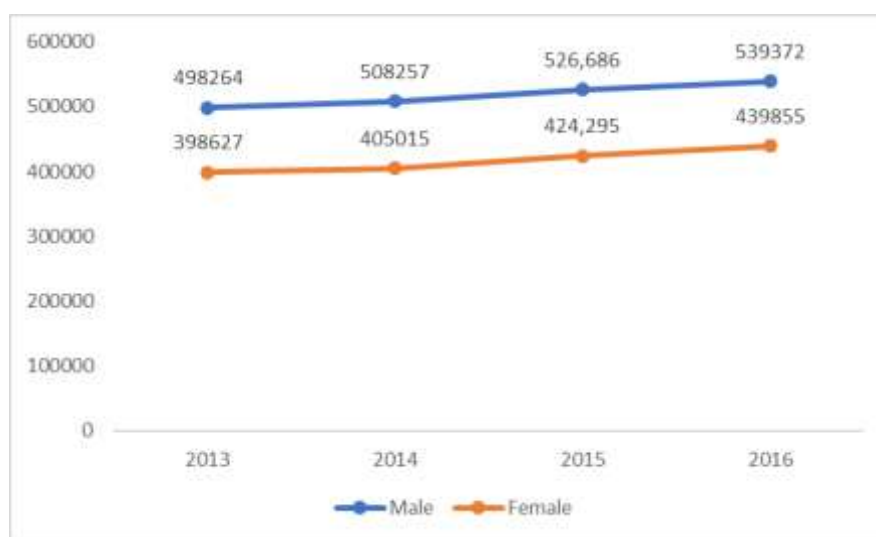
PNG の教育分野におけるジェンダー状況について、EMIS 等の統計データを基に教育へのアクセスと教育の質について概観する。

なお、PNG では、3-6-4 の教育制度（基礎学校 3 年、初等学校 6 年、中等学校 4 年）の教育制度がとられてきていたが、2018 年に新教育制度である 1-6-6 制（基礎学校 1 年、初等学校 6 年、中等学校 6 年）の段階的導入が正式に承認され²⁶、複数のモデル校において試行的に導入されている。他方、同新教育制度（1-6-6 制）の導入はまだパイロットレベルであり、本調査で訪問した学校はすべて既存の 3-6-4 制を取っていたため、本調査報告も基本的に既存の 3-6-4 制に基づく。

(1) 教育へのアクセス

(a). 初等学校

初等学校の生徒数は男女ともに毎年微増しているものの、男女比はほぼ 55:45 として女子生徒の割合が 10%程度低い状況が続いている。



(出典: EMIS データ 2013~2016 を基に筆者作成)

図 2 初等学校における男女別生徒数の推移（2013~2016 年）

また、初等学校の各学年の男女別生徒数をみると、学年が上がるごとに男女比の差も徐々に広がっている。

表 8 初等学校における学年別男女別生徒数（2016 年）

学年/年	2016 年			
	男子	%	女子	%
Grade 3	106,289	54.1%	90,196	45.9%
Grade 4	101,801	54.0%	86,645	46.0%
Grade 5	94,746	54.7%	78,314	45.3%
Grade 6	86,776	55.2%	70,357	44.8%
Grade 7	76,041	55.9%	60,034	44.1%
Grade 8	71,703	56.9%	54,309	43.1%

(出典: EMIS データ 2015~2016 を基に筆者作成)

²⁶ 「パプアニューギニア国初等理科教員養成校教科プロジェクト詳細計画策定調査報告書」 p. 6

(b). 中等学校

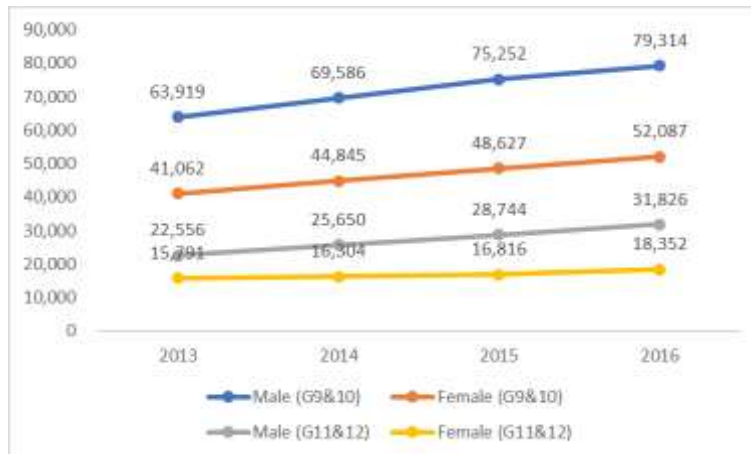
表 9 は、国家試験がある第 8 学年、第 10 学年後の進学率をまとめたものある。男女ともに進学率は低いものの、女子生徒の進学率の方が男子生徒より約 4%低い。

表 9 初等学校から前期中等学校、前期中等学校から後期中等学校への男女別進学率

性別	G8 から G9 への進学率	G10 から G11 への進学率
男子	61%	48%
女子	57%	44%

(出典：“Boosting Education Standards Together in PNG (BEST PNG) Program”)

次に中等学校の生徒数について、前期と後期に分けてみると、前期中等学校では男女比がおおよそ 60:40 で推移しており、女子生徒の割合が 20%程度低い。後期中等学校では年によって変動があるものの、2015、2016 年と若干女子生徒の比率が下がっており、男女の格差が広がっている。



(出典: EMIS データ 2013~2016 を基に筆者作成²⁷)

図 3 中等学校における男女別生徒数の推移

中等学校の各学年別の男女生徒数をみると、初等学校よりも学年が上がるごとに生徒数が減少しており、特に第 10 学年の国家試験後の減少率は男女ともに大きい。男女比の差も学年を上がるごとに大きくなっている。

表 10 中等学校における学年別男女別生徒数 (2016 年)

学年/年	2016 年			
	男子	%	女子	%
Grade 9	41,913	59.5%	28,554	40.5%
Grade 10	37,401	61.4%	23,533	38.6%
Grade 11	17,044	62.8%	10,082	37.2%
Grade 12	14,782	64.1%	8,270	35.9%

(出典: EMIS データ 2015~2016 を基に筆者作成)

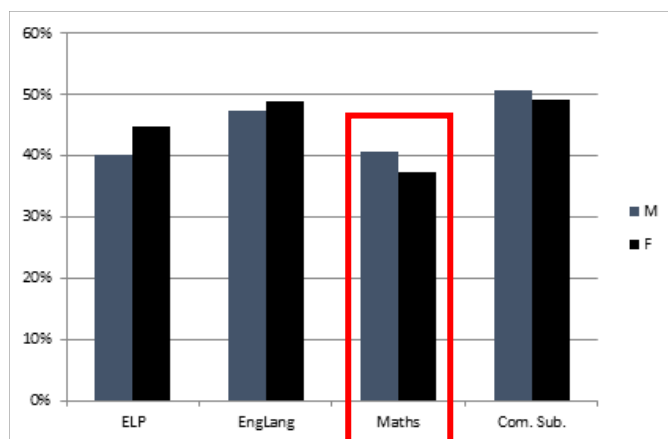
²⁷ EMIS 2014 から中等学校に関するデータが欠落していたため、2014 年のデータのみ 2013 年および 2015 年のデータから算出した平均値を 2014 年データとして代替している。

(2) 教育の質

次に教育の質として、初等学校および中等学校における男女別の成績を概観する。

(a) 初等学校

初等学校最終学年の第 8 学年の全国学力試験の結果によると、数学は他科目と比較して成績が低く、女子生徒の成績は男子生徒より低い。一方、英語は逆の結果が出ている。

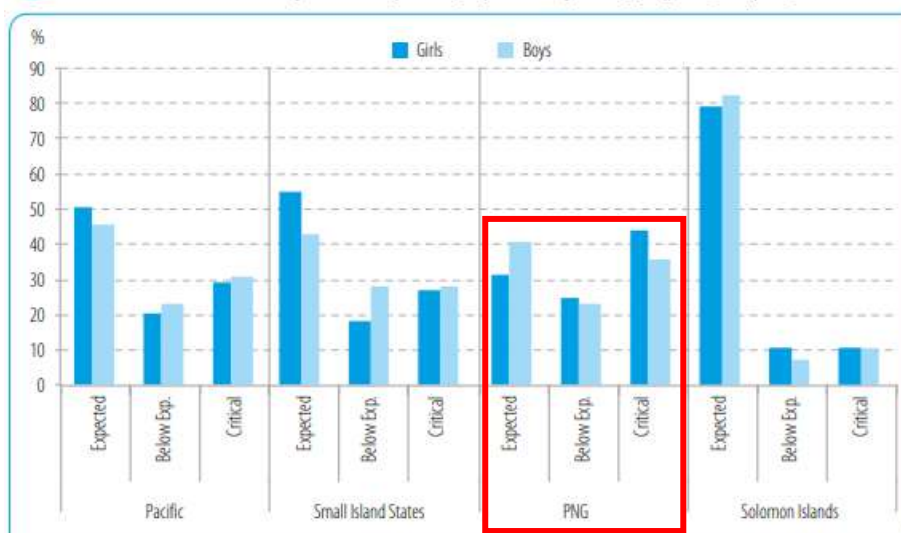


(出典：”Boosting Education Standards Together in PNG (BEST PNG) Program”)

図 4 Grade 8 の全国学力試験の男女の成績差

また、大洋州地域の識字・算数の学習到達度テスト (Pacific Islands Literacy and Numeracy Assessment: PILNA) の結果によると、PNG は 2012 年に実施されたテストにおいて男女ともに大洋州の平均値を下回る結果となっている。PNG の中では、期待されるレベル (表中の”Expected”) に達している男子生徒が約 40% いるのに対し、女子生徒は約 30% 強と約 10%、女子の成績が低い。

Figure 2.6.11: PILNA numeracy results, by category, country or aggregate grouping, and sex (%)

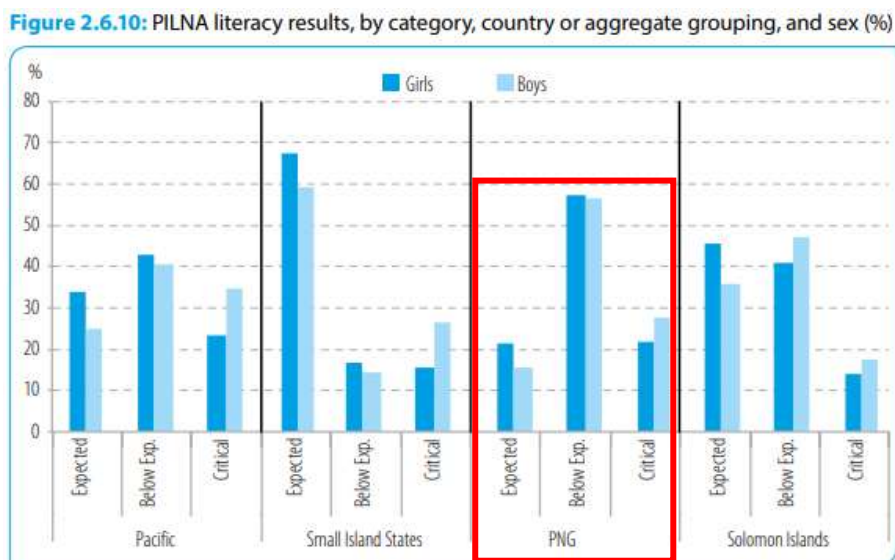


(出典：” Pacific Education for All 2015 Review”)

図 5 PILNA2012 算数のテスト結果における男女の成績差

一方、PNG においては学校教育が英語で実施されており、言語能力は全科目に共通する基本と

なるとの意見²⁸が教育現場であるため、識字の試験結果も確認する。男女ともに大洋州の平均値を下回っている点は算数と共通する一方、男女の違いに関しては、算数とは逆で期待される結果に達している女子生徒が約 20%強と男子生徒の約 15%より高くなっている。この結果は上記の第 8 学年の全国学力試験の男女別成績結果とも共通しており、男子生徒と比較して女子生徒の学力自体が低いわけではなく、科目による得意不得意があることを示している。



(出典：” Pacific Education for All 2015 Review”)

図 6 PILNA2012 識字のテスト結果における男女の成績差

(b) 中学校

中学校における成績は、高等教育省より入手した中等終了国家試験（12 年生対象の Grade 12 Assessment。以下、国家試験）の結果を参照する。受験者の男女比は下図のとおり、男子生徒数が女子生徒数より多く、男女比はおよそ 6:4 である。他方、男女別の GPA 平均値を比較すると、2017 年、2018 年とも女子生徒のほうが男子生徒よりもよい。

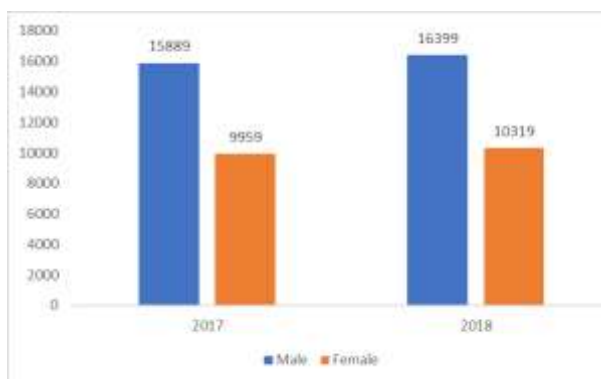


図 7 国家試験の男女別参加者数

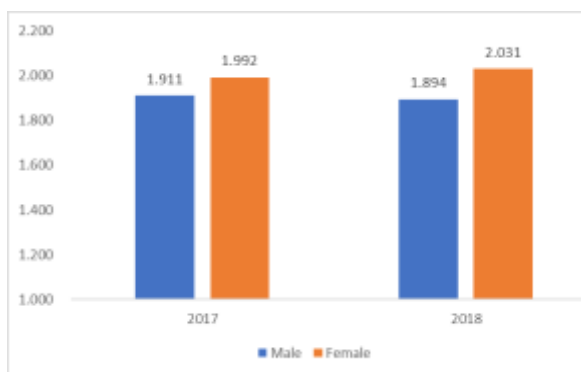
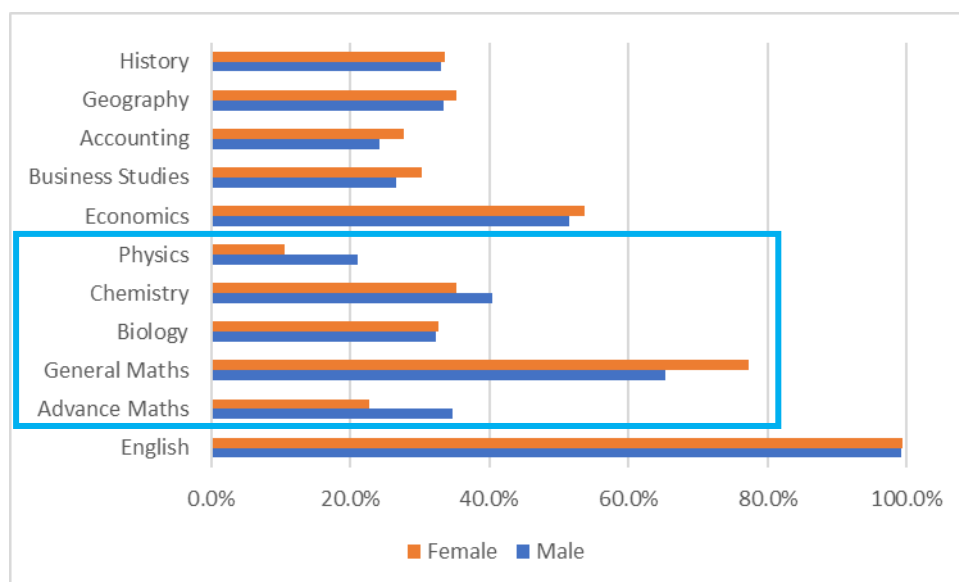


図 8 国家試験の男女別 GPA 平均

(出典：DHERST 提供の国家試験結果より筆者作成)

²⁸ 今次調査で実施した初等学校および初等教員養成校におけるヒアリングにおいて、授業科目である英語（言語）が他の科目を理解するにあたって重要であるとの意見が複数の教師から表明された。

中等学校における科目選択では英語と数学（上級数学もしくは一般数学）が必須科目であり、他の科目は選択制となっている。上記のとおり、男女数が異なるため男女それぞれの選択科目の割合を以下の図にまとめた。



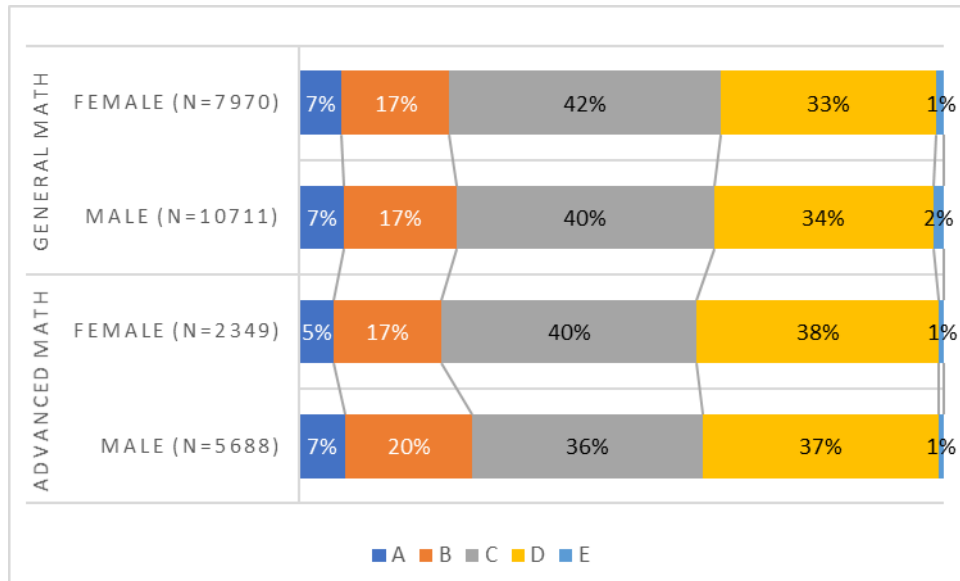
(出典：DHERST 提供の国家試験結果より筆者作成)

図9 国家試験の男女別科目選択比率（2018年）

青枠内の理数科目をみると、上級数学、化学、物理では男子生徒の割合が女子生徒より高く、生物ではほぼ同じ割合になっている。他方、社会科学系の選択科目（歴史、地学、会計、ビジネス、経済）は、女子生徒の割合が高くなっている。なお、2017年と2018年で男女別の科目選択について、ほぼ同様の傾向を示している。

次に理数科目における男女の成績を確認する。成績は良いほうから A~E の 5 段階（5 段階を割合で示すと、A:100-81%、B: 80-61%、C: 60-41%、D: 40-21%、E: 20-0%）で評価される。

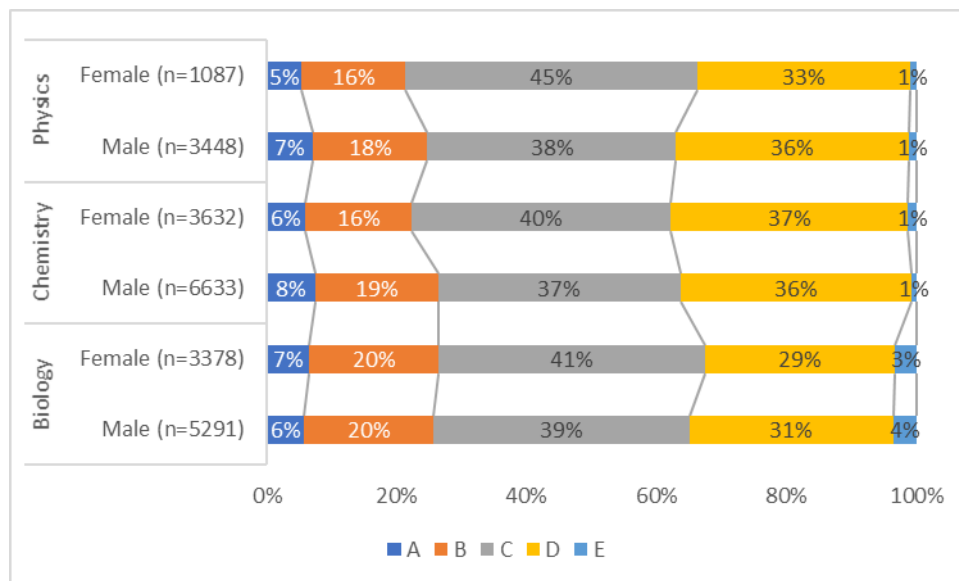
上級数学と一般数学別に男女別の成績結果をまとめると下図のとおり、一般数学に関しては男女で成績の差がない。他方、上級数学は若干男子生徒の成績がよい傾向にある。



(出典：DHERST 提供の国家試験結果より筆者作成)

図 10 国家試験の男女別数学の成績結果 (2018 年)

理科に関しては、生物以外の物理と化学は男子生徒の成績が若干よい傾向にある。



(出典：DHERST 提供の国家試験結果より筆者作成)

図 11 国家試験の男女別理科の成績結果 (2018 年)

上記のとおり、理数科目に関してはそもそも女子の選択者数が少ないが、成績に関しては男女で大きな差が出ていないが、一部科目（上級数学、化学、物理）については若干男子生徒の成績が良い傾向にある。GPA 平均からみる全体成績は女子生徒のほうがよいことを考慮すると、成績に差が出ない理数科目は、女子生徒は相対的に苦手であると考えられる。

(c). 学校種別および地域別によるジェンダー格差の傾向

教育省による Boosting Education Standards Together in PNG Program に記載された、学校種別によ

るジェンダー平等指数（Gender Parity Index: GPI）は、女子生徒数を男子生徒数で割った数値を表しており、GPIが1の場合男女同数、1未満の場合男子の割合が高い、1より大きい場合女子の割合が大きいことを示している。

表11の通り、全国平均をみると、基礎学校ではほぼ男女同数となっており、初等学校、中等学校と教育が進むにつれ、女子生徒の比率が下がる。

一方、州による違いが大きいことも着目すべき点であり、GPIが最大値の州ではいずれの学校種別においても女子生徒が男子生徒よりも多い。逆にGPIが最小値の州では、特に女子生徒の中等学校への進学率が低いことが見てとれる。

表11 学校種別によるジェンダー平等指数（2016年）

学校種別	PNG 全国 GPI 平均	GPI 最大値	GPI 最小値
基礎学校	1.00	1.07	0.89
初等学校	0.94	1.15	0.81
中等学校	0.85	1.37	0.58

（出典：“Boosting Education Standards Together in PNG (BEST PNG) Program”）

表11でみられた州による違いを見るために、州別の初等学校から中等学校への進学率に関するGPIが低い順から高い順に並べたのが下表12である。この中でも山岳地方と島嶼地方は顕著な傾向が出ており、山岳地方の州はGPIが全て1未満であり、男子生徒の進学率が女子生徒を上回っていることがわかる。山岳地方はPNGの中でも外部との接点を持つのが最も遅かった地域であり、男性優位の伝統的な価値観が根強く残っていることが要因として考えられる。逆に島嶼地方では5州中3州はGPIが1以上と、女子の進学率がよい。島嶼部は植民地化の影響を早くから受け、教育や保健医療等のサービスなどが早くから普及したことが、他地域と比較して女子教育が進んでいることに影響していると考えられる。

表12 州別の初等学校から中等学校への進学率のGPI

州名（日）	州名（英）	地域区分	初等学校から中等学校への進学率のGPI
南部山岳州	Southern Highlands	山岳地方	0.73
オロ州	Oro	パプア地方	0.79
エンガ州	Enga	山岳地方	0.80
ヘラ州	Hela	山岳地方	0.81
西部州	Western	パプア地方	0.82
西ニューブリテン州	West New Britain	島嶼地方	0.83
ジワカ州	Jiwaka	山岳地方	0.83
西部山岳州	Western Highlands	山岳地方	0.83
シンブー州	Simbu	山岳地方	0.84
キウンガマレー湖州	Kiunga Lake Murray	パプア地方	0.86
モロベ州	Morobe	モマセ地方	0.89
東部山岳州	Esatern Highlands	山岳地方	0.91
マダン州	Madang	モマセ地方	0.94
マヌス州	Manus	島嶼地方	0.97
中央州	Central	島嶼地方	0.98
サンダウン州	Sandaun	モマセ地方	1.03
首都区	National Capital District	パプア地方	1.05
東ニューブリテン州	East New Britain	島嶼地方	1.06

湾岸州	Gulf	パプア地方	1.13
東セピック州	East Sepik	モマセ地方	1.14
ニューアイルランド州	New Ireland	島嶼地方	1.15
ブーゲンビル自治区	ARoB	島嶼地方	1.17
ミルン湾州	Milne Bay	パプア地方	1.18

(出典：“Boosting Education Standards Together in PNG (BEST PNG) Program”)

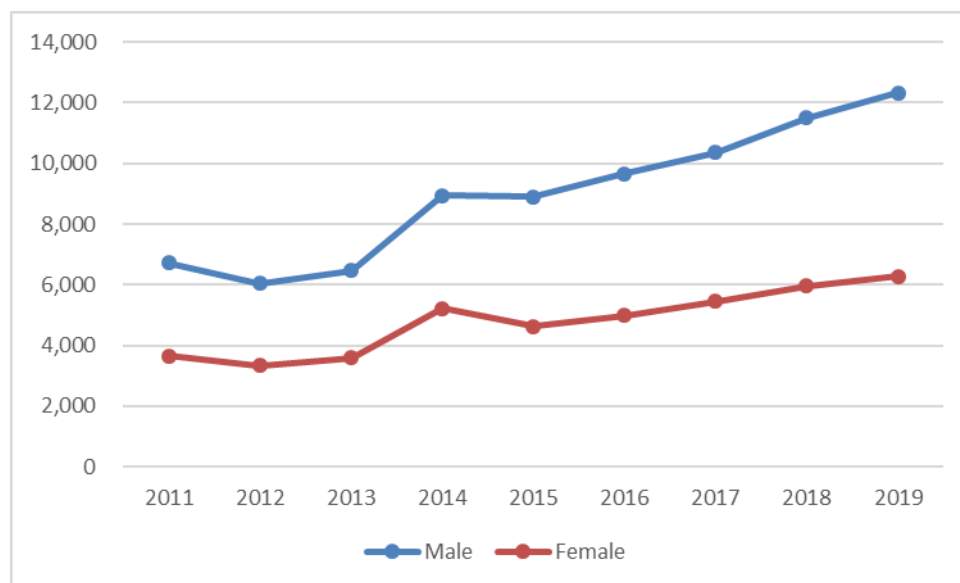
以上より、地域的な差はあるものの、PNG 全体として初等学校の段階で教育へのアクセスに男女差が生じており、中等学校に進むにつれてその差が拡大している。男子生徒と女子生徒の男女比は過去 4 年の傾向をみても男女差が縮まっておらず、女子生徒の就学率はここ数年改善していないといえる。

また、初等学校において、理数科目、特に算数は女子生徒より男子生徒の成績がよい傾向にある。中等学校での科目選択で女子生徒が理数科を選択する割合は男子生徒より低いが、成績において大きな男女差はない。ただ、英語や他の社会科学の成績が男子生徒より女子生徒がよいことを考慮すると、相対的に女子生徒は理数科目が苦手であると推察できる。

このため、ジェンダー平等な教育実現のためには女子生徒の教育へのアクセス、および、理数科教育の質の双方の改善を検討する必要がある。

BOX1：高等教育の理数科コース専攻者の男女の違い

職業選択の観点から、中等学校以降の高等教育に焦点を当てると、男女間の理数科選択の差がさらに顕著に出てくる。下図は 2011 年から 2019 年までの高等教育の理数科関係コースに入学した男女別数を表しており、その数は男女ともにおよそ 2 倍弱増加しているものの、男女間の比率はあまり変わっておらず、若干女子の割合が減少する傾向にある。



(出典：DHERST より入手したデータ²⁹を基に筆者作成)

図 12 高等教育において理数科コースを選択した生徒数

この数値は選択コースや学校種別によっても変わっており、2019 年の科目別男女入学者数および男女比を見ると、看護および医学・歯科は女子生徒の割合がそれぞれ 70.5%、45.6%と他科目と比較して多い。一方、エンジニアリングは 13.8%ときわめて男女比の差が大きい。これらのコース選択は卒業後の職業選択と密につながっており、エンジニアなどは女性にとってなじみが薄い職業となっていることがわかる。

表 13 2019 年の科目別男女入学者数および男女比（理数科関連コースのみ）

Subject	Male	%	Female	%	Total
Science	2,106	64.9%	1,138	35.1%	3,244
TVET	6,116	71.5%	2,443	28.5%	8,559
Agriculture & Fisheries	617	70.8%	255	29.2%	872
Environment & Natural Resources	623	72.4%	237	27.6%	860
Nursing	557	29.5%	1,328	70.5%	1,885
Engineering	1,549	86.2%	247	13.8%	1,796
Medicine & Dentistry	749	54.4%	627	45.6%	1,376
Total	12,317	66.2%	6,275	33.8%	18,592

(出典：DHERST より入手したデータ³⁰を基に筆者作成)

²⁹ Higher Education Sector enrolment and graduate data in the field of Science and Mathematics (STEM)

³⁰ 同上

2.2. 現地調査

2.2.1. 教育分野におけるジェンダーに関する聞き取り結果

今次調査で訪問したエンガ州（山岳地方）、東ニューブリテン州（島嶼地方）、ポートモレスビー（POM）の学校における聞き取り結果をまとめる。訪問先は下表 14 のとおりで、授業が開始した POM の学校においては授業観察も訪問時に実施した。また、エンガ州およびニューブリテン州では学校の他、州教育局を訪問した。下記訪問先での聞き取り結果は表 15 のとおり。

表 14 今次調査で訪問した学校一覧

学校種別	学校名	地域	ヒアリング対象
初等学校	Wabag Primary School	エンガ州	校長、女性教師、男性教師、スクールカウンセラー、生徒の父親
	Kabaleo Primary School	東ニューブリテン州	副校長含む教師 3 名、JOCV
	Bomana Primary School	POM	校長、教師
中等学校	Kokopo Secondary School	東ニューブリテン州	副校長
	Malabanga High School		副校長、数学教科主任（男性）
	Olsh High School		副校長
	Koyari High School	POM	副校長、数学教科主任（男性）
初等教員養成校	Enga Teacher College	エンガ州	副校長、女性教師、男性教師、生徒の母親・父親、女子生徒
	Gauline Teacher College	東ニューブリテン州	校長・副校長を含む教師 15 名
	Divine Word University		校長含む教師 10 名
	Sonoma Adventist College		校長、男性教師
	Sacred Heart Teacher College	POM	校長・副校長を含む教師 6 名、男子生徒、女子生徒

（出典：筆者作成）

表 15 今次調査での初等学校、中等学校、初等教員養成校における聞き取り結果

種別	地域	学校名	教育へのアクセス	教育の質
初等学校	エンガ州	Wabag Primary School	-生徒の男女比はおおよそ6:4。 -教師の男女比は逆に4:6と女性教師が多い。 -男女の就学率の差は改善してきているが、以前男子生徒数が女子生徒よりも多く、進学率も男子生徒のほうがよい。初等学校卒業後の進学率は約60%であるが、その中の男女比はおおよそ4:1である。	-低学年時に男女の成績差はないが、高学年になるとよい成績を取る生徒のうち男子生徒の割合が増える。 -(女性教師)男子と女子の授業内容の理解はほぼ同じ。理解度により深く影響しているのは、教師の質と家庭環境(特に両親の教育レベル)。 -(男性教師)男子と女子の授業内容の理解はほぼ同じ。授業の理解度は、生徒自身のIQ、適切な教材があるかどうか。女子生徒の場合は、近隣で部族紛争が起きると安全性の観点から両親が学校に通学させがらず、授業から遅れてしまうことがある。
	東ニューブリテン州	Kabaleo Primary School	-生徒の男女比はおおよそ1:1。若干男子生徒が多い。 -教員の男女比は1:3 -東ニューブリテン州ではGrade 5, Grade 7の最後にベンチマークテストを実施しており、既定の成績に満たない生徒は留年する。昨年はGrade 5, Grade 7ともに約半数の生徒が留年した。	-近年、理数科を含め女子生徒の成績が男子生徒より良い傾向にある。 -男子生徒は女子生徒より問題行動が多く、友人の影響で問題行動に手を染めることが多い。
	ポートモレスビー	Bomana Primary School	-生徒数はおおよそ1:1。若干男子生徒が多い。 -教師の男女比は女性教師が85%以上と多い。	-理数科を含め、女子生徒のほうが成績がよい。 -男子生徒は友人の影響で喫煙やチューイングなどにより、勉強への集中力にける傾向にある。
中等学校	東ニューブリテン州	Kokopo Secondary School	-生徒の男女比はおおよそ1:1。男子が若干多い。 -教師の男女比はおおよそ4:6。 -男女の構成比は入学時点ではほぼ同数だが、学年が上がるにつれ女子の退学率のほうが若干高くなる。	-数学は男子生徒は上級数学を選択し、女子生徒は一般数学を選択する傾向にある。同じ成績でも男子は上級、女子は一般を選択する傾向にある。
		Malabanga High School	-生徒の男女比は女子生徒が若干多い。	-数学では男子生徒のほうが女子生徒より成績が良い。 -理数科が得意ではない背景は、教育の質(教科書が十分にない、理科科目では実験器具がないなど)が大きい。
		Olsh High School	-女子中等学校なので、生徒は全員女子。 -教師の男女比はおおよそ3:7 -退学率は低い。	-理数科含めてPNGの中でもよい成績を残しており、2018年度には教育省から表彰された。 -数学は抽象的な概念を扱うため、他の科目と比べると苦手な生徒が多い。
	ポートモレスビー	Koyari High School	-生徒の男女比はおおよそ1:1。女子生徒が若干多い。 -教師の男女比はおおよそ3:7。 -妊娠により学校を休む女子生徒は年間2-3人いるが、1年休学後に復学できるシステムがある。	-理数科を含め女子生徒の成績が男子生徒より良い。 -男子生徒はスポーツなど他の活動に意識が向きがちであり、女子生徒のほうが勉強に集中している。
初等教員養成校	エンガ州	Enga Teacher College	-生徒の男女比はおおよそ1:1 (53%:47%) -教師の男女比はおおよそ7:3。 -男子生徒・女子生徒の留年・退学は大きく変わらない。主な留年・退学理由は病気や成績の悪さ。女子生徒の理由では早婚や妊娠もある。	-男女ともに数学・理科が得意な生徒が多い。もともと中等学校で理数系を専攻していない生徒が多いため。(男女の数学の成績について女性教師は男女で差がないと発言しているが、男性教師は男子生徒のほうが成績がよいと発言している)
	東ニューブリテン州	Gauline Teacher College	-生徒の男女比は、男子生徒のほうが多いが、徐々に女子生徒も増えて男女平等に近づいている。 -教師の男女比はおおよそ4:6。 -退学率は若干女子生徒のほうが高い。女子生徒は妊娠が理由になることが多い。	-数学に関する賞(アワード)は男子生徒がとり続けているなど、女子生徒は理数科(特に数学)が苦手。
		Divine Word University	-生徒の男女比はおおよそ1:1。 -教師の男女比もおおよそ1:1。	-数学の成績は男女とも大きな違いはない。中学時代の理数科専攻状況が教員養成校での成績に影響している。 -授業が英語で実施されるため、英語力が数学の理解においても重要である。
		Sonoma Adventist College	-生徒の男女比はおおよそ1:1 (45%:55%) -教師の男女比はおおよそ4:6。 -退学率は男女とも大きく変わらない。最も大きい理由は学校費用の問題。妊娠により退学する女子生徒は教員養成コース以外のコースを含め年間3-4名。	-男女で理数科の成績に大きな差はないが、理数科は他の成績と比較して男女ともにあまり良くない。中等学校時代の理数科の専攻状況が影響している。
	ポートモレスビー	Sacred Heart Teacher College	-生徒の男女比はおおよそ1:1。 -教師の生徒比はおおよそ6:4。 -年間で1-5名程度、妊娠により学校を離れる女子生徒がいるが、児童保護政策(Child Protection Policy)を取っているおり、多くの場合は2年間休学した後、再入学して教員資格を取得することが多い。	-数学・理科ともに、男子生徒の成績が女子生徒よりよい。 -理数科の得意不得意は中等学校時代の科目選考に影響を受けている。

(出典：ヒアリング結果より筆者作成)

上記における各学校のヒアリング結果から以下のことが言える。

(1) 初等学校

訪問した初等学校3校の男女生徒数の比率を考えると、エンガ州では男女比がおおよそ3:2、東ニューブリテン州およびPOMでは1:1と山岳地方であるエンガ州以外では大きな差はなかった。

また、理数科の成績に関しては、訪問した3校のうち、2校は男子生徒より女子生徒の成績がよく、残り1校は男子生徒と女子生徒の成績はほぼ同レベルだった。女子生徒の成績が良い2校の要因は、男子生徒が友人とのつきあい等により学校をさぼりがちなのに対し、女子生徒はまじめな生徒が多く学習に集中できる環境にいるためとの回答だった。

(2) 中等学校

訪問した中等学校の生徒数の男女比は都市部のためか 1:1 に近い学校が多かった。また、女子の退学の要因として妊娠が複数の学校から上げられた。理数科の成績について女子生徒より男子生徒が数学は得意であるとの意見を 2 校で確認した。他方、男子生徒のほうが理数科が得意であるとの回答をした Malabunga High School で入手した第 10 学年の数学・理科および第 12 学年の上級数学・一般数学の試験結果によると、男女間で顕著な違いが出ているのは上級数学のみであり、他の科目では大きな違いがないことを確認した。全般的に女子生徒は理数科が苦手であるという認識を教師が持っており、実際の成績データを見たときに齟齬が生じている場合がある。このことは教員自身が「女子生徒は理数科が苦手である」というジェンダーバイアスを有している可能性を示唆している。

(3) 初等教員養成校

男女とも理数科目があまり得意ではない状況が確認できた。中等学校の段階で理数科が得意な生徒は 4 年制大学への進学を希望することが多く、相対的に理数科が得意ではない生徒が教員養成校に進学していることが影響しているとみられる。理数科が得意でないまま初等教員になる場合、特に初等学校の高学年の授業において得意ではない項目を飛ばす教師がいることが東ニューブリテン州教育局視学官への聞き取りで判明した。

(4) 州教育局

地方全体の傾向をみるために、学校の他にエンガ州および東ニューブリテン州の州教育局のヒアリングを実施した。同ヒアリングを通じて、エンガ州では部族紛争が起きている場合、両親が安全への配慮から女子生徒を通学させないケースがあることを確認した。一方、東ニューブリテンの都市部での調査では女子の成績のほうがよいこと、エンガ州で学校における男女平等推進により女性の医者やエンジニアが誕生しているなど、ジェンダー平等な教育が女子生徒や女性の状況により影響をおよぼしていることが確認できた。

表 16 今次調査での州教育局における聞き取り結果

州	教育へのアクセス	教育の質
エンガ州	<ul style="list-style-type: none"> エンガ州の 192 校のうち運営されているのは 156 校であり、残り 36 校（約 20%弱）が部族紛争や遠隔地ゆえの教師不足の理由で閉鎖している。 近年、女子の就学率は改善しているが、近隣で部族紛争が起きている場合、両親が女子生徒を通学させない場合がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 20~30 年前までは男女平等などジェンダーに関する配慮はなかったが、現在は重要な教育政策の一つであり、教育における男女平等が推進された結果、エンガ州でも女性エンジニアや女性医師が誕生している。
東ニューブリテン州	<ul style="list-style-type: none"> 州全体では 360 前後の初等学校、15 の中等学校、8 の職業訓練校がある。初等学校のうち約 5%は遠隔地域にあり、また、同地域の居住者（生徒の両親）が食料や職業を求めて移動する傾向にあるため、生徒数が少な 	<ul style="list-style-type: none"> 都市部（ココボ）における教育状況調査によると、全体的に女子生徒の成績のほうがよい。 初等学校の 8 科目の中で理数科、特に数学の成績が良くない。特に問題なのは高学年の Grade 7 と Grade 8

	くなり閉校しているケースがある。	で、内容に自信がない教師は該当のトピックを飛ばすことがある。
--	------------------	--------------------------------

(出典：筆者作成)

2.2.2. 聞き取り調査結果の考察

次に、PNGにおけるジェンダーにかかる教育課題（特に女子の就学率の低さや成績の問題）の要因を主に今次調査のヒアリング結果を基に、以下のとおり整理する。

女子の就学率、進学率の低さは、両親の教育に対する意識の影響が強いと推察される。外的な要因としては、通学路や学校内の安全性への不安、女子トイレ等の不十分なインフラなどにより、両親が女子の安全性や健康が害されることを懸念して、学校に通わせることをためらうことが考えられる。また、女子は男子と違い、結婚して他の家族の一員となることから、両親が教育を受けさせることに消極的になる場合がある。この傾向は、農村部など男性優位の考え方が強い家庭やコミュニティでさらに強い傾向があるといえる。

また、教育の質に関しては、教員の質の影響が大きく、教員が教える科目の内容を十分に理解しているかどうかは、男女双方の教育に大きく影響すると推測される。ジェンダーに関わる課題としては、教師が女子生徒は理数科が苦手という自身のジェンダーバイアスに基づき女子生徒の理数科選択を止めるなど、ステレオタイプにより生徒の学習意欲をそぐような場合に問題が生じる。

表 17 PNG における教育のジェンダー課題の要因に関するインタビュー結果

教育へのアクセス	需要側の要因	経済的要因	<ul style="list-style-type: none"> ・ 教育費が十分でない場合、家庭・地域によっては男子の教育が女子より優先される場合があるという意見がエンガ州で出された。東ニューブリテン州では以前同様の傾向があったが、近年は性別ではなく成績によって判断する家庭が増えているとのこと。 ・ 女子は年齢が上がるにつれ家事や農作業手伝いなどのため、家で働くことを求められ、勉強の時間が十分に取れないという問題が政府関係者やドナーから指摘された。
		社会・文化要因	<ul style="list-style-type: none"> ・ 女子は結婚をして他家族の家に行くため、高度な教育を受ける必要がないという考えを両親が持つことがあるという意見がエンガ州で出された。 ・ 早婚・妊娠により、学校を中退せざるを得なくなるという意見が中等学校および初等教員養成校を中心に訪問した全調査地域で聞かれた。
		政治的要因	<ul style="list-style-type: none"> ・ 主にエンガ州において、部族紛争がある地域や遠隔地域にある学校など、通学時の安全性に問題がある場合、特に女子の教育が阻害されるとの意見が出された。
	供給側の要因		<ul style="list-style-type: none"> ・ 女子寮、女子トイレ、手洗い・水飲み場の数が不十分なことが、女子生徒の通学を妨げる要因となっているという意見が教育省、高等教育省等の政府機関で出された。 ・ 学校内で男子生徒から女子生徒へのからかいや嫌がらせがあるとの意見がエンガ州で出された。
教育の内容・質			<ul style="list-style-type: none"> ・ 教員の質：教員が意識的もしくは無意識的に男子生徒を男子生徒のほうが女子生徒より優れているように扱うと、女子生徒の学習に対する意欲が減退するという経験が教員養成校教師により語られた。また、ジェンダーに関わらない課題として、教師の欠席、不十分な知識・能力があげられた。十分な能力を持たない教師は、苦手な項目を飛ばすことがあるので、生徒は

	<p>必要な知識が習得できないという課題があることが指摘された。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 学習時間の不均衡：地域によっては、女子生徒は男子生徒と比較して学校に通えない期間が発生しやすい（学校および通学路の安全性に問題がある場合、女子トイレ等が完備されておらず生理期間中に通えなくなるなど）ことがドナーから指摘された。
--	-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

（出典：「基礎教育分野のためのジェンダー主流化の手引き」表1の枠組みを参考にヒアリング内容に基づいて筆者作成）

2.2.3. PNGにおける政府機関におけるジェンダー関係の取組み

今次調査で訪問した PNG 政府機関におけるジェンダーに関する取り組みを下表にまとめる。女性開発局を有するコミュニティ開発省、ポートモレスビーを担当する首都区ジェンダー局ではジェンダー全般に関する取り組みを実施している。司法省や警察の家族・性的暴力ユニットはその組織の性質上、主に家庭内暴力等のジェンダーに基づく暴力への取り組みを実施している。

表 18 政府関係機関でのジェンダーに関する取り組み

組織	ジェンダーに関する活動・取組
コミュニティ開発省	<ul style="list-style-type: none"> ・ コミュニティ開発省内の女性開発局では、ジェンダーに関する政策立案や他省庁に対するジェンダーにかかる政策のアドバイスを実施している。 ・ 女性フォーラム（Women Forum）、男性フォーラム（Men Forum）を開催し、関係政府機関、コミュニティーリーダーなど関係者間の理解醸成の場を提供している。昨年は女性フォーラムで、女性のリーダーシップ向上について、男性フォーラムでジェンダーに基づく暴力の防止について討議した。 ・ 収入向上に資するライフスキル研修を実施している。 ・ 2020年には「女性とジェンダー平等の国家政策 2011-2015（National Policy For Women and Gender Equality 2011-2015）」のレビューを実施する予定である。
司法省	<ul style="list-style-type: none"> ・ 司法省は各政府機関への法的な助言の提供をはじめ、警察や裁判所等の監督など法律や司法に関する領域を管轄している。 ・ 2013年に制定された家族法（Family Protection Law）では家庭内暴力への対応（例：暫定的保護命令：Interim Protection Order）がなされているが、裁判所における解釈が課題である。家庭内暴力は家族内で解決するものという慣習的な考えを変えるため、裁判所判事向けの研修を実施している。
警察 家族・性的暴力ユニット	<ul style="list-style-type: none"> ・ 家庭内暴力や性的暴力を受けた女性に対する窓口機関として、。ポートモレスビー以外では22州のうち19州に同様のユニットがあり、ポートモレスビー内では9拠点ある。 ・ 家庭内暴力や性的暴力に関する犯罪情報はまだ整備中であるが、ボロコ地域のみ統計によると、女性に関する犯罪で多いのは①強姦、②姦通、③言葉による侮辱であり、ポートモレスビーの他地域でもおおよそ同じ傾向がみられる。 ・ 犯罪通報が増加してきたが、犯罪数の増加というより、もともと訴えることがなかった女性が自分の権利に気づき、通報しだした側面もある。 ・ 女性被害者へ追加的な支援が必要な場合は、裁判所、家族サポートセンター、カウンセリング機関、法的機関、セーフハウス、福祉機関などへ照会する。
首都区ジェンダー局	<ul style="list-style-type: none"> ・ ポートモレスビー内を対象に、①ジェンダーに基づく暴力、②経済的エンパワメント、③リーダーシップを重点領域として活動している。 ・ ジェンダーに基づく暴力については意識啓発活動を実施している。 ・ 経済的エンパワメントでは、女性グループを対象とするため、まずは

	<p>女性グループの形成と研修ニーズなどデータ収集を実施している。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ リーダーシップに関しては、上記女性グループのリーダーに対する研修を実施している。
--	------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

(出典：現地調査時のヒアリング結果に基づき、筆者作成)

2.2.3. PNGにおける他ドナーのジェンダーに関する取り組み

(1) UN Women

UN Women の PNG における主な取り組みは下表のとおり。特に Safe City Programme は Safe Bus Programme とも連動し、マーケットおよびマーケットまでの公共交通機関の改善を図るもので、マーケットをエントリーポイントとすることで、ジェンダーに関するさまざまな課題の改善に取り組んだ。公教育分野に関する取り組みは今のところないが、成人識字教育や若者への意識啓発キャンペーンなどは活動の中で実施している。

表 19 UN Women による PNG における主な活動

活動名	概要
Safe City Programme	<p>2012 年から 2019 年にかけてポートモレスビーで実施し、2020 年現在は他地域への拡大を計画している。マーケットをエントリーポイントとして、女性の主要な課題（マーケットにおける暴力や不当な搾取、マーケットの販売者の多くが女性であるにも関わらず女性の意見が反映されていない運営方法など）に統合的に取り組んだ。</p> <p>活動を実施する際に課題だったことは、組織的な変化を起こすこと。政治的影響を受けることが多いため、主要な政府機関との関係構築には時間をかけた。また、公平なマーケットフィーシステムの導入に際しては、不公平なフィーの徴収によって利益を得ている既得権益層を納得させることが課題であり、時間がかかった。</p>
Safe Bus Programme	<p>PNG 女性の約 90% がバスなど公共の場で何らかのセクシャルハラスメントを受けた経験がある。公共の場での女性に対する暴力やセクシャルハラスメントを防止するため、現地 NGO (Ginigoada) と共同して、女性専用バスの運用を開始した。女性専用バスだけでなく PMV などの公共バスの運転手への研修を実施することで女性が安全に移動できるようにすることも目的としている。</p>
Spotlight Program	<p>同プログラムは EU、UNDP、UNICEF と共同して家庭内暴力の防止のため、全国 11 か所（山岳地域、ポートモレスビー、東ニューブリテン、セピックなど）で実施している。既存の家庭内暴力被害者に対するサービス提供機関（現地の病院、警察、市民社会など）と協力することで、公的な領域ではない家庭へアプローチしている。</p> <p>具体的には大学 (Pcific Advanced University) が開発した Family Program を活用し、夫婦間の日々の活動を列挙したうえで、負担を平準化するためにどのような協力が可能か、家計をどのように管理するかなどの話し合うところから始める。家計収入向上など男女ともにインセンティブを感じる目的を設定して取り組むことが重要である。</p>
Political Decision Making Programme	<p>女性国会議員が 0 であるという現状を変えるため、2019 年より 4 年間のプログラムとして開始した。いきなり国会議員を目指すことは困難であるため、地域レベル (Province, District) における女性の参画を促している。</p>

(出典：ヒアリング結果に基づき、筆者作成)

(2) 現地 NGO

UN Women と協働する現地 NGO として、主に研修や意識啓発活動を実施している 2 団体を訪

問した。いずれの団体も内容は違えど、女性を含む対象に対して意識啓発および研修を実施しており、特に就職や収入向上につながる技術研修や起業家育成の研修の需要が高い。

表 20 現地 NGO の活動

団体名	活動内容
Ginigoada	<ul style="list-style-type: none"> ・ 職業訓練プログラム（2011年～）および就学前児童プログラム（2017年～）を実施している。職業訓練プログラムは、移動式研修（Mobile training program）後、希望者が技術研修（Skill training program）に進む。 ・ 移動式研修ではビジネスや金融リテラシーなど職業につながる研修が主だが、研修コースによっては Gender and Gender-based Violence を含み、男女の参加者が一緒になぜ暴力が起こるのか、どのように解決すべきかを協議することで、ジェンダーに基づく暴力の防止につながっている。 ・ 技術研修の一環として、2018年の UN Women の Safe Bus Program と連携して女性のバス運転手 48 名を育成した。
Women Business Resource Center	<ul style="list-style-type: none"> ・ 定期的な活動として、モチベーション、デジタルマーケティング、ファイナンスの研修を実施しているほか、起業家育成の研修を実施している。 ・ 研修後、参加した女性同士の交流の場となり、関心分野の近い女性たちがグループを形成して起業するケースもある。グループを形成しない場合でも情報交換等ネットワークの場として役立っている。 ・ 男性向けの意識啓発活動は実施していないが、男性が研修を受講した際に男性向けにセンターの意義や活動内容を紹介している。研修に参加した男性はセンターの理念に賛同している。

（出典：ヒアリング結果に基づき、筆者作成）

2.3. まとめと考察

文献調査および現地調査の結果から、PNGにおけるジェンダー全般の状況および教育分野のジェンダー状況についてまとめる。

2.3.1. ジェンダー全般

PNGのジェンダー課題の背景には男性優位な社会規範があり、この伝統的な社会規範から生じた慣習（固定的な男女の役割分担、家父長制、婚資等）の影響を受けて、女性が十分に活躍しづらい環境がある。こうした状況を改善するためには、時間はかかるがPNGにおける男性および女性双方の意識を、男性優位な社会規範からジェンダー平等な社会規範へを変えていく必要がある。

PNGでは、ジェンダー課題は政府により分野横断的な課題として認識され、PNG Vision 2050をはじめとした中長期的開発計画においてジェンダー平等の推進を掲げている。具体的なジェンダー関係指標を掲げているPNG開発戦略計画2010-2030および中期開発計画III2018-2020では、教育関係の指標の他に、女性・子どもへの暴力撲滅、女性の経済的エンパワーメント、女性の政治活動への参加に関連する指標を掲げており、これらの視点は「女性とジェンダー平等のための国家戦略2011-2015」においても重点分野として取り上げられている。

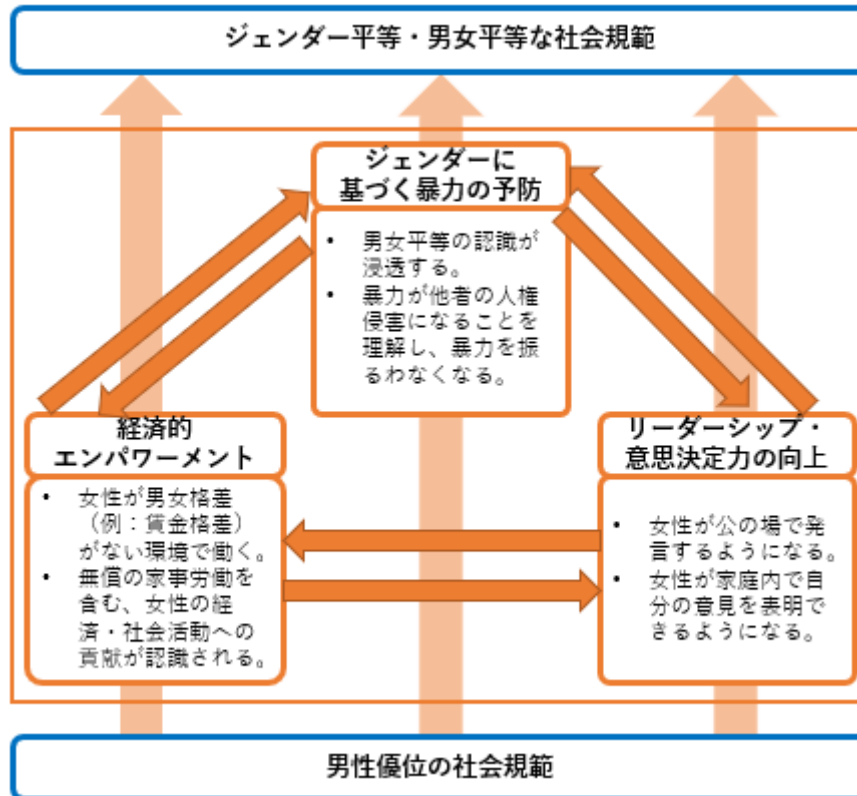
また、今次調査で訪問した政府関係機関においても、下表のとおり、ジェンダー全般について取り組んでいるコミュニティ開発省女性開発局および首都区ジェンダー局では、ジェンダーに基づく暴力の防止、女性の経済的エンパワーメント、意思決定力・リーダーシップの向上の3つの視点を含む活動がされており、上記の政策文書と共通点がある。

表 21 ジェンダーに関する視点と PNG の政策・政府機関との関係

分類	政策名/組織名	ジェンダーに基づく暴力の防止	経済的エンパワーメント	リーダーシップ・意思決定力の向上
政策	PNG 開発戦略計画 2010-2030	○	○	
	中期開発計画 III2018-2020		○	○
政府機関	コミュニティ開発省女性開発局	○	○	○
	司法省	○		
	警察 家族・性的暴力ユニット	○		
	首都区ジェンダー局	○	○	○

(出典：筆者作成)

このことから、上記の3つの視点、(1)ジェンダーに基づく暴力の防止、(2)経済的エンパワーメント、(3)リーダーシップ・意思決定力の向上の3点を通じて、PNGにおけるジェンダー平等な社会規範を実現する可能性を検討する。



(筆者作成)

図 13 ジェンダー平等を実現するための3つの視点

(1) ジェンダーに基づく暴力

ジェンダーに基づく暴力の影響は一般的に多岐にわたり、長期的かつ深刻なものが多いとされる。身体的な被害としては暴力による傷害や、レイプによる HIV/AIDS や性病への感染などの健康被害があり、精神的なトラウマをうけてその後の社会生活の復帰に支障をきたすこともある。さらに、上記のような被害を受けることで、被害者は経済的な損失（病気の治療費、治療や法的手続きのため仕事に行けず収入を失うなどの機会損失）を被ることが多い³¹。このようにジェンダーに基づく暴力の被害の影響は多岐にわたるのみならず、その回復には長期的な時間を要するため、被害が発生する前に予防することが重要であるといえる。

PNG では、家庭内暴力、性的暴力、魔女狩りなどジェンダーに基づく暴力がいまだ発生しており、その頻度は低くない。これらの暴力は男性優位の社会規範を反映していることが多く、家庭内暴力では夫は自分が支払った婚資を引き合いに出して、自身の妻に対する暴力を正当化する場合がある³²。また、女性自身がこうした暴力を結婚生活における怠惰や不従順に対する「しつけ」として受け入れてしまうこともある。今次調査の聞き取りにおいても、女性に対する暴力が起こる一番の原因は男性が女性のボスであるというマインドセットを男女ともに持っていることとの指摘があった³³。このことから、PNG におけるジェンダーに基づく暴力は、男性および女性双方

³¹ JICA (2019) 「アフリカ地域紛争影響国におけるジェンダーに基づく暴力課題への対応に係る情報収集・確認調査報告書」 p.2-3

³² 馬場淳「保護される人権、切り裂かれる社会—パプアニューギニアにおける反 DV 政策の功罪—」 p.91-92

³³ 警察 家族・性的暴力ユニットやエンガ州における聞き取りより。

の意識、および、それを形作る伝統的な社会規範や慣習と深く結びついており、PNGでジェンダー平等な社会を実現するにあたって避けては通れない課題であるといえる。

上記の状況を受けて、PNG政府は「ジェンダーに基づく暴力に対する予防および対応の国家戦略 2016-2015 (Papua New Guinea National Strategy to Prevent and Respond to Gender Based Violence 2016-2015)」を制定し、ジェンダーに基づく暴力を重要な課題として認識している。また「女性とジェンダー平等のための国家戦略 2011-2015」においてもジェンダーに基づく暴力を第一に優先すべき課題として設定するとともに、PNG開発戦略計画 2010-2030において2030年までの目標として「女性と子供への暴力撲滅」を掲げている。

ジェンダーに基づく暴力に対する予防策を取ることは、女性が大きな被害を受けやすい問題を予防するとともに、その背景にある男性優位の社会規範を見直し、男性と女性が平等に対等に生活する社会を作るためのきっかけとなりうる。このことから、ジェンダーに基づく暴力の予防はPNGにおけるジェンダーに関する取り組みにおいて必須であるといえる。

(2) 経済的エンパワーメント

女性の収入が増えることにより自身で自由に扱える資金ができると、女性は男性と比較して、福祉関連(家族の栄養、保健、子どもの教育など)を重視³⁴して支出する傾向がある。そのため、女性の収入が増加しその収入を自由に扱える場合、家族の栄養状態が改善したり、子どもの学校へ通学させるなど、家庭にとって正の効果が出ることが見込まれる。

PNGでは、女性の労働参加率は高いものの、男性よりインフォーマルセクターで働く割合や賃金が低い労働に従事する割合が多い。また、マネジメント層や技術職に占める割合も男性と比較して大きく下回っているため、相対的に賃金が低い状況に置かれている。これらの状況を改善するためには、男女格差がない労働環境と女性が職に就くために必要な知識・技能を身につける必要があり、特に正規雇用の職につこうとした場合に教育を受けることは必須である。また、今次調査のヒアリングにおいて、家庭にいる女性は男性に従うものと思われるが、働いている女性は尊敬・尊重される³⁵との意見があり、収入だけではなく正規雇用の職に就くことが、女性の家庭内や地域での地位を向上させる影響があると推察される。

また、PNG政府は1人当たりGDPおよびジェンダー開発指数を比較した際に、国の発展とジェンダー平等に正の相関関係がみられることから、女性の経済活動への参加を推進しており、「PNG開発戦略計画 2010-2030」や「中期開発計画 III 2018-2022」において女性の経済的エンパワーメントを指標にしている。これらの状況からPNGにおいて女性の経済的エンパワーメントがジェンダー平等推進に果たす役割は重視されているといえる。

一方、女性の経済的エンパワーメントの実現に際しては、多くの家庭において女性が家事労働を無償で行っている点について留意する必要がある。途上国では女性のほうが男性より長く働いている³⁶傾向と同じように、UN WomenがPNGにおいて実施した夫婦間の日常労働の比較調査によると、多くの家庭において女性の労働時間が男性より長いことが判明している。女性の労働を検討する際は、家庭外での労働と家庭内での家事労働の双方により、女性に過度な労働負担がかかっていないかどうか、配慮する必要がある。また、母親の家庭外での仕事につき、家庭内の家

³⁴ UNICEF (2007) 世界子供白書 p.23

³⁵ エンガ州の初等教員養成校の男性教員への聞き取りより。

³⁶ UNICEF (2007) 世界子供白書 p.38

事労働の時間が十分に取れない場合、その子ども、特に女子が家庭内での労働の分担を求められ、その子どもの教育が犠牲になる可能性がある点も留意すべきである。

(3) リーダーシップ・意思決定力の向上

本項目は、家庭内での意思決定と国・地域レベルにおける政治参加に分けて検討する。家庭内での意思決定における影響力の度合いを決定する主な要因として、所得・資産の使途の決定権、年齢差、教育レベルなどがある³⁷とされる。所得・資産の使途の決定権は収入と関係しており、上記の経済的エンパワーメントでも記載したとおり、所得が大きいほどその用途の決定権を認められる。年齢と教育レベルは高いほど、家庭内における意思決定力が高くなる。PNG 特有の状況としては、伝統的な男性優位の社会規範の影響から、家庭内において女性の発言力は弱く、女性は男性に従うものと考えられている。

また、家庭外における公的な場では女性の発言や意見が尊重されてこなかったことから、PNG における女性の発言力は家庭外においても極めて低い。女性国会議員数が 0 であることは、政治や社会において女性の意見やニーズが反映されにくい状況であることを示している。

こうした状況を変えるべく、PNG では「中期開発計画 III 2018-2022」において、現在 0 名の女性国会議員数を 2022 年までに 5 名にする目標を立てている。また、国会議員数を変えるためには選挙を待たなくてはならないため、より早く女性のニーズを国政に反映できるよう、地域女性代表として女性 4 名を選出し、国会討議に参加させるという提案が協議されている。

こうした背景から、家庭内および地域・国家レベルで女性のリーダーシップや意思決定力の向上を図ることはジェンダー平等推進の観点から重要であるといえる。

(4) 3つの視点の相互関係

上記の 3 つの視点は独立したものではなく、相互に関係しあっている。例えば、家計支出を分担することができる女性は世帯内の意思決定における発言権も高まる³⁸という調査結果にみられるとおり、女性が経済的にエンパワーメントされることでリーダーシップ・意思決定能力の向上に貢献することがある。逆に、女性が公の場で発言する能力を付けることで、女性がより幅広い職業で活躍できる可能性が広がったり、経済活動における男女間の格差（例：賃金格差やマネージャー・経営者層における女性の少なさ）について問題提起できるようになる。

2.3.2. 教育におけるジェンダー課題

(1) 初等学校・中等学校における教育へのアクセス

学校へのアクセスについて、PNG 全体において初等学校から中等学校と学年があがるにつれて、女子の就学率および進学率が低くなる傾向が文献調査の結果からわかった。現地調査では比較的都市部の学校に訪問したため、山岳地方のエンガ州を除くと男女比はほぼ 1:1 と大きくはなかった。アクセスに関しては、本調査では直接は訪問できなかったものの、PNG 全体の傾向と今回訪問した都市部の状況を比較すると、農村部の学校の課題が大きいと推察される。

³⁷ UNICEF (2007) 世界子供白書 p. 22

³⁸ UNICEF (2007) 世界子供白書 p.32

女子生徒が学校を休学もしくは中退する要因として、通学の際の安全性や女子トイレ等学校設備の不十分さなどで両親が学校へ行かせない場合や、経済的な要因や必要性への疑問からで女子の教育を断念する場合などが聞き取り結果から確認できた。これらの要因のうち、安全性や設備の不十分さ、経済的要因など外的な原因が解決されれば女子が教育を受けられるようになる場合と、両親が女子に教育を受けさせる必要性を感じていない場合の2種類がある。前者については、外的な問題が解決されれば就学率が改善するが、後者については本人が教育を受けたい、継続したいと考えている場合でも教育を受けることが困難になるため、そうした意識事態を変えていく必要がある。

(2) 初等学校・中等学校における教育の質

理数科の成績に関しては、文献調査によると初等学校の算数は女子生徒より男子生徒の成績が良いことが示された一方で、実際に訪問した3校のうち、2校は逆に男子生徒より女子生徒の成績が良いとの回答だった。この要因は、男子生徒が友人とのつきあい等により学校をさぼりがちなのに対し、女子生徒のほうが学習に集中できる環境にいるためであり、学習環境が整っていれば女子生徒は理数科の内容を問題なく理解できることを示唆している。このことは、女子生徒にとって学習環境が整っていない学校が多く残っていることを示している。また、アクセスの問題にかかわるが、女子トイレなどが整備されていないため、生理期間中に学校に行かなくなる³⁹など、アクセスの問題が教育の質に影響することもありえる。

中等学校に進むと、一部の理数科目（上級数学、化学、物理）ではそもそも選択する女子生徒の割合が低く、かつ、成績も若干男子生徒より低いという結果が文献調査からみられた。第12学年時における成績全体でみると、女子の成績が男子よりよいため、相対的に女子生徒は理数科目が得意ではないと考えられる。

科目選択については、女子生徒が理数科を選択しない傾向にあることは現地調査の聞き取りでも同様の結果であり、理数科は男子が学ぶものといったステレオタイプや周囲の同性の友人が理数科を選ばないといった環境が原因となっていることがみられた。こうした状況を変えるために、中等学校教師の一部は理数科が得意な女子生徒に対して理数科コースの選択を奨励していた。

(3) 初等教員養成校における教育のアクセスと質

初等教員養成校においては、女子生徒数が半数を上回る養成校が多く、これは初等教員が女性にとって就業しやすい公的な職業であることを示している。理数科の成績は、男女生徒ともに他科目と比較して苦手で成績が低いとの発言が多くの教員養成校で得られた。その主な要因は、中等学校の時点で理数科が得意な生徒は大学等他の高等教育機関に進み、理数科が苦手で中等学校において選択していない生徒が初等教員養成校に進学しているためである。州教育局へのヒアリングによると、初等学校の一部の教員で自信がない項目の授業を飛ばす教員がいるとのコメントがあった。理数科が苦手なまま初等教員になった教員が初等学校において理数科が苦手な生徒を再生産するという悪循環が起こっているケースがあると推察される。そのため、初等教員養成校において理数科目の内容をしっかりと理解することが、初等学校における理数科のレベルを上げるためには必須であるといえる。

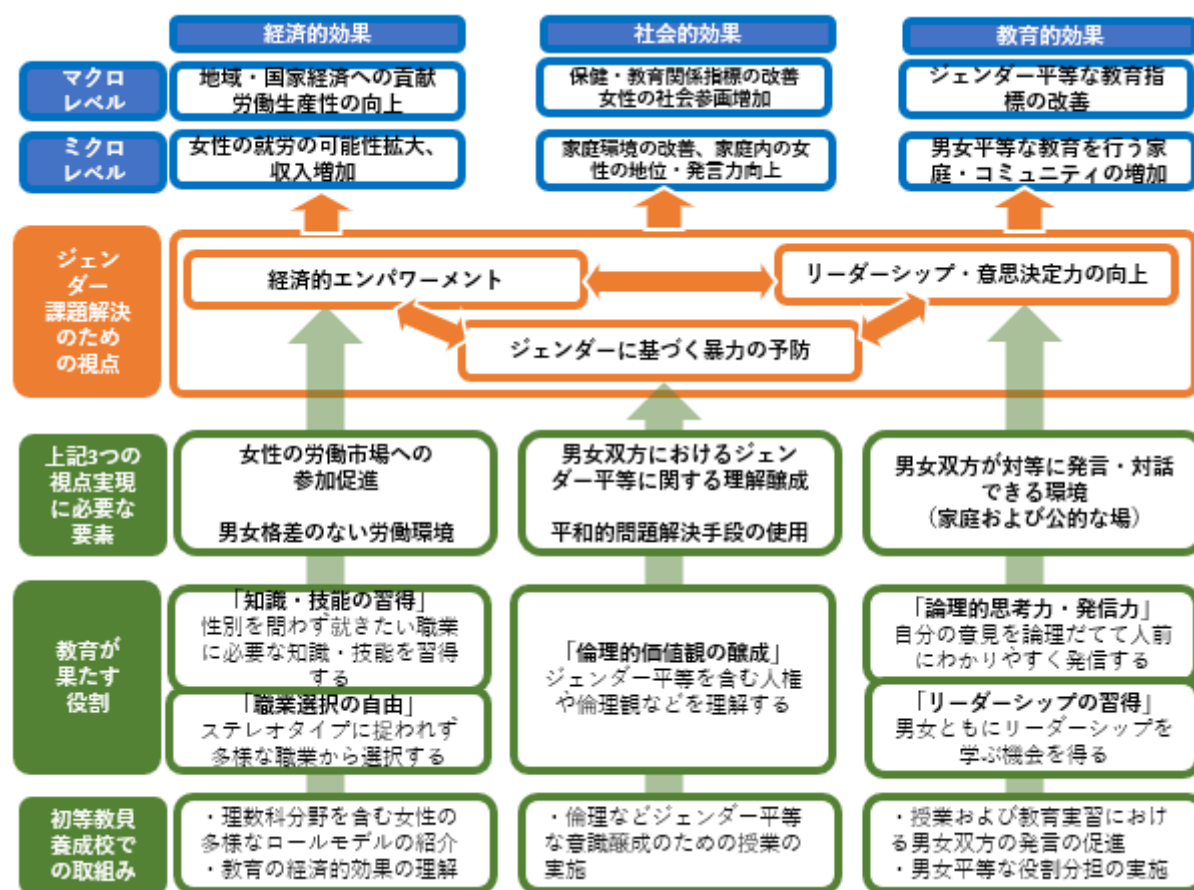
³⁹ UN Women におけるヒアリング結果より。

第3章 提言

3.1. PNGにおけるジェンダー平等実現に関する中長期的かつ包括的取り組み

PNGにおけるジェンダー平等実現に関する長期的かつ包括的取り組みの方向性として、第2章2.3.1で①ジェンダーに基づく暴力の予防、②経済的エンパワーメント、③リーダーシップ・意思決定力の向上の3点を提案した。PNGでは伝統的・文化的背景から男性が女性に対して優位であるという社会規範が根強く、家父長制や婚資などの慣習や、社会や労働における固定的な男女の役割によって男性および女性の意識に内在化されている。こうした社会規範や慣習から、ジェンダーに基づく暴力や教育を含む様々な分野でのジェンダー課題が生じているといえる。こうしたジェンダー課題を解決するためには、各分野での対症療法だけではなく、社会規範や慣習に基づく人々の意識を変える必要がある。

2.3.1で記載したとおり、ジェンダーに基づく暴力の予防、経済的エンパワーメント、リーダーシップ・意思決定力の向上という3点は相互に影響しあうものであり、女性が暴力を受けず安心して暮らせる環境で、経済的に力をつけ、発言力を増すことで、家庭などマイクロレベルおよび国家・地域などマクロレベルで、以下の図に挙げるような経済的・社会的・教育的効果を発揮することが期待できる。



(出典：筆者作成)

図 14 ジェンダー平等実現のための取り組み案に関する関係図

具体的な提案としては上記の図のとおり、教育（学校）をエントリーポイントとした提案を行

う。2章の調査結果のとおり、学校ではすでにジェンダー平等の方針が打ち出されており、教員はその他の職業と比較して女性が活躍しやすい職場であるため、教育現場は PNG においてジェンダー平等を実現しやすい場であるといえる。また、人口の 36%が 14 歳未満の若年層⁴⁰である PNG において、教育現場でのジェンダー平等が実践できれば、PNG における男女平等の実現に大きく寄与すると考えられる。

3.2. 教育セクターが果たすべき役割

ジェンダー平等実現を目指すうえで教育および教師が果たす役割は大変重要である。一般的に大人になってから習得済みの価値観を変えることはハードルが高く、既存の固定概念やバイアスがない子どものほうが過去のステレオタイプにとらわれず男女平等の概念を受け入れやすい。

上記に挙げたジェンダー平等実現のために訴求すべき 3 点は、教育（学校）をジェンダー課題解決のエントリーポイントとすることで、いずれも対応可能である。実際に本調査における学校での聞き取りを通じて、特に都市部の学校内においてジェンダー平等方針が掲げられ、男女生徒それぞれに対して平等に教育を推進しようとする姿勢および取り組みが確認できた。以下の表において、3.1 の図で記載した教育における役割を詳細に説明する。

表 22 ジェンダー課題解決において教育セクターに期待される役割

カテゴリ	教育セクターに期待される役割	見込まれるインパクト
ジェンダーに基づく暴力の防止	<p><倫理的価値観の醸成></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 授業（自己啓発（Personal Development）、ミッション系学校での宗教の時間など）を通じて、人権や男女平等について教える時間を持つ。 ・ 学校内の行動規範やルールにジェンダー平等や暴力禁止の視点を組み込み、違反すると警告や処罰を受ける。 ・ 学校がジェンダーに基づく暴力に関する意識啓発の場として機能する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 学校における授業を通じて、男子生徒・女子生徒双方が倫理的価値観や男女平等の意識を持つ。 ・ 女性を含む他者に対する暴力が正しくないものであると理解し、暴力を振るわなくなる。また、暴力が発生している際に注意するようになる。 ・ コミュニティや家庭内に対して男女平等の概念を伝え、ジェンダーに基づく暴力が減少する。
経済的エンパワーメント	<p><知識・技能の習得></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 一般的に教育を受けた女性は、教育レベルが低い女性よりも雇用され、より多く稼ぐ傾向がある。また、男女の教育格差が少ない国であるほど国民総生産がより高く、教育がより平等であるほど国家の生産性が高まる⁴¹。 ・ 就職するには最低限、第 10 学年ないしは第 12 学年を卒業することが必要⁴²とされている PNG において、女子生徒が中等学校を修了することは就職に有利に働く。 <p><職業選択の自由></p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 教育を受けることで女性の職業選択の幅が広がる。

⁴⁰ “Boosting Education Standards Together in PNG (BEST PNG) Program”, p.11

⁴¹ 「教育におけるジェンダー平等」 p.7

⁴² 東ニューブリテン州教育局のヒアリングより。

	<ul style="list-style-type: none"> 学校教育を通じて、中等学校におけるキャリアエキスポなど将来の職業のロールモデル（特に女性にとって新しい領域である理数科や政治関係の職業）に接する機会をもつ。 	<ul style="list-style-type: none"> 女子生徒に対して理数科分野を含むより多様な職業選択の機会を提供する。
意思決定・リーダーシップの向上	<p><論理的思考力・発信力></p> <ul style="list-style-type: none"> 学校教育を通じて、論理的思考を身に着け、自分の意見を整理して、他者に発信する機会を持つ。 <p><リーダーシップの習得></p> <ul style="list-style-type: none"> 学級委員等、学内においてリーダーシップを学ぶ機会が男女平等に与える⁴³。 	<ul style="list-style-type: none"> 公的な場での意見の発言機会が少ない女性にとって、意見を発信する訓練となる。 女子生徒が生徒代表組織などにおいてリーダーシップを取る機会を得ることで、女性の政治参加の練習となる

(出典：筆者作成)

ジェンダーに基づく暴力の防止の項目で挙げた、自己啓発 (Personal Development: PD) の授業は初等学校の第 6 学年から第 8 学年まで設定されている。倫理、平等、文化、価値観などについて学ぶことになっており、平等の項目では男女間の平等についての記載⁴⁴がある。また、学校には政府系とミッション系があり、ミッション系の学校では宗教の時間に人権・倫理教育が実施される傾向にある。女性への家庭内暴力が多い地域での聞き取りにおいて、家庭内で暴力がない理由として夫が敬虔なクリスチャンであることが挙げられるなど、キリスト教の精神が人権や男女平等の考え方に影響を及ぼしていると推察される。このため、こうした宗教の時間において、単なる人権や倫理にとどまらず、ジェンダーに関する暴力を防止するためには何をすべきかなど具体的なテーマを設けることで、生徒がジェンダー平等な価値観を深く学ぶことができる。

3.3. 初等学校および初等教員養成校で取り組むべきジェンダー格差是正支援活動

本項目では 2019 年 7 月に実施されたジェンダー調査結果も考慮したうえで、今回の調査結果に基づき、ジェンダー格差是正活動案を検討する。初等学校、初等教員養成校における取り組みに加え、中等学校が将来の職業を含めて進路選択を行う段階であることを考慮して中等学校を加えた、初等学校、中等学校、初等教員養成校においてとりうるジェンダー格差是正活動を以下に提案する。

表 23 ジェンダー格差是正活動案

種別	ジェンダー格差是正活動案
共通	<p>生徒のジェンダー平等意識醸成のため、以下の取組みを行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ➤ Personal Development 等、倫理・人権に関して学ぶ時間を持つ。その中でジェンダーに基づく暴力の防止についても取り上げる。 ➤ 学校内に行動規範にジェンダーに基づく差別や暴力の禁止について入れる。 <p>教師の無意識を含むジェンダーバイアスを取り除くため、以下の取組みを行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ➤ 教室内ジェンダー平等確保に向けたチェックリストの作成・運用⁴⁵を行う。 ➤ 男女生徒別の成績データを取り、分析する。

⁴³ 実例として、生徒による組織 (Student Representative Council) の代表者を 1 年毎に男女交互にしている例があった。

⁴⁴ 現地調査で確認した現地教科書では「男性と女性が仕事を行う際、職場で平等に扱われるべきである。男性と女性が同じ仕事を行う場合、同額の給与が払われるべきである」といった記載があった。

⁴⁵ 2019 年 7 月に実施されたジェンダー調査の提案内容より抜粋。

	<ul style="list-style-type: none"> ➤ 教員向けの男女格差や学校におけるジェンダーに基づく暴力（School Related Gender Based Violence: SRGBV）等、女子教育に関する課題に関する研修を実施する⁴⁶。 <p>理数科が男性向け科目というステレオタイプをなくすため、以下の取組みを行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ➤ 女子学生に対する効果的な理数科指導に関する教材を作成するため、教材内に女性の日常生活に親和性が高い場面（マーケットでの買い物など）に関する情報を入れる。
初等学校	<ul style="list-style-type: none"> ・ 高学年になると全ての科目を教師 1 名でカバーするのは負担が大きく、得意でない項目をスキップする教師がいるため、教育の質を保つために重要科目については科目選任の教師をおく。もしくは、該当科目が得意な教師を科目主任として苦手な教師が相談できる体制を作る。
中等学校	<ul style="list-style-type: none"> ・ 理数科の成績が良い女子生徒でも理数科目を選択しない傾向にあるため、将来の目標を確認したうえで教師から理数科目の専攻を薦める。 ・ キャリアエキスポなど職業選択を検討する場において、エンジニアや医者など理数科の領域で活躍する女性を招く。
初等教員養成校	<ul style="list-style-type: none"> ・ 教員養成校においてジェンダー平等の視点の重要性を具体的に学ぶため、教育実習の時点で実習を行う生徒向けにジェンダー視点に立った授業評価シートや、チェックリストや教材を使用する⁴⁷。 ・ 理数科の女性教員を身近なロールモデルとして増やす。 ・ 教師向けガイドラインにおいて、理数系の女性（女性エンジニア、女性医師など）が活躍している具体例やそうした女性たちを推進する取り組みの事例など、女子生徒が理数科を学ぶモチベーションを高めるきっかけとなる情報を提供する。 ・ 男女とも中等学校で理数科目を選択していない生徒が多いため、そうした生徒に対して補講授業を実施する。

(出典：筆者作成)

⁴⁶ 2019年7月に実施されたジェンダー調査の提案内容より抜粋。

⁴⁷ 同上。

パプアニューギニア国教育分野におけるジェンダー支援可能性に係る
情報収集・確認調査（ジェンダー主流化）

議事録（2020年1月20日～2月14日）

目次

1.	JICA 事務所での打合せ	3
2.	Local NGO (Ginigoada).....	4
3.	Local NGO (Women Business Resource Center: WBRC).....	6
4.	司法省	8
5.	警察 女性被害相談窓口（家族・性的暴力ユニット）	10
6.	首都区ジェンダー局.....	12
7.	教育省カリキュラム開発局.....	14
8.	高等教育省.....	15
9.	コミュニティ開発省.....	17
10.	UN Women.....	19
11.	Enga Teacher College（副校長）	22
12.	Enga Teacher College（生徒の母親）	24
13.	Enga Teacher College（理数科女性教師）	26
14.	Enga Teacher College（理数科男性教師）	28
15.	Enga Teacher College（生徒の父親）	30
16.	Enga Teacher College（教師）	31
17.	Enga Teacher College（女子生徒）	32
18.	Enga Teacher College（学校施設見学）	34
19.	Wabag Primary school（校長および教師）	35
20.	Wabag Primary school（女性教師）	37
21.	Wabag Primary school（男性教師）	39
22.	Wabag Primary School（スクールカウンセラー）	41
23.	Wabag Primary School（生徒の父親）	42
24.	Wabag Primary School（学校施設見学）	44
25.	エンガ州教育局 (Director).....	45
26.	エンガ州教育局 (視学官).....	46
27.	Gaulim Teacher College.....	47
28.	Sonoma Adventist College.....	49
29.	Divine Word University	51
30.	Kokopo Secondary School.....	53

31.	Malabanga High School (副校長)	54
32.	Malabanga High School (数学科目主任)	55
33.	Olsh High School	57
34.	Kabaleo Primary School (教師)	59
35.	Kabaleo Primary School (JICA ボランティア)	61
36.	州教育局 (州教育アドバイザー)	62
37.	州教育局 (TVET 視学官)	63
38.	州教育局 (初等学校視学官)	64
39.	Sacred Heart Teacher College (教員)	65
40.	Sacred Heart Teacher College (男子生徒)	67
41.	Sacred Heart Teacher College (女子生徒)	69
42.	Bomana Primary School (教員)	71
43.	Bomana Primary School (授業観察).....	73
44.	Koyari High School (副校長)	74
45.	Koyari High School (授業観察)	75
46.	Koyari High School (数学教科主任)	76
47.	Sacred Heart Teacher College (授業観察：数学)	77
48.	Sacred Heart Teacher College (授業観察：理科)	78
49.	高等教育省 (データアナリスト)	79
50.	Human Right Defender	80
51.	教育省カリキュラム開発局.....	82
52.	教育省測定サービス局.....	83
53.	首都区 家庭内・性的暴力対策委員会事務局.....	84
54.	首都区 ジェンダー局.....	85
	別添：教育省・高等教育省における面談にて使用した資料.....	0

1. JICA 事務所での打合せ

会議名	JICA 事務所での打合せ
日時	2020年1月20日(火) 13時30分～15時00分
場所	JICA PNG 事務所
参加者	【JICA 事務所】 鯉沼次長(一部)、清水職員、Mr. Allan 【当方】 三反畑(記)

【今回調査範囲】

- 今回調査範囲について、TV 会議の内容に基づき以下のとおり確認した。
 - 3段階(ジェンダー全般、教育セクター、次期プロジェクト)に対する調査・分析および提言を行うこと。
 - 次期プロジェクトへの提言はもともと同プロジェクトが開始されてから同時並行で実施する予定だったジェンダー調査を先出して実施するもの。そのため活動に取り入れられる具体的な提案が求められる。
 - 次期プロジェクトに関しては既に詳細計画策定調査も完了しており、枠組みが決まっているため、本調査ではジェンダーにかかる活動や指標の提案を行い、その反映に関しては JICA 本部および事務所にご判断いただく。

【今回調査のスケジュール】

- Mr. Allan より今回調査スケジュールの調整状況の説明を受けた。
- 地方出張(エンガ州および東ニューブリテン州)に際しては、Mr. Allan に同行いただく(エンガ州全行程および東ニューブリテン州の前半2日間)。

以上

2. Local NGO (Ginigoada)

会議名	Local NGO (Ginigoada)
日時	2020年1月22日(水) 8:10~9:00、9:00-9:50 2020年1月23日(木) 8:00~8:30
場所	Ginigoada 事務所
参加者	【Ginigoada】 Mr. Robert Evah, Foundation Manager (1月22日、8:10-9:00) Mr. Francis So, Training Manager (1月22日、9:00-9:50) Mr. Robert, Trainer (1月23日 8:00-9:00) 【当方】 三反畑

以下の面談記録について、特段記載がない場合はすべて先方の発言として記載する。

【活動内容】

- Ginigoada は”Stand up strong” (Gini=stand up, Goada=strong)を意味する現地 NGO である。
- ターゲットは就職が困難な若年層で、参加者は初等教育を途中でやめた者もいれば、大学まで修了した者まで多様である。また、女性に関しては、PNG の伝統的な文化の影響（父親が女子に教育が必要ないと考えているケースなど）で教育が十分受けられなかった女性への支援も重視しており、男女とも平等な機会が与えられるべきという理念に基づいて活動をしている。
- 主な活動として、職業訓練プログラム（2011年～）および就学前児童プログラム（2017年～）を実施している。職業訓練プログラムは、移動式研修（Mobile training program）後、希望者が技術研修（Skill training program）に進むことになっている。
- 移動式研修（Mobile training program）
 - 移動式研修は、研修講師2名が必要機材を積んだバスでコミュニティを訪問し、1コース2週間（半日×5日×2週）の研修を提供する。
 - 参加費は無料で、受講後は Certificate を発行する。必要経費はドナー資金でまかなう。
 - 1コース当たりの参加者数は50-60名。講師による講義後、グループワークでディスカッション等を行うことで理解を深める。
 - 研修講師はポートモレスビーで12名おり、元教師、企業で働いていた者など各コースで必要とされる知識を持つ人材を雇用している。
 - 研修アレンジは地域スタッフ（Community region officer）がコミュニティのリーダーと調整する。最近では Ginigoada の活動が浸透してきたため、地域での調整が済んだ後で直接、研修依頼を受けることもある。
 - 場所・時期にもよるが女性参加者のほうが多い傾向にある。研修コースは以下の5種類。

研修	実施地域	備考
Young skills	POM, Lae	研修内容に Gender and Gender-based Violence を含む。
Business skills	POM, Lae	
Financial Literacy	POM, Lae	

Health Skills and First Aid	POM, Central, Lae	
Lifelong Skills	Central	研修内容に Gender and Gender-based Violence を含む。

● 技術研修 (Skill training)

- 移動式研修後、参加者が希望すると技術研修を受講できる。
- 技術研修は1か月間であり、参加者は登録料 (50Kina/人、運転研修のみ 70Kina/人) を支払う。
- 内容はビジネス基礎コースから、大工・エンジニアリングなどの分野別研修など多様なコースがある。男女いずれに対しても職種選択はオープンであり、女性でも大工やエンジニアリングのコースを選ぶことがある。また、2018年のUN WomenのSafe Bus Programでは、女性のバス運転手48名を育成した。
- 活動上の課題としては研修受講者のフォローアップが不十分なこと。主な運営資金がドナー資金によるため研修実施後の成果 (研修受講後の6か月後、1年後にどの程度就職につながったかなど) を求められているが、移動式研修後に別機関の研修にうつった者や自身で就職したものなどのモニタリングはできていない。

● 就学前児童プログラム (Early child development program)

- 就学前児童 (4-6歳) への教育 (つづり、手洗い、栄養など) も実施している。
- 親 (主に母親) も一緒に参加する。

● 研修講師 (Mr. Robert) からの聞き取り内容は以下のとおり (1月23日)。

- 2006年から約14年間Ginigoadaで研修講師として働いている。以前に移動式研修、現在は技術研修 (ビジネス研修) を担当している。
- 移動式研修の1トピックとしてジェンダーがある。同研修では特にジェンダーに基づく暴力をテーマとしており、簡単な講義のあと、参加者同士が①なぜジェンダーに基づく暴力が起こるのか、②どのように解決するかを男女一緒に参加者が協議する。
- GBVの主な原因としては、男性によるドラッグ使用 (マリファナなど)、誤解¹、飲酒、職がないことへのストレスなどで、これらをきっかけとして、男性が女性に暴力をふるう。解決方法としては、主にコミュニティリーダーによる仲裁であり、リーダーは男女それぞれの言い分は個別に2-3回聞き取り、解決方法を提案する。主な解決方法は加害者から被害者への金銭や食料等の支払いが多い。

以上

¹ 携帯を家族で共有している場合、男性宛てにきたメッセージを女性が非識字であるために伝えることができず、もめるケースなど。

3. Local NGO (Women Business Resource Center: WBRC)

会議名	Local NG O (Women Business Resource Center: WBRC)
日時	2020年1月22日(水) 10:30~11:45
場所	WBRC 事務所
参加者	【WBRC】 Ms. Margaret Aila, Program Manager 【当方】 三反畑

以下の面談記録について、特段記載がない場合はすべて先方の発言として記載する。

【Women Business Resource Center (WBRC)の概要】

- 2016年11月にオーストラリアおよび米国の支援により、女性の経済的エンパワーメントを目的として設立された。
- パイロット活動としてポートモレスビーにて、起業や就職を目指す女性への支援活動を実施している。パイロット活動は、2020年末までの予定だが、活動継続のため資金源の確保（メンバーシップフィー、他ドナーの支援）を目指している。また、ポートモレスビー以外からの要望も多いため、他地域（マダン、マウントハーゲン等）での活動も計画している。

【活動内容】

- 定期的な活動として、月曜にモチベーション、水曜に Website 等のデジタルマーケティング、金曜にファイナンスの研修を実施している。研修は会員外も無料で受講可能。
- 基本的に女性向けだが、税金や IPA など公共性が高い研修テーマは男性も受講可能。男性向けの意識啓発活動は実施していないが、男性が研修を受講した際に男性向けにセンターの意義や活動内容を紹介している。研修に参加した男性はセンターの理念に賛同している。
- 最も人気があるのは起業家育成クラス。受講後、女性が起業する分野は、不動産、スキンケア、イベント管理、農業・花卉栽培、コンサルティングなど多岐にわたっている。
- 研修後、参加した女性同士の交流の場となり、関心分野の近い女性たちがグループを形成して起業するケースもある。グループを形成しない場合でも情報交換等ネットワークの場として役立っている。
- 会員になるためには、既定の会費を支払う必要がある。会員になると WBRC の事務所の一角をオフィススペースとして利用できる。児童ケアのスタッフおよびスペースがあるため、小さい子供がいるメンバーも子連れで利用できる。メンバーシップの内容は以下の4種で、現在174名の女性会員がいる。
 - Three month: 75Kina/3か月
 - Annual: 200Kina/年
 - Platinum: 700Kina/年
 - Association: 500Kina/年（女性グループ向けの資格）
- 女性に対する暴力に関する相談があった場合は、Family Protection Center や NCDC の担当部署につなぐ。また、火曜や木曜に Pacific Women 等による家庭内暴力にどのように対処するか等の研修を不定期に実施している。

- メンタープログラム（経験がある女性起業家から新しくビジネスを始める女性に対してアドバイスを提供する活動）も実施している。メンターはボランティア（無償）なので、自分の成功経験を共有し、後進の起業家を育成するというモチベーションで引き受けている。現在のメンターは6名で、増やす必要性を感じている。メンタープログラムはあるが、成功した女性起業家によるセミナー等、オープンな場での経験共有の機会はまだまだなく、今後検討したい。

【WBRC が認識している女性の就職・起業に関する課題】

- まずそもそも WBRC のような支援を受けられる場所を知らない女性が多い。センターでは、Facebook で活動を発信しているが、参加した女性による口コミが最も効果がある。そのため、研修に参加した女性に他の女性に声をかけてもらい、徐々に受講者やメンバーを増やしている。
- 支援先の存在を知っていたとしても、資金や交通費等の金銭的な問題でアクセスできない女性が一定数存在する。
- 既にビジネスをしている女性の中には時間的余裕がなかったり、既にビジネスを運営できているため研修を受講する必要性を感じないケースもある。
- 研修内容によっては、他 NGO や公的機関から講師を招へいする。Ginigoada とは成人識字教育プログラムで連携している。
- 支援を受けた女性の好事例として、最初にセンターに来たときは学校以外に家を出たことがなく人前でほとんど話せなかった女性が、研修や研修後のネットワークの機会を活用して10か月後には自分のビジネスを始められたケースもある。一番重要なのは女性自身の意識が変化することであり、WBRC ではスタッフが研修の機会に相談に乗ったりするなど、そのきっかけを提供している。研修後の交流やメンタープログラムなど、他の女性（特にビジネス経験者）との交流が女性の意識の変化にポジティブに作用していると考える。

以上

4. 司法省

会議名	司法省
日時	2020年1月22日(水) 15:30~16:40
場所	JICA 事務所
参加者	【司法省】 Ms. Teisi KALAMO, GESI Coordinator Mr. Wani, GESI officer 【当方】 三反畑

以下の面談記録について、特段記載がない場合はすべて先方の発言として記載する。

【司法省の業務、ジェンダーに関する取り組み】

- 司法省は各政府機関への法的な助言の提供をはじめ、警察や裁判所等の監督など法律や司法に関する領域を管轄している。
- 司法省の職員はおよそ70%が男性、30%が女性であり、シニアレベルにも女性職員がいることから職員のジェンダーバランスは比較的取れていると Ms. Teisi は理解している。
- ジェンダーは PNG 外部からもたらされた新しい概念であり、政府機関内でも十分に理解している職員は少ない。司法省ではジェンダーを含む基本的人権に関する研修 (Transformation leadership and Human Rights Training) を司法省職員向けに豪政府の支援により実施している。
- 2013年に制定された家族法 (Family Protection Law) に関しては、裁判所における解釈が課題である。家庭内暴力は家族内で解決するものという慣習的な考えがあるため、裁判所判事向けの研修が今まで10回ほど実施されている。
- 土地の権利に関して女性に法的な権利があっても男性親族がその用途を決める慣習は一般的に残っている。アドボカシーが必要な領域ではあるが、そうしたアドボカシーは必ずしも司法省の管轄ではなく、他機関と連携して実施されるべきである。

【他組織との連携】

- 教育セクターに関しては、毎年11-12月に教育カリキュラムに法律分野をどのように組み込むか、教育省と協議している。
- 教育分野におけるジェンダーに関しては (Ms. Teisi が自分の子どもが初等学校で受けた人権教育の内容を確認した結果の意見として) 教師であっても男女平等の前提となる基本的人権に対する理解が十分でないこともあり、教師の理解を深めるためのガイドラインが必要であると認識している。
- ジェンダーに関しては、Department of Personnel Management が策定したジェンダー平等社会包摂政策 (Gender Equity and Social Inclusion (GESI) Policy) が政府機関向けのジェンダー政策としてあるが、内容が一般的すぎるため実際に業務上に適用するにあたっては実施のためのガイドラインが必要となる。司法省は独自に内部用のガイドラインを作成している (運用上の例として、データの収集に際して男女別データを集めるなど)。
- 上記の GESI 政策に基づき、関係機関のフォーカルパーソンが集まる会議が設定されている

が 2019 年に 1 度開催されたのみ。同会議では GESI 政策で採用されている用語の確認や各機関の活動紹介を実施した。

- コミュニティ開発省とは家族保護法の関係で連携があると聞いているが、担当ではないため詳細は知らない。
- 家庭内での暴力に関する現場レベルでのネットワーキングや支援を担当する組織として、豪政府の支援を受けて設立された家族と性的暴力に関する行動委員会（Family & Sexual Violence Action Committee²）がある。

以上

² 2000 年に Consultative and Implementation Monitoring Committee (CIMC)の傘下に設立された部門別委員会の一つ。家族や親族内で起きる身体的、性的、精神的暴力の抑制と被害者への司法や支援サービスへのアクセスの提供を目的としている。<http://www.cimcpng.net/index.php/committees/fsvac>
また、下記記事によると FSVAC は司法省とともに、司法や支援サービスへのアクセスに関する現代の課題を特定し、家庭内暴力の被害者が支援や司法へのアクセスを受けるためのツールキット（フリップチャートおよび安全カード）を開発している。https://pacificwomen.org/wp-content/uploads/2018/03/February-2018-E-Newsletter_8.3.18.pdf

5. 警察 女性被害相談窓口（家族・性的暴力ユニット）

会議名	警察 女性被害相談窓口（家族・性的暴力ユニット）
日時	2020年1月23日（木）9:30～11:00
場所	ボロコ警察署
参加者	【先方】 Ms. Delilah Sandeka, Coordinator, Family & Sexual Violence Unit Mr. Tevita Seruilumi, Family & Sexual Violence Legal Advisor 【当方】 三反畑

以下の面談記録について、特段記載がない場合はすべて先方の発言として記載する。

【警察 家族・性的暴力ユニットの概要、活動内容】

- 家庭内暴力や性的暴力を受けた女性に対する窓口機関として、ポートモレスビー内で9ユニットが活動している。ボロコ警察署は他地域のユニットを含め、全体を管轄している。ポートモレスビー以外では22州のうち19州に同様のユニットがあるが、残り3州にはまだない。
- 同ユニット職員はPNG全体で107名おり、男女比は約2:8で女性が多い。職員は警察における通常の研修だけでなく、トラウマを抱えた女性に対してどのように接するかなどのコミュニケーション研修も受講している。他方、一般の警察官はそうした研修を必ずしも受けておらず、女性から被害報告があった際に適切に対応できていないことが課題である。
- 女性からの被害報告があった際は、まずどういった被害を受けたかの聞き取りを行い、その内容によってどういった手続きを取るのか（FPA、PO、SOA、CCA）を被害者の要望も考慮して決定する。その後、必要な手続きを取るため、適切な機関に照会する。
- 照会先は裁判所、家族サポートセンター、カウンセリング機関、法的機関、セーフハウス、福祉機関など。照会先の課題もある。裁判の長期化や遅れ、セーフハウスでは一定年齢以上の子どもの同伴が認められないなど、女性のニーズに十分に沿っていないケースがある。
- 啓発活動用に”Access to Justice Survivor Resource Family and Sexual Violence”という小冊子を作成し、女性に対しては人権等の権利や被害を受けた際に利用できるサービスの紹介を行い、男性に対しては暴力を振るわないよう指導をしている。

【家庭内・性的暴力の現状】

- 家庭内暴力や性的暴力に関する犯罪情報を取りまとめようとしているが、ボロコ地域以外のデータはデータシステムがないため、情報が整理されていない。
- ボロコ地域のみ統計によると2019年1年間で4,704件の刑事事件、1,772件の民事事件、合計6,476件が発生している。その中で多いのは、①強姦（652件）、②姦通（136件）、③言葉による侮辱（136件）であり、ポートモレスビーの他地域でもおおそ同じ傾向がみられる。
- 家族・性的暴力ユニットで扱う犯罪は徐々に増える傾向にあるが、必ずしも犯罪数自体が増えているのではなく、もともと訴えることがなかった女性が自分の権利に気づき、声を上げ

るようになったという側面もみられる。

- 女性に対する暴力が起こる要因として、男性が女性の主人（ボス）であるとする文化的慣習が男性にも女性にもあることがあげられる。一番の問題はマインドセットであるが、暴力が起きるきっかけとしてはお金や食料がないこと、アルコールがあげられる。（婚資の影響はどうかという質問に対して）婚資自体はもともと家族間の友好・感謝の表明であるが、一部の男性は婚資を払っているため、女性を好きに扱ってよいと考えるものもいる。

以上

6. 首都区ジェンダー局

会議名	首都区ジェンダー局
日時	2020年1月23日(木) 11:20~12:40
場所	首都区
参加者	【先方】 Ms. Kay, Gender Coordinator Ms. Oliver, Gender Officer Mr. Sedrick, Gender Officer 【当方】 三反畑

以下の面談記録について、特段記載がない場合はすべて先方の発言として記載する。

【首都区ジェンダー局の概要】

- ポートモレスビーの3地域（東部、西部、南部）において、以下の3領域を重点課題として活動している。
 - ジェンダーに基づく暴力（Gender Based Violence: GBV）
 - 経済的エンパワーメント
 - リーダーシップ
- GBVに関しては主に人権や行動変化を促す意識啓発活動を実施している。また、首都区の男性および女性職員に対しても行動変化を促す研修を実施している。1週間の研修を通じて、家庭内での役割分担などグループディスカッションをする。同研修を受講して、家庭内で妻に銀行カードを預けるようになったなど実際に行動が変化したケースもある。こうした研修を通じて他人の好事例を知ることは行動変化を促すきっかけになる。
- 経済的エンパワーメントでは、女性グループを対象にしている。現在は予算の関係もあり、女性グループの形成とデータ収集を実施している。女性グループは東部に15、北部に7グループあり、1グループあたり25~60名が所属している。ジェンダー局が女性グループ形成にあたって実施した調査結果は以下のとおり。
 - 現状として、85%が道端での小売りなどインフォーマルセクターで働き、10%が道路清掃に従事、5%がその他の職業（教師や自営業など）で働いている。
 - （セトルメント等の女性が多いこともあり）90%近くが読み書きができず、成人識字教育のニーズがとても高い。
 - 85%の女性がライフスキル研修を受けて、家政婦として働くことを希望している。
- リーダーシップに関しては、上記の女性グループのリーダーに対する研修を実施している。読み書きができて、グループ内で要望をまとめて、研修の受講希望を要望書にまとめるなどの手続きができないケースが多いため、女性グループの運営を持続的にするために、書類作成やグループ内外での交渉、問題解決などの研修をリーダーに対して実施している。同内容をリーダーからメンバー女性にカスケード式に広がることを期待している。

【ジェンダー局が教育に期待する役割】

- 教育では基本的人権等の意識啓発活動が実施され、子供のころから男女平等の考えが浸透することを期待する。
- 実際に学校で活動を行った事例としては、ボールを使ったゲーム形式で、日常生活における男女の役割や家での手伝いの状況を共有するというアクティビティを実施したことがある。ボールをパスして渡された子がそのトピックについて発言していくというもので、各家庭の男女（父親・母親）の役割分担や手伝いの状況を共有した。男子児童でも家の手伝いをしている場合としていない場合があった。手伝いをしていない児童も、他の男子児童が家で手伝いをしているということを聞いて、自分も今後手伝ってみるといような変化が生まれた。首都区職員向けの研修と同様に、（職場や学校など）同じコミュニティに属する他人の事例を知ることで変化を促すことができる。

以上

7. 教育省カリキュラム開発局

会議名	教育省カリキュラム開発局
日時	2020年1月23日(木) 13:40~14:50
場所	教育省カリキュラム開発局
参加者	【先方】 Mrs. Lepapa Haoda, Acting A/Secretary-Guidance & Counselling 【当方】 三反畑

以下の面談記録について、特段記載がない場合はすべて先方の発言として記載する。

【教育省におけるジェンダー主流化の取組】

- 政策として、Gender Equity in Education Policy があるが、実際の学校教育への反映には課題がある。ジェンダーに関する項目としては、Behavior Management Policy があり、同政策では Guide for school、Training Manuals と実際にどのように授業に取り込むのかのガイダンスがあり、ジェンダー政策に関してもそうしたガイダンスが必要である。
- Guidance & Counselling Division の今年度の活動予定の一つとして、HIV/AIDS およびジェンダー政策の見直しが予定されている。具体的には、Gender Equity in Education Policy の見直しを行うためドラフトを作成し、関係者間での協議を行い、2020年6月ー11月の間にドラフトのレビューを実施することを予定している。

【女子教育の課題】

- 女子の学校教育における課題について、当方が作成した分析図（別添1）を基に確認したところ、Mrs. Lepapa Haoda より以下のコメントを得た。
 - いずれの課題も重要だが、特に影響が大きいのは①学校の遠さ（安全が確保できないため）、②ジェンダーの観点を入れた評価の欠如、③教師の質、④不十分な学校設備（特に女子トイレ）。
 - 教育費無償政策は2020年より親が37%を負担することに変更になった。
 - 男子教師や男子生徒からの女子への侮辱など不適切な行為も女子を学校から遠ざける要因になる。

以上

8. 高等教育省

会議名	高等教育省
日時	2020年1月23日(木) 15:10~16:20
場所	高等教育省
参加者	【先方】 Ms. Josephine Kouni, Executive Manager Mr. Bill Oliver, Advisor Ms. Allanah Leahy, Gender Officer 【当方】 JICA PNG 事務所清水職員、三反畑

清水職員から翌月の予定や初等教員養成校の管轄移管状況の確認があった後、以下の点について聞き取りを実施した。以下の面談記録について、特段記載がない場合はすべて先方の発言として記載する。

【高等教育省におけるジェンダーの取組】

- 2019年よりジェンダー担当官として Ms. Allanah Leahy が着任した。内部的なジェンダー主流化（高等教育省内）と外部的なジェンダー主流化（教員養成校等管轄の学校など）双方を担当している。
- 高等教育省内部でジェンダーに関する研修等はないため、国際機関や NGO のワークショップ等に参加して意見交換や情報収集を実施している。
- 各政府機関のジェンダー担当官が一堂に会する会議に Ms. Allanah Leahy が昨年参加した。司法省や NCDC の担当者なども参加しており、有益な情報交換ができた。今までジェンダー関係で他機関との連携事例はない。

【教員養成校の状況】

- 比較的規模が大きい学校は男子生徒が多く、小規模な学校は女子生徒が多い傾向にある。
- 女子生徒（およびその親）が学校を選ぶ際は特に安全性が重要になる。また独身の女性教師は寄宿舎がない場合、赴任が困難になる。ホームステイという手段もあるが安全性の観点から好まれない。

【高等教育省が考える女子教育の課題】

- 女子の学校教育における課題について、分析図（別添1）を基に確認したところ、先方より以下の初等教育を中心に以下のコメントを得た。
 - 特に重要な点は学校への安全なアクセス。安全性が確保されない限り、親は女子を学校に行かせたがらない。
 - 学校のインフラ面では水の供給とトイレが特に重要。都市部では比較的整備されているが農村部ではまだのところが多い。都市部と農村部の違いも考慮が必要である。
 - また、隠れがちな問題として児童虐待やインフォーマルな養子縁組があり、そうした児

童は教育を受けられない傾向にある。

- 1クラスのサイズも重要であり、1クラス 60人近い場合、教師1人でカバーしきれない。
- 校長は学校全体への影響力が大きいため、校長の学校運営力は重要であるが、校長に対する義務的な研修はなく、自発的に PNGEI や大学で学ぶしかない。
- 教師の配置に際して、縁故採用やわいろによる配置がおこなわれていることも問題である。
- 障害を持つ児童に対する考慮も必要。特に女子の場合、学校等に通わず家におかれがちになる。

以上

9. コミュニティ開発省

会議名	コミュニティ開発省
日時	2020年1月24日(金) 9:00~10:30
場所	コミュニティ開発省事務所
参加者	【先方】 Ms. Becky Tarubi, Assistant Secretary 【当方】 三反畑

以下の面談記録について、特段記載がない場合はすべて先方の発言として記載する。

【コミュニティ開発省の活動】

- コミュニティ開発省は5年間の中期計画に基づき、毎年の年間活動計画を作成している。職員数は約200名で男女はほぼ同数。組織図は2009年のジェンダー調査時から変更はない。
- 2020年の年間計画では、National Policy For Women and Gender Equality 2011-2015のレビューを実施する予定となっている。2019年の活動としては、①国家女性フォーラム・国家男性フォーラム、②ライフスキル研修を主に実施した。
- コミュニティ開発省独自の活動のほか、他政府機関のジェンダー関係政策へのアドバイスも実施している。また実施過程においても、教育省がEUとともに実施している職業訓練校プログラムのステアリングコミッティに参加してジェンダーに関するコメントを行うなど、関与することがある。

【国家女性フォーラム・国家男性フォーラム】

- 女性フォーラムと男性フォーラムは個別に開催した。
- 女性フォーラムは2019年3月に開催した。主な参加者は関係政府機関、女性リーダー、女性実業家等であり、一部プログラムには首相や国会議員も参加した。
- 同会議では女性のリーダーシップ向上について討議を行い、女性国会議員が0という現状を改善すべく、地域女性代表（マモセ地方、南部地方、山岳地方、島しょ地方の4地域）を選び、国会討議に参加するという提案を協議した。現在はまだ実現していないが、一時的特例措置（Temporary Special Measures）として協議中である。
- 男性フォーラムのテーマはジェンダーに基づく暴力であり、2回実施されている。第1回には男性はGBVをどのように認識、理解しているかを協議し、第2回で男性はGBVを止めるために何ができるのかを協議した。フォーラムには男性リーダー（コミュニティリーダー、教会関係者など）、UN Women等の国際機関、NGOなど約70名が参加した。
- 同フォーラム結果として、①各地域でGBVに関する報告を取りまとめること、②コミュニティリーダーの強固なリーダーシップにより啓発活動を実施することが提言された。

【ライフスキル研修】

- セントラル州の2地域を対象に、ココナッツオイル・石鹸作成に関する研修を実施した。対象は女性に限られないが、制作物が女性に親和性があるオイル・石鹸であるため、女性参加者が多かった。現地にある材料でできるため、都市部まで購入する必要がなく、また販売す

ることで収入を得られる。コミュニティリーダーを介して参加者を集め、1 週間の研修を実施した。

【女子教育について】

- Ms. Becky Tarubi はモロベ州の Balob Teacher College で 4 年間英語教師を務めていた経験がある。
- 同経験から女子教育の学校外の阻害要因として考えられるのは以下のとおり。
 - 安全性：生徒は徒歩で通学しなければならないため、学校が遠いことや道中が安全でない場合は親が通学に反対する。
 - 家事負担：娘は息子より家事（弟妹の世話、料理や菜園での手伝い等）を求められることが多いため、学校に行く時間がない。
 - 資金：家庭内の予算に制限があると、娘より息子の教育が優先される。
- 同じく女子教育の学校内の阻害要因として考えられるのは以下のとおり。
 - 過剰な生徒数：1 クラス 40～60 人を教師 1 名で受け持つ場合、各生徒に十分な目配りができない。
 - 女子生徒への性的虐待：中等学校や教員養成校での課題として、教師から女子生徒への性的虐待、セクシャルハラスメントが起こるケースがある。問題が起きた場合、女子生徒が相談したくても教師の権力を恐れるあまり家族や他の教師へ相談できないケースもある。携帯電話が普及することで質問がしやすくなるなどの良い影響もあるが、こうしたネガティブなコミュニケーションに使用されることもある。

以上

10. UN Women

会議名	UN Women
日時	2020年1月24日（金）14:00～15:30
場所	UN Woman
参加者	<p>【UN Women】 Ms. Susan Country Representative Ms. Brenda Ms. Emma</p> <p>【当方】 JICA PNG 事務所 清水職員、三反畑</p>
今後必要なアクション	・1月31日に Human Right Defender の紹介を受ける

清水職員からの JICA の教育セクターにおける取組、本調査の説明後、以下の聞き取りを実施した。以下の面談記録について、特段記載がない場合はすべて先方の発言として記載する。

【UN Women の活動】

- 活動領域として主に4点、ジェンダーに基づく暴力、経済的エンパワーメント、政治的リーダーシップ、平和構築がある。職員は30名ほど。国レベルの主なCPは National Planning Department だが、PNG では地方分権化が進んでいる国なので現地での活動を円滑に進めるため、活動地域の地方政府と MOU を結ぶなど協力関係を結んでいる。
- Safe City Programme、Safe Bus Programme、Spotlight Program、Peace Building Programme（ブーゲンビル）、Political Decision Making Programme などを実施している。

【Safe City Programme】

- 2012年からポートモレスビーでの活動を開始し、ちょうど評価が終了した。今後は、キンベ、ケビエン、レイなどの他地域への拡大を計画している。
- マーケットをエントリーポイントに選んだのは、女性の主要な課題に同時にアプローチできるため。安全なマーケット環境を整えることで暴力を防止し、マーケット参加方法について男女公平なシステムを作ることで経済的なエンパワーメントを行い、Market Vender Association を設立することで女性の声を政府やマーケット管理者に伝える（リーダーシップの醸成）にも資する。これらを統合的に実施することで、より大きなインパクトが得られる。
- 地方への展開に際しては、ポートモレスビーでの実績に基づき、①インフラストラクチャー、②地方政府（Province, District）への支援、③経済的エンパワーメント（金融教育や金融へのアクセス含む）、④リーダーシップの醸成を重視する。
- 活動を実施する際に課題だったことは、組織的な変化を起こすこと。政治的影響を受けることが多いため、主要な政府機関との関係構築には時間をかけた。また、公平なマーケットファイシステムの導入に際しては、不公平なフィーの徴収によって利益を得ている既得権益層

を納得させることが課題であり、時間がかかった。

【Safe Bus Program】

- PNG 女性の約 90%がバスなど公共の場で何らかのセクシャルハラスメントを受けた経験がある。公共の場での女性に対する暴力やセクシャルハラスメントを防止するため、現地 NGO (Ginigoda) と共同して、女性専用バスの運用を開始した。
- 女性専用バスだけでなく PMV などの公共バスの運転手への研修を実施することで女性が安全に移動できるようにすることも目的としている。

【Spotlight Program】

- 同プログラムは EU、UNDP、UNICEF と共同して家庭内暴力の防止のため、全国 11 か所（山岳地域、ポートモレスビー、東ニューブリテン、セピックなど）で実施している。対象地域の選定は暴力のレベル等を考慮して選定している。
- もともと現地で家庭内暴力被害者に対するサービスを提供している組織や現地の病院、警察、市民社会と協力することで、公的な領域ではない家庭へのアプローチを実施した。また、ターゲット選定の際に HIV/AIDS 感染者や性産業従事者などを考慮した。
- 大学 (Pacific Advanced University) が開発した Family Program³を活用し、夫婦間の日々の活動を列挙したうえで、負担を平準化するためにどのような協力が可能か、家計をどのように管理するかなどを話し合うところから始める。
- 上記取組の実施に際しては、ジェンダー平等を前面に出すのではなく、家計収入を上げるためにどのような取り組みができるのかといった男女ともにインセンティブを持つことができる目的を設定して取り組むことで、双方が積極的に取り組めるよう工夫している。
- 取り組みがうまくっている家族はモデル家族として紹介し、他家族が取り組みを参考にできるようにした。

【Political Decision Making Programme】

- 女性国会議員が 0 であるという現状を変えていくため、2019 年より 4 年間のプログラムとして開始した。
- いきなり国会議員を目指すことは困難であるため、地域レベル (Province, District) において女性の参画を促すところから開始している。

【教育分野に関して】

- 公的教育分野に関する取り組みは今のところないが、成人識字教育や若者への意識啓発キャンペーンなどは活動の中で実施している。
- 教育におけるジェンダーという観点からみたドナー・開発援助団体は、Save the Children、CARE International、Oxfam、オーストラリア政府、Unicef、UNFPA など。
- 女子は入学したとしても、途中でドロップアウトするケースが多い。ドロップアウトのきっ

³ 女性の 1 日の仕事時間が 18 時間に対し、男性が 4 時間のみというケースもあった。

かけは、トイレや水道など不十分な衛生設備（設備が不十分なため生理期間に休むと月のうち1週間休むことになるため学習についていけなくなる）、家庭内での家事の負担、不十分な安全、男性教師から女子生徒へのセクシャルハラスメントなど複数ある。また、WBがレイで実施した活動では早期妊娠も問題として指摘されている。

- 早期にドロップアウトした女子生徒は読み書きも十分にできず、卒業資格もないため多くがインフォーマルセクターで働くことになる。また、フォーマルセクターでの職業機会が限られていることから学校卒業した女性でもインフォーマルセクターで働くこともある。一部の女性はインフォーマルセクターのほうがより多く稼げるため、積極的にインフォーマルセクターを選ぶケースもある。

以上

11. Enga Teacher College (副校長)

会議名	Enga Teacher College (副校長)
日時	2020年1月27日(月) 9:00~10:00
場所	Enga Teacher College
参加者	【先方】 Mr. John Ambelo, Deputy Principle for Administration 【当方】 JICA Officer Mr. Allan, 三反畑 (記)

以下の面談記録について、特段記載がない場合はすべて先方の発言として記載する。

【Enga Teacher College 概要】

- 2019年度の生徒数および教師数は以下のとおり。教師は今年9名増加する。

学年	男子	女子	合計
1 学年	52 (56%)	41 (44%)	93
2 学年	48 (55%)	39 (45%)	87
3 学年	41 (46%)	49 (54%)	90
基礎教員養成	11 (69%)	5 (31%)	16
合計	152 (53%)	135 (47%)	286

教員数	15 (71%)	6 (29%)	21
-----	----------	---------	----

- 生徒用寮は建設中のため、生徒はスクールバスもしくは徒歩で通学している。教師用寮は学校内にある。ワバックには初等学校が2校、中等学校が1校ある。初等学校のうち1校はEnga TCに隣接しており、同初等学校で教育実習を行っている。
- 生徒の留年・退学理由は主に病気や成績の悪さであり、必ずしも女子生徒の退学が多いわけではない。
- 女性教師は男性教師よりより丁寧に生徒をケアする傾向にある。
- 授業における男女平等の推進の取組としては、男女の座る座席を混ぜること、授業中の回答・質問を男女ランダムにあて偏らないようにすること。こうした内容は教師間のミーティングの際に副校長から伝えている。
- 生徒間で生じる性別、部族等さまざまな問題に起因するハラスメントは、副校長自身が苦情の受付を実施している。問題が大きい場合は警察に相談する場合もあるが、昨年起きたのは1件のみで大きな問題ではなかった（授業中に椅子を動かす音が大きかったことから揉め事になった）ため、双方に警告して終了した。

【エンガ州ワバックにおける教育状況】

- 初等学校や中等学校ではおおそ男女の就学率は3:1という印象がある。
- 女子が男子に比べて少ないのは、教育費に充てられる予算が限られている中で、家族の決定として結婚して家を出る女子ではなく、家に残る男子の教育が重視されがちであるためと推測する。
- ただ近年、航空会社、エンジニアリング業界、病院等で女性の就業を促進するパイロット活動が進められており、エンジニアや医者として活躍する女性が出てきたことで、女子に対す

る教育も重視されるようになってきた。

- 教師の男女比率は基礎学校、初等学校ではほぼ半々で、中等学校や教員養成校でも女性教師が増えてきている。

以上

12. Enga Teacher College (生徒の母親)

会議名	Enga Teacher College (生徒の母親)
日時	2020年1月27日(月) 10:15~11:10
場所	Enga Teacher College
参加者	【先方】 Ms. Mara Lakatia 【当方】 JICA Officer Mr. Allan, 三反畑 (記)

以下の面談記録について、特段記載がない場合はすべて先方の発言として記載する。

【教育状況】

- もともと6人子供がおり、2人が幼少期に亡くなった。現在は、娘・息子が各2名で、娘2名がEnga TCを卒業ないしは通学している。長女は昨年卒業して今年から初等学校の教員として働いており、次女はEnga TCの第2学年に在学している。男子2名は中等学校(それぞれ第12学年、第10学年)に在籍している。
- 夫は初等学校教員をしており、彼女自身は栽培した野菜の販売をしている。夫の学校は家から遠いため、単身赴任している。そのため、家の管理はすべて自身で担っている。夫からは銀行カードを預かっており、生活に必要な資金を引き出すことができる。子供には週末に手伝いを頼むことがあるが、男女とも平日は勉強に専念するように伝えている。
- 夫婦とも教育を重視しており、男女双方に平等な教育の機会を提供したいと考えている。夫が教員であることと、2000年代頃から女性でもパイロットやエンジニアなどでなる人が現れ、職業の選択肢を増やすために教育の重要性を感じるようになった。女子2名が教員を目指したのは父親の影響が大きい。長男は大学でテクノロジーを学びたいと考えているが、教育費がかかるため、次女卒業後に進学させることを考えている。長女・次女の助けを受けて残りの男児2名の教育費を捻出する予定である。
- 昨年、長女が教員養成校の最終学年、次女が教員養成校に入学した際は、6000Kina/年の教育費がかかり、大変だった。
- 自分が子供のころ(1980年代)は、教育はあまり重視されておらず、第4学年で中退した。1990年後半—2000年代に周囲で女性でもパイロットやエンジニアになる人々がワバックに現れて、職業の選択肢を増やすために教育の重要性を実感した。
- エンガ州州知事が教育を重視しており、エンガ州出身の生徒が高等教育に進む際に補助金を出している。

【地域におけるジェンダー状況】

- 自身の家庭内では家庭内暴力等の問題はない。夫が敬虔なクリスチャンであることが要因であると思う。
- 他方、他の家族を見ていると、夫が妻を殴ったり、場合によっては銃やナイフで攻撃するケースがある。女性は男性に従属しているという伝統的な考え方(文化)が一番の原因であると思う。女性が被害を受けた場合は、コミュニティにおける解決で保障を得るか、裁判所に訴えるかであり、いずれのケースにしても男性家族の支援が必要になる。ひどい場合は女性

家族から夫に向けて報復があり、部族紛争になることがある。

- 部族紛争は特定の部族間の問題なので、今まで巻き込まれたことはない。

以上

13. Enga Teacher College (理数科女性教師)

会議名	Enga Teacher College (理数科女性教師)
日時	2020年1月27日(月) 13:10~14:20
場所	Enga Teacher College
参加者	【先方】 Ms. Helen, Lecturer of Mathematics & Science 【当方】 JICA Officer Mr. Allan, 三反畑 (記)

以下の面談記録について、特段記載がない場合はすべて先方の発言として記載する。

【教師歴】

- Madan Teacher College で8年間教師をした後、JICA 研修プログラムで2年間鳴門教育大学に留学した。PNG へ帰国後、昨年からは Enga Teacher College で理数科教師として働きはじめた。
- 教師は昨年21名(うち女性教師6名)だったが、今年に入って6名増えて現在27名(うち女性講師9名)である。自身が担当している理数科教師5名のうち女性は1名のみ。理数科教師の中で女性1名だが、特に困ったことはない。

【Enga Teacher College での教育(特に理数科)の現状】

- 1クラスあたり30名だが、昨年は理数科教師数が十分ではなかった(3名)だったため、2クラス合同で教えていた。今年からは5名になったため、1教師1クラス(教師・生徒比が1:30-35)で授業を実施できる予定。
- 生徒数は男女別だと男子のほうが多く、およそ1クラスあたり20名の男子に対して10名の女子生徒というのが一般的な割合である。過去に勤めていた Madan Teacher College では生徒の男女比はおよそ1:1だった。
- 女子生徒と男子生徒で授業中の態度や成績、授業内容の理解に大きな違いはない。
- 他方、女子生徒は男子生徒と比較して、早婚や妊娠の影響で退学や休学するケースがある。1クラス20名男子生徒、10名女子生徒の場合、男子生徒が退学・休学するケースは1-2名だが、女子生徒は学期末には3-5名減少していることがある。
- 数学・理科を担当しているが、男女ともに数学・理科が不得意な生徒が多い。もともと中等学校で理数系を専攻していない生徒が多いため、基礎的な内容の復習を行わないと教員養成校の内容が理解できない生徒も多い。
- 中等学校で理数科が得意な生徒は、教員養成校ではなく大学を選択する傾向にある。大学に進学してエンジニアや鉱業系の企業など高給が得られる就職を目指す場合が多い。左記の職業と比較して初等学校や中等学校の教員の給与は高くない。
- また、上記のとおり必ずしも理数科が得意でない者が初等学校、中等学校の教師になる傾向にあるため、初等学校・中等学校の理数科教育の質があまりよくないというサイクルが繰り返される傾向にある。
- 理科について、実験用具がないため、教える内容が教科書ベースになりがちである。

【地域の安全性】

- 山岳地方ということで、エンガに赴任する前は治安や安全性を心配していた。赴任後もしばらくは親から毎晩、安全かどうかの電話連絡がきた。実際に暮らし始めると、学校内に教員用宿舎があることもあり、特に安全性で問題を感じたことはない。
- 他方、仮に自分に娘がいて他地域に住んでいた場合、単独で Enga Teacher College に通わせるかどうかという、反対すると思う。現在、College に通っている女子生徒の多くは近隣に住んでおり、徒歩もしくはスクールバスで自宅から通学している。外部地域からきている女子生徒は 12 名と少数である。

【中央省庁との関係】

- Enga Teacher College の所管は教育省（TED）であるが、DHEST から今後に関する指示が来ている。今まで 3 年間のコースだったが、学士（Degree）付与のため、ゴロカ大学と共同でカリキュラム開発を行うよう指示が来ている。

14. Enga Teacher College (理数科男性教師)

会議名	Enga Teacher College (理数科男性教師)
日時	2020年1月27日(月) 14:40~15:30
場所	Enga Teacher College
参加者	【先方】 Mr. Riavo Ririnua, Lecturer of Mathematics & Science 【当方】 JICA Officer Mr. Allan, 三反畑 (記)

以下の面談記録について、特段記載がない場合はすべて先方の発言として記載する。

【教師歴】

- 湾岸州にて9年間初等学校の教師をした後、2016年より Enga Teacher College で理数科教師として働いている。教員養成校でのキャリアは Enga Teacher College のみ。
- 男性教師と女性教師間のコミュニケーションは良好であり、協力して教材作成等に当たっている。
- Enga Teacher College でセクシャルハラスメント等が起きた場合の相談窓口を学部長(男女各1名)が担当していることは知っているが、過去4年間で問題が起きたと聞いたことは一度もない。

【Enga Teacher College での教育(特に理数科)の現状】

- 生徒数は男女別だと男子のほうが多い。
- 数学は女子より男子生徒のほうが積極的に成績もよい傾向にあると思う。その要因としては、男子のほうが中等学校時に数学を専攻していることが多いためと考えている。
- 理科では男子、女子生徒で大きな差はなく、双方ともに積極的に参加している印象がある。
- 他方、男子、女子生徒とも他の科目に比べると理数科目があまり得意ではない傾向にある。その理由としては、以下の4点があると考えられる。
 - ① 初等学校、中等学校の教師の理数科の教え方があまり良くないこと
 - ② 選択制となる第11学年、12学年において理数科を選んでいないこと
 - ③ 生徒によっては入学後、必要な試験に合格できる最低限の学力を維持できればよいと考えており、不得意科目の克服に優先順位を置かないこと
 - ④ (エンガの場合)多くの生徒がバスないしは徒歩通学しており、学生寮がある他の学校と比較して、通学に時間を取られるため勉強時間が十分に取れないこと
- 理科について、実験用具がないため、教える内容が教科書ベースになりがちである。

【地域の安全性】

- 赴任する前は部族紛争などのニュースを見ていたので、安全性が心配だったが実際に赴任してみると特に問題は感じない。部族紛争は、該当部族間の問題であるため、外部から来た場合に巻き込まれることはない。
- 仮に娘がいて、Enga Teacher College への通学を希望する場合、教師や設備はよいため賛成する。安全性も上記のとおり問題ないと考えている。

【初等学校での経験】

- 初等学校教師として9年間、第6学年～8学年を担当していた。当時の経験を振り返ると、男子生徒が積極的に発言するのに対して、女子生徒はシャイで人前で話したがらない傾向にあった。
- 上記の男子・女子生徒の違いの背景としては、コミュニティや家族などの文化が大きく影響していると考えられる。初等教員をしていた湾岸州では男女ともに人前で発言することが少ないのに対して、エンガでは男女ともに考えを積極的に発言する傾向がある。
- 男女平等などの一般的な道徳について教えることは重要だと思うが、初等学校では教員に対する道徳に関するガイダンスは特になかった。

【女性、ジェンダーに対する考え】

- 自身の出身地（湾岸州）では、働いている女性は尊敬・尊重されるが、家庭にいる女性は男性に従うものとの考えが強かった。PNG全般に男性中心という考え方はあると思うが、少しずつ変わってきているのではないかと思う。

以上

15. Enga Teacher College (生徒の父親)

会議名	Enga Teacher College (生徒の父親)
日時	2020年1月27日(月) 16:00~17:00
場所	Enga Teacher College
参加者	【先方】 Mr. Walter Thuluk, 男子生徒の父親・言語教師 Mr. Mailoua Mewa, 女性生徒の父親・社会科教師 【当方】 JICA Officer Mr. Allan, 三反畑(記)

以下の面談記録について、特段記載がない場合はすべて先方の発言として記載する。

【背景】

- Mr. Walter は、もともとマダン州出身で、エンガには仕事のため移動してきた。第2学年の男子生徒の父親であり、自身も Enga Teacher College で言語(英語)の教師を務めている。
- Mr. Mailoua は、第3学年の女子生徒の父親であり、自身も Enga Teacher College で社会科の教師を務めている。上記女子生徒の他に3人の子供(2名息子、1名娘)がおり、3名とも Enga Teacher College を卒業して初等学校の教師をしている。
- 両名とも仕事のために、Enga に移住しており、当初は安全性に不安を持っていたものの、現在は問題ないと感じている。部族紛争はあるが、外部者は攻撃を受けることはないため徒歩での通勤でも問題ない。

【Enga Teacher College での教育への満足度】

- 両名とも満足している。Enga Teacher College は教師だけでなく生徒にも制服があり、同制服を着ることで生徒が学校の一員であること、またプロフェッショナルな行動をするように意識づけられることで、教師を目指すモチベーションを高く持ち続けられる。
- 学校内でのカリキュラムは、他の学校と比較しても時間をしっかり守り、学校にいる間、無駄な時間がないようプログラムが組まれている。

【教師の視点での学校内の男子生徒・女子生徒の状況】

- 授業中に男子生徒が発言する割合が多くなりがちなので、女子生徒へ発言を促している。
- グループ形成をした場合は男子生徒がリーダーシップを取ることが多い。
- また、学習科目外の活動として、男女混合でスポーツを実施したり、水曜日に教会から司祭を招いて、聖書に基づく道徳の講義を実施したりしている。

【家庭内の意思決定】

- 両名とも子どもの教育や結婚など重要なことを決める際には、妻と話し合っている。

以上

16. Enga Teacher College (教師)

会議名	Enga Teacher College (教師)
日時	2020年1月29日(水) 10:30~11:00
場所	Enga Teacher College
参加者	【先方】 Mr. David Gommy, Deputy Principle for Academic Ms. Helen, Lecturer of Mathematics & Science 【当方】 JICA Officer Mr. Allan, 三反畑 (記)

以下の面談記録について、特段記載がない場合はすべて先方の発言として記載する。

- (先日の Ms. Helen との協議で教員養成校においては特に理数科が不得意な生徒が多いという点について初等学校で理数科の状況を確認したところ、初等学校では理数科は大きな問題がないという回答があったため、どのあたりで躓くのかを確認したところ) 初等学校の内容はシンプルなので問題は少ないと思う。中等学校に上がると内容が複雑になるので、理数科に対して苦手意識を持つ生徒が増える。前回説明のとおり、理数科が得意な生徒は大学等に進学する傾向にあるので、教員養成校には理数科に苦手意識を持つ生徒が進学する傾向にある。
- 2020年に入学予定の生徒は以前と比較してエンガ州以外からの入学者が増えている。2019年はエンガ州以外からの入学者は約20%だったが、今年は63%がエンガ州以外からとなっている。近隣州だけではなく、NCD やセントラル州などからの入学者もいる。
- 外部からの入学者が増えている理由は、Enga Teacher College の教育レベルの高さが評判になっているからだと思う。生徒は自身でどの教員養成校に進むか比較して決めるので、Enga Teacher College が選ばれていることは誇りである。
- Enga Teacher College は教育省からの予算だけでなく、外部からのファンドを複数受けている。現在建設中の新規校舎は Australia Aid から 10 million PGK の支援を受けて建設中である。そのため、他の教員養成校と比較して設備等が整っている。
- Mr. David より教員表 (担当科目、役職等を含むもの)、各科目の男女別の成績表を共有いただくことに合意した。

以上

17. Enga Teacher College (女子生徒)

会議名	Enga Teacher College (女子生徒)
日時	2020年1月29日(水) 11:00~12:00
場所	Enga Teacher College
参加者	【先方】 Ms. Faylyn Lyakin, 第3学年 Ms. Lucy Nere, 第2学年 【当方】 JICA Officer Mr. Allan, 三反畑 (記)

以下の面談記録について、特段記載がない場合はすべて先方の発言として記載する。

【家族環境、教員を目指した理由など】

- Ms. Faylyn Lyakin は、22歳で今年第3学年（最終学年）になる。長女で3名の弟妹は初等学校に通っている。父親が教師をしており、その影響で教師を目指した。得意科目は社会科であり、理数科は不得意。
- Ms. Lucy Nere は、22歳で今年第2学年になる。自身を含め5人兄弟姉妹がいる。長男は Madan College に通っており、次男は警察になるため訓練を受けている。長女は15歳で結婚して家を出ており、三男は初等学校に通っている。父親は農家をしており、母親は専業主婦である。得意科目は理数科であり、もともと医者を目指していたため中等学校でも理数科を専攻していた。

【学校の満足度】

- 教師の教え方はわかりやすく、授業内容に満足している。
- 生徒にも制服があるため、制服を着ることでプロフェッショナルな気持ちになり、勉強をするモチベーションが上がる。また、時間を守るなど規律の取れた行動をしようと思う。
- 授業は男女混合で、男子生徒であれ女子生徒であれお互いに尊重しあって学んでいる。成熟しているため、男子生徒が女子生徒をからかうことはなく、むしろ授業中の発言では女子を優先しようとする姿勢がある。学校内でハラスメントを受けたことや、起きたと聞いたことはない。
- トイレ等もきれいであり、学校設備に不満はない。
- 学校に通う上での最も大きな課題は通学である。スクールバスがあるものの、大雨が降って道路が使えない場合、PMVなど公共バスを乗り継いで学校に行くことになる。そうすると交通費がかかる（Ms. Faylyn の場合は片道 2Kina, Ms. Lucy は片道 7Kina）。また、こうした交通の事情で遅れた場合でも、授業時間に5分でも遅れると欠席扱いにされる。
- その他の課題として、授業や課題用の文具を自分で準備しなければならないことがある。授業料は年間 3500Kina と高額だが、こうした授業に必要な備品を学校側は支給してくれず、交通費とともに経済的な負担になっている。

【地域のジェンダー状況】

- 両親は女子であっても教育を受けさせようとしており、男女で差別されていると感じたことはない。
- 農村部では教育を受けていない両親の場合は、男性/男子を優先する考え方が残っている場合があるが、両親が教育を受けている場合は男女平等に扱う傾向にある。

以上

18. Enga Teacher College (学校施設見学)

会議名	Enga Teacher College (学校施設見学)
日時	2020年1月29日(水) 15:30~16:00
場所	Enga Teacher College
参加者	【先方】 Mr. David Gommy, Deputy Principle for Academic 【当方】 JICA Officer Mr. Allan, 三反畑 (記)

- 現在、教職員用のアドミニストレーションオフィス棟と教室棟がある。
- 教室棟は12室あり、それぞれ50名程度収容できるサイズになっている。授業の際は1人につき1台椅子と机がある。
- 教室棟のうち2室はコンピュータールーム、1室は図書室になっている。コンピュータールームには92台(46台/室)PCが設置されており、生徒が調べ物などで利用できるようになっている。また、生徒には各自WifiのID/パスワードが配布され、週200MBまで調べ物のためインターネットにアクセスできるようにしている。
- 現在、新規の教室棟、女子寮、男子寮、ダイニングを建設中である。
- 生徒用と教師用のトイレは別にある。
- 生徒用トイレは男女それぞれにトイレとシャワーが配置されている。水道も問題なく使用できる。
- 教室やトイレの掃除は生徒自身が週に2回行うことになっている。教室、トイレともきれいに掃除されていることが見受けられた。

以上

19. Wabag Primary school (校長および教師)

会議名	Wabag Primary school (校長および教師)
日時	2020年1月28日(火) 9:00~9:40
場所	Wabag Primary school
参加者	【先方】 Mr. Mark Sakol、他教師約30名 【当方】 JICA Officer Mr. Allan, 三反畑(記)

年度初めの教師全員のミーティングの前に聞き取りを実施した。以下の面談記録について、特段記載がない場合はすべて先方の発言として記載する。

【Wabag Primary School】

- 生徒約2058名(男女比はおよそ6:4)、教師50名を有する。教師の概要は以下のとおり。

役職	男性	女性	合計	年間給与 ⁴
Head Teacher	1	0	1	54,000Kina
Deputy Head Teacher	1	0	1	45,000Kina
Senior Subject Master	3	3	6	32,000Kina
Senior Teacher	3	9	12	27,000Kina
Assistant Teacher	13	17	30	18,000Kina
合計	21	29	50	-

【Wabag Primary School におけるジェンダー状況】

- ジェンダー平等を推進しているが、男子生徒から女子生徒に対する軽度のからかいはある。
- 低学年の頃は男女で大きな違いはないが、高学年(7-8学年)になるとよい成績を取るのには8割が男子、2割が女子になる。よい成績を取る女子はエンガ出身ではなく他の州(セントラルやポートモレスビーなど)出身者が多い。他州出身の女子生徒のほうがエンガ州出身の女子生徒より成績が良い理由としては、以下に挙げたような女子(女性)は成長するにつれ、人前で発言しないほうがよいとされる伝統的価値観の影響があると思われる。
- 女子は低学年の頃は賢く、授業にも積極的だが、徐々におとなしくなる。一番大きな要因は家族やコミュニティにおける文化であり、10歳を超えるころになると文化的な価値観(女性は男性に従うもの)を意識するようになる。そうすると、男子が人前でよく発言するのに対して、女子は積極的に話すことをためらうようになる。
- 上記のような価値観はエンガだけでなく、山岳部の州(ヘラ州、南部山岳州など)でよくみられる。
- 他方、エンガでも都市部では女性のエンジニアや医者が出てくるなど、女性が活躍するようになってきている。
- 1970-80年代は男女別に教育をしている学校があった。1990年代以降はジェンダー平等推進の政策がすすめられたため、男女同じ教室で学ぶようになった。

⁴ 給与は別途、校長に個別に確認した。給与は教育省によって基準が決められており、3年毎に次の3年間の給与システムが決められる。現在は、毎年3%昇給するようになっており、上記表の給与は2019年のもの。

- (校長の発言として) 男子生徒から女子生徒へのハラスメントを防止し、それぞれ学習に集中できる環境にするため、男女別クラスを採用することは有効である。また、(男性教師の発言として) **Reproductive health** などセンシティブな内容を教える際、男性教師から女子生徒では生徒側が恥ずかしがるため教えるのが難しいため、センシティブな内容は男性教師から男子生徒へ、女性教師から女子生徒へ教えたほうが円滑に進められると思う。
- 道徳や倫理などは **Personal Development (PD)** として、主に基礎学校にて教えているが、他の科目と比較してあまり重視されていない。この項目にジェンダー平等も含む。
- 男性優先の考え方はコミュニティや家族の影響が大きいため、成人識字教育プログラムを通じて地域住民に対して人権や男女平等の考え方を普及することが有効である。

以上

20. Wabag Primary school (女性教師)

会議名	Wabag Primary school (女性教師)
日時	2020年1月28日(火) 13:10~14:10
場所	Wabag Primary school
参加者	【先方】 Ms. Andrea, Teacher Ms. Jackline, Teacher Ms. Janet, Teacher 【当方】 三反畑 (記)

以下の面談記録について、特段記載がない場合はすべて先方の発言として記載する。

【教員歴・背景】

- 教師歴は Ms. Andrea と Ms. Jackline が 31 年、Ms. Janet が 40 年。Ms. Janet は過去に Wabag Primary School で教えており、現在はエンガ州の他の初等学校 (Sakarip Primary School) の教員をしている。情報交換のため、たびたび Wabag Primary School を訪れている。
- 教員になった理由は、地域の子供により教育を提供し教師や弁護士など世の役に立つ人材の育成に貢献したいと考えたため、教師として子供にとってよいモデルになろうとしたため。

【Wabag Primary School における教育状況】

- 7 教科のうち一番課題があるのは言語 (英語) である。ワバックではコミュニティや家庭では地域の言語が使われているため、英語やピジン語に触れる機会がほとんどない。子供は基礎学校で英語を習い始めるが、十分な英語力を持たないまま初等学校に進級することが多い。
- 英語に次いで課題があるのは数学と理科であるが、英語よりは理解度が高い。
- 教育システムとして OBE が導入されてから、統一された教材 (教科書、教師用ガイドブック等) がなくなったため、教育の質が低下したと考えている。
- 両親とは、各学期に 1 度 (1 年間に 4 回) 成績表を渡す際に学校における生徒の状況を伝えている。父親、母親どちらが来るかは家庭によるが、ワバックなど都市部では両親が仕事で忙しいため学校に呼ぶことが難しい。

【学校および地域におけるジェンダー状況】

- 男子と女子で授業内容の理解に大きな差はない。理解度により深く影響しているのは、教師の質と家庭環境 (特に両親の教育レベル) である。両親 (特に母親) が教育を受けている場合、生徒の成績もよい傾向にある。
- 仮に 1 クラス 35 名、男子 20 名、女子 15 名いるとしたら、最終学年まで卒業するのは男子 17 名、女子 10 名程度である。退学の理由は、以前は女子に対して高度な教育は必要ないという慣習的な考え方が多かったが、近年の主な理由は教育費が払えないなど資金的な理由が多い。

- 男子生徒が女子生徒をからかうことはあるが、最近は女子もそれに対して言い返す傾向が出てきた。
- 生徒間での問題（男子生徒による女子生徒のからかいなど）が起きた際は、**School counselor**（男女各1名）が問題の聞き取りを行い、必要な指導を行って解決を促す。
- 宿題は、生徒のレベルに応じて出している。女子生徒は家庭内で家事手伝いを求められることがあるが、母親が教育を受けている場合、宿題を優先させることが多い。宿題が優先されない状況が続く場合は、両親との面談の際に伝える。
- 男性教師とのコミュニケーションは特に問題はなく、お互いに対等かつ協力的に仕事をしている。
- 地域において、ワバックなど都市部では公共の場で女性が発言することが増えてきたが、農村部では公共の場での発言は男性が行うものという考えが多い。場所によっては女性の行動が制約されること（飛行機での移動禁止など）がある。

以上

21. Wabag Primary school (男性教師)

会議名	Wabag Primary school (男性教師)
日時	2020年1月28日(火) 14:30~15:30
場所	Wabag Primary school
参加者	<p>【先方】 Mr. George Titakai, Teacher Mr. Nathan Puio, Teacher Mr. John Kawi, Teacher Mr. Richard Lugabai, Teacher Mr. Jeffery Uwdip, Teacher</p> <p>【当方】 JICA Officer Mr. Allan, 三反畑 (記)</p>

以下の面談記録について、特段記載がない場合はすべて先方の発言として記載する。

【教員歴・背景】

- 教師歴は一番長い教師で31年、一番若い教師で2年。
- 教員になった理由は、当時は教員が公的な職業につく唯一の選択肢だったため(教師歴31年)、地元の学校で教師が不足していたため、他の進学先(大学等)と比較して教員養成校が安価だったため、親が教師だったため⁵、コミュニティに貢献したかったためなど。

【Wabag Primary School における教育状況】

- 7教科のうち一番課題があるのは言語(英語)である。ワバックではコミュニティや家庭では地域の言語が使われているため、子供は学校に進学して初めて英語に触れる。ただ、コミュニティや家庭では地元言語を使用するため、なかなか身につかない。
- 英語に次いで課題があるのは数学と理科である。ただ、この問題も数学や理科を英語で教えていることが大きな原因であり、理解を補足するため地元言語で説明すると、すぐに理解できる生徒が多い。

【学校および地域におけるジェンダー状況】

- 男子と女子で授業内容の理解はほぼ同じである。
- 授業の理解度は、生徒自身のIQ、適切な教材があるかどうか主に起因している。
- ただ、女子生徒の場合は、近隣で部族紛争が起きると安全性の観点から両親が学校に通学させたがらず、その期間の授業を受けることができないため、授業から遅れてしまうことがある。
- 男子生徒が女子生徒をからかうことはあるが、そうした場合は男性教師、女性教師ともからかわれている生徒を助けるよう行動する。場合によっては座席の配置換えなどを行う。
- 問題が大きい場合は、School counselor に対応する。
- 宿題の実施状況は男女によって差はない。宿題状況は家庭内の電気等のインフラ状況により

⁵ 教師を選択した理由が、親が教師だったためという教員は3名おり、親の職業が影響していることがわかる。

影響を受けている。

- 男女の修学状況の差は改善してきているが、依然、男子生徒数が女子生徒よりも多く、進学も男子生徒のほうがよい。初等学校卒業後の進学率は約 60%であるが、その中での男女比はおよそ 4:1 である。
- 男子の教育が優遇されるのは、娘は結婚すると他家族になるが、息子は自身の家を引き継ぐため。リタイアした後、子供（主に息子）が両親の世話をすることになるため、より高い教育を受けてよい職業についてほしいという希望がある。
- 他方、娘については、伝統的な価値観が強い父親は、結婚の際に婚資を受け取るため、娘を「資産」と考える。そのため、安全な環境に置くことを重視しており、進学して学校寮に入るなど家庭の外に出ることがあまり好まれない。

以上

22. Wabag Primary School (スクールカウンセラー)

会議名	Wabag Primary School (スクールカウンセラー)
日時	2020年1月29日(水) 9:00~10:00
場所	Wabag Primary School
参加者	【先方】 Mr. Peter Manne, School Counselor Ms. Jacqueline Stenlene, School Counselor 【当方】 JICA Officer Mr. Allan, 三反畑 (記)

以下の面談記録について、特段記載がない場合はすべて先方の発言として記載する。

【スクールカウンセラーとしての業務】

- Wabag Primary school には2名のスクールカウンセラー(男女各1名)がいる。スクールカウンセラーは教師が兼任しており、2人は無償でカウンセラー業務を行っている。
- 女性カウンセラーは PNGEI でカウンセリングについて学んだことがあり、男性カウンセラーは6か月間の基礎カウンセリングコースの研修を受講した。
- 2010年頃に作成された Behavior Management Policy and School Rules に基づいて、生徒にたいして違反行為等の指導を実施している。違反行為およびそれに基づく罰則は Major cases と Minor cases に分かれており、前者の内容がシリアスなので停学や退学になることもある。Minor cases の場合は警告等にとどめられる。
- 違反行為の報告があった場合、まず報告があった教師や生徒からの申告を受けて事実確認を行い、該当生徒への指導を行う。4-5回指導しても行動が改善されない場合は、School Administration Board に報告を行い、判断を仰ぐ。停学、退学等の判断は School Administration Board によってなされる。
- 男子から女子へのからかいは、女子が多いクラスではあまり発生しない。
- 生徒からの相談(特に虐待や放置など家庭内の問題)は、カウンセラー側から気づかない限り生徒からは積極的に言っていない。昨年のケースとして、父親が再婚したことで家庭内で十分に食事が与えられないなど放置されているケースがあった。
- 行動だけでなく、成績があまり良くない場合にも指導を行う。Wabag Primary School では問題行動は少ないため、一番多いカウンセリング業務は成績が良くない場合の指導である。主な原因は家庭環境(親が離婚して再婚後、あまり子供をケアしなくなったなど)が多い。
- 成績は1学期中に1回(1年間につき4回)試験を実施して図る。第8学年時には国家試験の受験がある。あまり成績が良くない生徒は国家試験をクリアできる可能性が少ないので、同じ学年で再度学ぶように勧めるが、親は留年を好まず、受験を希望することが多い。
- 留年は、昨年の場合学校全体で約100名おり、男子生徒のほうが多い。これはももとの母数が男子生徒のほうが多いためである。
- 成績がよい生徒には Award が与えられる。理数科でも男子、女子生徒双方が選ばれることがあり、特段男女の差はない。

以上

23. Wabag Primary School (生徒の父親)

会議名	Wabag Primary School (生徒の父親)
日時	2020年1月29日(水) 14:30~15:30
場所	Wabag Primary School
参加者	【先方】 Mr. Peter Keoakan, Deputy Chairman, Wabag Primary school Mr. Leo Yari, Assistant staff Training Officer 【当方】 JICA Officer Mr. Allan, 三反畑 (記)

以下の面談記録について、特段記載がない場合はすべて先方の発言として記載する。

【家庭状況など】

- Mr. Peter Keoakan は同校の Deputy Chairman として働いており、7名の子供（息子4名、娘3名）がいる。うち、3名が Wabag Primary school で学んでおり、息子2名が Grade 6、Grade 3、娘1名が Grade 8 にいる。
- Mr. Leo Yari は同校の Assistant staff Training Officer (元 Community School teacher) であり、またコミュニティリーダーも務めている。6名の子供がおり、2名の息子と2名の娘が成人済みで、娘の2名が就学中（1名が Grade 11、もう1人が Grade 4）で学んでいる。現在、Wabag Primary school に通学中の1名以外も全員 Wabag Primary school を卒業している。

【Wabag Primary school について】

- Wabag Primary school の教育には満足している。
- Wabag Primary school は町の中心部にあり、警察なども近いため、他の初等学校（特に遠隔地域の学校）と違って部族紛争に巻き込まれて、授業がストップしたりすることがない。安全な学校なので子供を安心して通わせることができる。
- また、男子生徒も女子生徒も平等に扱われ、何か問題が起きても先生がきちんと対応するので安心できる。

【地域の教育・ジェンダーに関する考え】

- 以前（1980年代）はワバックでも女子は教育を受ける必要がなく家事をして早く結婚するべきという考え方があったが、教育の重要性が浸透したことで、男女とも教育を受けさせるべきという考え方に変化していった。
- 教育の重要性が浸透した要因としては、エンガ州州知事が教育の重要性を推進したこと、また、教育を受けた者がよい職業につき収入が得られるようになった実例（モデル）が増えてきたため。富裕層は子供を海外（オーストラリア、フィリピンなど）に留学させ、そうした子供がより富をもたらした。
- また、エンガ州では5つの District で1つの共通言語が使われているため、上記のような情報が地域の中で早く浸透しやすいという背景⁶もある。

⁶ 他の地域の言語状況と比較すると、セントラル州では4つの District で20-30の言語が使用されている。

- そのため、教育費が十分でない場合でも男女ともに教育を受けさせようとする両親がエンガ州、特にワバックなどの都市部では多い。
- エンガ州含め PNG では家族内の相互互恵の考えがあるため、収入がない家族がいると、他の家族が面倒を見る必要がある。例えば、両親+4名の子供がいる場合、子供のうち1名だけが収入が得られている場合、両親のリタイア後、両親+他の兄弟3名の面倒を見る必要がある。そうすると一部の子供に負担がかかることになるので、できる限り全員教育を受けさせ、仕事につけるようにしたいと考える両親が多い。
- 教育や結婚など家庭内の重要事項は夫婦で話し合っ決めて。意見が分かれることは少ないが、意見が違う場合も話し合っ決めて。

【コミュニティリーダーの役割 (Mr. Leo Yari からの聞き取り)】

- コミュニティリーダーの役割は主に①地域で発生した問題を解決すること、②良き市民としてのモデルとなることである。
- 地域で発生する問題としては、男性の飲酒やドラッグによる暴力、家庭内暴力、部族紛争など。警察や裁判所に行く前に、当事者双方の意見を聞き、地域内で解決策を提示する。それでも解決されない場合、警察や裁判所に持っていく。
- 地域住民に対して、男女の役割について説くことがある。

以上

24. Wabag Primary School (学校施設見学)

会議名	Wabag Primary School (学校施設見学)
日時	2020年1月29日(水) 14:00~14:30
場所	Wabag Primary School
参加者	【当方】 JICA Officer Mr. Allan, 三反畑 (記)

【学校施設見学】

- Grade ごとに教室があり、全部で 40 クラスある。
- 生徒用トイレは 4 か所ある (鍵がかかっていたため中までは確認できず)。
- 水飲み場が 4 か所ある。
- コンピュータールームもあり PC が 50 台ある。
- 他の主要な施設として、図書室、教員用食堂、教員用宿舎 (17 名うち 13 名女性教師) がある。
- 警備員が 5 名おり、昼間 2 名、夜間 3 名で 24 時間態勢で警備している。

以上

25. エンガ州教育局 (Director)

会議名	エンガ州教育局 (Director)
日時	2020年1月28日(火) 10:00~10:20
場所	Provincial Education Office
参加者	【先方】 Mr. Rowatina Was, Director of Education & Social Service in Enga Province 【当方】 JICA Officer Mr. Allan, 三反畑 (記)

以下の面談記録について、特段記載がない場合はすべて先方の発言として記載する。

【エンガ州における教育およびジェンダー状況】

- 州教育局はエンガ州における教師の配置、州内の学校の監督等を担っている。
- 20年前までは男女平等などジェンダーに関する配慮はなかったが、現在は重要な教育政策の一つである。教育における男女平等が推進された結果、エンガ州でも女性エンジニアや女性医師が誕生している。
- もともとエンガ州を含む山岳地方では、男性が女性より優れている、女性は男性に従うものという伝統的な考え方が強かった。その主な要因は婚資の習慣だと思う。婚資のため、男性、特に父親が女性を「財産」のように扱う傾向があった。
- 現在でも婚資の習慣はあり、教育を受けた男女であっても婚資を送るケースがある。
- エンガ州の住民のおよそ20%が都市部に住み、80%は農村部に居住している。
- 約1/4-1/5の学校(特に農村部の基礎学校、初等学校、中等学校)が何らかの理由で開校していない。一番大きな原因は部族紛争の影響であり、次いで、遠隔地にあるため教師がいない・不足していることである。

以上

26. エンガ州教育局 (視学官)

会議名	エンガ州教育局 (視学官)
日時	2020年1月28日(火) 10:30~11:10
場所	Provincial Education Office
参加者	【先方】 Mr.Bill Yotee, Provincial Senior Inspector 【当方】 JICA Officer Mr. Allan, 三反畑 (記)

以下の面談記録について、特段記載がない場合はすべて先方の発言として記載する。

【視学官としての業務】

- 視学官は教育省から派遣されている。業務としては、担当州内の学校の視察・評価を行い、各学校に必要な指導を行うとともに、視察・評価結果を教育省に報告すること。学校の評価は教育省のチェックリストに基づいて実施する。
- エンガ州では11名の視学官のポストがあるが、現在6名しかいないため、本来監督者である自身(上級視学官)も学校の視察を実施している。視学官の男女比は5:1。
- 自身は12年間中等学校の教員をしており、その後エンガ州の視学官として15年、上級視学官として11年間業務をしている。

【エンガ州の教育およびジェンダー状況】

- エンガ州の192校のうち運営されているのは156校であり、残り36校が何らかの理由で閉鎖している。
- 閉鎖の最も大きな原因は部族紛争で、部族紛争があると赴任している教師が危険を感じて外部に避難するため、授業ができなくなる。
- 他の要因は学校が遠隔地域にあるため、赴任する教師がいない場合がある。遠隔地は、教師の住居、食糧供給などに難がある場合が多く、また、部族紛争等が起きた場合でも他地域へのアクセスが困難であるといった理由から州教育局で教師配置が決められても、変更希望を出すなど赴任したがる教師が多い。
- また、近隣で部族紛争が起きている場合、両親が女子生徒を通学させない場合がある。
- 学内におけるジェンダー状況は近年改善されてきており、女子の就学率が改善してきている。
- 学校視察を通じて、男性教師と女性教師では女性教師のほうが、よりコミットがあり、児童をよく気にかけていると感じている。男性教師のほうがよりよい待遇を求めて、他地域への移動を希望することが多い。
- 視察の際は、トイレや水道など衛生施設のチェックも行う。昨年視察した学校のうち6校(基礎学校4校、初等学校2校)にて適切なトイレがないなど問題があった。問題を見つけた場合、校長に対して期限を決めて改善指示を行う。

以上

27. Gaulim Teacher College

会議名	Gaulim Teacher College
日時	2020年2月3日(月) 8:40~10:30
場所	Gaulim Teacher College
参加者	【先方】 Mr. Matei, Principal、副校長2名、他教師15名 【当方】 JICA Officer Mr. Allan, 三反畑(記)

以下の面談記録について、特段記載がない場合はすべて先方の発言として記載する。

【学校内のジェンダー状況】

- 教員は34名(女性21名、男性13名)。
- 生徒数は男子生徒のほうが多いが、徐々に女子生徒も増え男女平等になりつつある。生徒は教育省のオンラインシステムによって入学可否が判断される。成績以外に特に条件は設定しておらず、男女同等の条件で入学する。
- 学校独自のジェンダーポリシーはないが、教育省の方針に従いジェンダー平等を実施している。具体的には男女混合の名簿を使用したり、グループワークの際にグループ内の男女比率が偏らないように注意している。
- 退学率は若干女子生徒のほうが高い。主な退学理由は、男子生徒は規律を守らないことであるのに対し、女子生徒は妊娠が理由となることが多い。男女に共通する理由は、進級に必要な成績が取れないこと。また、授業費が問題になることもあり、女子向けの奨学金制度があればよいのではないかと。
- スクールカウンセラーがいないため、生徒が何か困った場合は学部長が対応する。男女各1名の学部長がいる。そのため、女子生徒がなんらかのハラスメントを受けた場合には女性の学部長に相談できるが、専任ではないため対応できる時間は限られる。
- 授業中の受講態度は男女生徒で大きな違いはない。
- 女子生徒は男子生徒と比較して積極的に話さない傾向にあるため、なんらかの問題が生じても公にしない傾向にある。また、過去にハラスメントを受けて相談したが解決しなかった経験があると、相談しても意味がないと考え、相談に来ないことがある。
- 設備が十分ではないことが女子生徒の進学を妨げている理由の一つであり、具体的には十分な水道、寮が不十分である。また、トイレや室内の照明が限られている。寮は本来、2人で1室だが人数が多いため8人1室となっている。そのため、勉強する場所がなく、廊下に長机を置いて勉強している。
- 安全性も課題の一つであり、寮周辺の一部のフェンスが壊れているが、費用不足により修復できていない。

【理数科における男子生徒・女子生徒の状況】

- 数学に関する賞(アワード)は男子生徒がとり続けているなど、女子生徒は理数科(特に数学)が苦手である。
- 女子生徒が数学を苦手な理由として、数学はもともと男性が担っていた仕事(カヌー作りな

ど)に強く関連していることが影響していると推測する。もともと数学は男性が学ぶものという印象があるため、数学が得意ではない、もしくは、数学を学ぶことに積極的ではない女子が多いのではないか。

- 理科で言うと、生物と地学は男女大きな差はないが、物理は数学と同じく男子生徒が女子生徒より成績が良い傾向がみられる。

以上

28. Sonoma Adventist College

会議名	Sonoma Adventist College
日時	2020年2月4日(火) 8:10~10:00
場所	Sonoma Adventist College
参加者	【先方】 Mr. Isako Esekia, Principal Mr. Seth Puivui, Mathematics Lecturer 【当方】 三反畑

以下の面談記録について、特段記載がない場合はすべて先方の発言として記載する。

【学校内のジェンダー状況】

- 同校では5コース開講しており、そのうちの 하나가教員養成である。全体の生徒数は618名(女子生徒:236名、男子生徒382名)。教員養成は基礎教員と初等教員に分かれており、男女比は以下のとおり基礎教員養成は90%近くが女性だが、初等教員養成は約半々である。

コース	女性	男性	合計
基礎教員養成1年	19	5	24
基礎教員養成2年	9	2	11
初等教員養成1年	30	37	67
初等教員養成2年	27	30	57
初等教員養成3年	35	29	64
初等教員養成4年	13	9	22

- 教員は17名のうち、男性教師が10名、女性教師が7名。理数科に限ると男性教師が4名、女性教師が2名。男性教師・女性教師間のコミュニケーションには特に問題はない。
- 授業態度は、女子生徒のほうが男子生徒より事前準備をしっかりと行うなどよい傾向にある。
- ハラスメントが起きた際に女性教師(Head of Department)に女子生徒が相談する。過去の例として、男子生徒が女子生徒にストーカー行為を行い、別クラスに配置替えをしたことがある。
- 退学率は男女とも大きく変わらない。最も大きい理由は学校費用の問題で、ドミトリーに入っている生徒で年間13,000Kinaかかるため、次年度の支払いができず学校を去る生徒がいる、妊娠で退学する女子生徒は教員養成コースを含む全コースで年間3-4名程度。
- 宿舎は男女とも6つ寮があり、それぞれ40名約240名が生活している。4名1室で本来2名1室が望ましいところ、人数が過剰になっている。
- 倫理(宗教)に関するクラスは1つあり、信仰、モラル、尊敬、誠実さなどを教えている。
- 以前は、教育費に制約がある場合は男子を学校に進学させる傾向にあったが、近年は成績によって判断する家庭が増えている。

【理数科における男子生徒・女子生徒の状況】

- 男女で理数科の成績に大きな差はないが、理数科は他の成績と比較して男女ともにあまり良くない。全体的に平均が低い傾向にある。
- 中等学校で上級数学もしくは一般数学を選択することになっているが、教員養成校に入学す

る生徒の過半数が一般数学を選択しており、あまり数学が得意ではない。上級数学を選択している生徒の多くは大学に行き、エンジニア、医者、建築家、弁護士、会計士などを目指す。

- 理科に関しては、同校に進学する 90%近くの生徒は中等学校時代に人文学系の科目を選択しており、物理、化学、生物など理科系科目を選択しているのは 10%にとどまる。理科は難しいものと考えていること、実験の経験がないため理論のみでの理解が難しいことが要因として考えられる。
- このように数学・理科とも中等学校までの成績や苦手意識が影響しており、理数科が得意ではない生徒が初等教員になることで、初等学校で理数科の苦手意識を持つ生徒が生まれるという悪循環が続いていると推測する。
- 上記の対策のために同校では第 1 学年の 1 学期に、数学基礎コース、理科基礎コース、人文科学基礎コースを開講している。数学コースは基本的に全員が受講し、理科コースは中等学校時に人文科学専攻だったもの、人文科学コースは理科専攻だったものが受講する。

以上

29. Divine Word University

会議名	Divine Word University
日時	2020年2月4日(火) 13:30~15:10
場所	Divine Word University
参加者	<p>【先方】 Mr. Melchior S. Bokalen, Head of Lecture Mr. Petronila Kanai, Lecturer Ms. Mary Lulubo Tatalu, Lecturer Ms. Loyola Sianot Nolis, Tutor Mr. James Panny, Senior Tutor Mr. Terence Subam, Senior Tutor Mr. Alphonse Dede, Lecturer Mr. Fhox Yegaha, Head of Education/Lecturer Ms. Mary Couise Jal, Lecturer Ms. Carolyn Pakare, Lecturer</p> <p>【当方】 三反畑</p>

以下の面談記録について、特段記載がない場合はすべて先方の発言として記載する。

【学校内のジェンダー状況】

- 4学年×4クラスあり、男女比はほぼ同数である。
- 教師は17名のうち、女性が9名、男性が6名。理数科は5名で、女性が1名、男性が4名。
- 学校内におけるジェンダー平等を推進している。
- 授業態度は女子生徒のほうが男子生徒より静かであり、質問への回答は男子生徒がより積極的に行う。

【理数科における男子生徒・女子生徒の状況】

- 数学の成績は男女とも大きな違いはない。Grade 12の時点で数学を専攻していた生徒は男女ともに数学が得意な傾向にある。
- 数学は抽象的なので、実践的な方法で教えるように留意している。具体的な事例を使うと、生徒の理解がよくなる。
- 数学は概念を理解できるかどうかによって関心を持てるかどうかが変わる。そのため、言語（英語）の理解が数学においても重要である。数学の概念を英語で理解して、適切な用語を使用できる生徒は成績が良い傾向にある。
- 伝統的な知識に基づく数学と近代的な数学を融合させる必要がある。伝統的な知識に基づく数学は、例えば、カヌーの作成や1頭の豚を複数人で分けるにはどうすべきかなど、PNGでもともと使用されていた数学的概念を指す。
- （数学以外の教師からのコメントとして）自身も数学が苦手だったため何度も練習をした。また授業は単に教えるのではなく、双方向的であると学びが深まる。

【学内におけるハラスメントの有無】

- ハラスメントを行わないよう、生徒自身によるアドボカシー活動が行われている。
- 男子生徒から女子生徒へのハラスメントに関しては、女子生徒があまり話したがらない。個人差はあるが男子生徒のほうが女子生徒より攻撃的な性格を持つ傾向にある。
- 女子生徒は男子生徒と比較して、自信がある生徒が少ない。そのため、ハラスメントを受けても積極的に発言、対応しようとする生徒が少ない。
- 以前、女子校だったため、当時は女子に対するリーダーシップ研修を実施していた。
- 生徒組織（Student Representative Council: SRC）のリーダーを男子生徒の次は女子生徒が担うようにするなど、女子生徒のリーダーシップを醸成する取り組みを実施している。

【その他】

- 初等学校、基礎学校の課題として、初等教員養成校を卒業した新しい教員が新しい指導法を実践しようとしても、ベテランの教師からの反発があり、古い指導法が繰り返されるという問題がある。

以上

30. Kokopo Secondary School

会議名	Kokopo Secondary School
日時	2020年2月3日(月) 13:30~14:30
場所	Kokopo Secondary School
参加者	【先方】 Ms.Doreen Ezekiel, Deputy Principle for Academics 【当方】 三反畑(記)

以下の面談記録について、特段記載がない場合はすべて先方の発言として記載する。

【学校内のジェンダー状況】

- 生徒数は2019年で1238名。男女比は666:572と男子生徒が多い。
- 教師数は女性教師43名、男性教師26名、合計69名と女性教師のほうが多い。
- Grade 9~Grade 12までを対象としている。Grade 10の最後に国家試験があり、Grade 11に進学できるかどうか決まる。約60%がGrade 11に進学する。Grade 11と12のクラス数が各6クラスと決まっているため、一部生徒はGrade 11に進む学力があっても枠がないため、他の学校に進学する場合もある。また、最も成績がよい生徒数名は国立の中等学校に進学する。
- 学年ごとの男女構成比はGrade 9の時点ではほぼ同数だが、Grade 10の時点で約50名の男女差が出る。妊娠や授業料の問題で女子生徒のドロップアウトのほうが多い。Grade 9, 10は各学年9-10クラスあるが、Grade 11とGrade 12は教育の質を保つため、6クラスまでとしている。
- 卒業後は約50%の生徒が大学進学を希望し、教員養成校への進学を希望するのは10-20%である。教員養成校進学を希望する生徒は減ってきていると感じている。理由は不明だが、教師の待遇(特に給与)が影響しているのではないかと推測する。

【理数科における男子生徒・女子生徒の状況】

- Grade 11から科目が選択制になる。英語と数学は各クラスの共通科目だが、数学は一般数学(General Mathematics)と上級数学(Advanced Mathematics)を選択できる。6クラスの内訳は、①Business, ②Social Science, ③④Social Science1科目、Science2科目、⑤混合クラス(一般数学選択)、⑥混合クラス(上級数学選択)である。
- 数学に関しては、女子は一般数学を専攻する傾向にある。同じ学力レベルの男子生徒と女子生徒がいた場合、男子生徒は上級数学を選択し、女子生徒は一般数学を選択する。男子生徒が難しいほうに挑戦する傾向があるのに対し、女子生徒はプレッシャーを好まず、一般数学を選択する傾向にある。
- 一部の女子生徒は上級数学を選択している。家庭環境(親の教育レベル)が影響しているのではないかと推測する。

以上

31. Malabanga High School (副校長)

会議名	Malabanga High School (副校長)
日時	2020年2月3日(月) 11:10~11:40
場所	Malabanga High School
参加者	【先方】 Mrs. Tonga, Deputy Principle for Administration 【当方】 JICA Officer Mr. Allan, 三反畑 (記)

以下の面談記録について、特段記載がない場合はすべて先方の発言として記載する。

- 着任して3日目なので、学校の情報はまだよく理解していない。以前は、女子中等学校に勤務していた。
- 生徒数は530名程度。生徒の男女比は男子生徒が若干多い。25名いるとしたら、15名が男子生徒で10名が女子生徒。
- 教師は女性教師のほうが多い。校長は男性だが、教科主任 (Head of Department: HoD) や一般教師は女性教師が多い。
- 数学は男子のほうが得意な場合が多い。理科は男女で大きく変わらない。
- 理数科の成績が優れている場合でも、女子生徒は確実に進学できる進学先を選ぶ傾向にある。特にエンジニアリングは学べる大学が少なく競争率が高いので、女子生徒は確実に進学できる看護学校などを Grade 12 の時点で選択する傾向にある。

以上

32. Malabanga High School (数学科目主任)

会議名	Malabanga High School (数学科目主任)
日時	2020年2月4日(火) 11:00~12:00
場所	Malabanga High School
参加者	【先方】 Mr. John Pirimin, Head of Department Mathematics 【当方】 三反畑

副校長からの紹介を受けて、数学の科目主任を訪問した。理科の科目主任は不在だった。以下の面談記録について、特段記載がない場合はすべて先方の発言として記載する。

- 数学の科目主任を務めており、カリキュラムの開発や科目全体のレポート作成、他数学教師からの相談などを担当している。本校では4年間教えており、他学校での2年間の経験を含め6年間の教師経験がある。
- 生徒数は918名。正確な男女比はわからないが、女子生徒のほうが50-60名ほど多い。
- 数学では男子のほうが女子の成績より良い。数学は上級数学と一般数学に分かれているが上級数学31名のうち、男子生徒は22名、女子生徒は9名となっている。Grade 10時点の成績で75%以上の成績を収めていたら上級数学、75%未満であれば一般数学を受講する。
- 上級数学を選択する生徒は他科目として理科系(物理、化学、生物、地学)やビジネス関係(ビジネス、会計など)を選択する傾向にある。
- 女子生徒は選択科目で人文科学やビジネス関係を選択する傾向にある。
- 理数科が得意ではない背景は、教育の質(教科書が十分にない、理科科目では実験器具がないなど)が大きい。上記の理由は男女に共通する要因なので、女性生徒が男子生徒よりも理数科が不得意な理由は不明である。
- 数学と理科の成績に相関関係は必ずしもなく、数学と理科いずれかが得意でもう一方は得意ではない生徒が大半を占める。
- Grade 11への進学できるかどうかは、上位評価(Distinction, Credit, Upper Pass)を下位評価(Pass, Fail)よりも多く取得できるかどうかによる。進学しなかった生徒はオープンキャンパスで学んで再度挑戦するか、職業訓練校に行くか、自宅に戻るかのいずれかの選択肢が多い。
- 授業費は去年まで教育費無償化政策により安くなっていたが、政策変更のため以下のとおり今年(2020年)から上がった。無償化政策時代は自身や家族が支払いをしていないため、熱心に勉強をしない生徒も見受けられた。
 - Boarding student 800Kina→1800Kina
 - Day student 700Kina→1600Kina
- 卒業後は大学進学が10%、教員養成校が25%、その他専門学校が25%。大学と専門学校は男子生徒の進学が多く、教員養成は男女半々程度である。
- 女子生徒に対しても新しい領域にチャレンジするよう奨励しており、電気工学を学ぶために

大学に進学した女子生徒もいる。

以上

33. Olsh High School

会議名	Olsh High School
日時	2020年2月5日（水）10:00～11:20
場所	Olsh High School
参加者	【先方】 Mr. Raymond Kawanauur, Deputy Principal Administration 【当方】 三反畑

以下の面談記録について、特段記載がない場合はすべて先方の発言として記載する。

- 1957年に設立されたカトリック系の女子中等学校。
- 生徒数は昨年度の時点で以下のとおり。今年度は800名以上になる見込みである。

学年	寄宿生	通学生	合計
Grade 9	99	138	237
Grade 10	97	136	233
Grade 11	66	75	141
Grade 12	81	70	148
合計	324	435	759

- 教師は26名で、男性教師7名、女性教師19名。校長と副校長（Administration）は男性だが、副校長（Academics）と科目主任（Head of Department）4名は全員女性である。
- 同校は教会によって設立された。女子校として設立された主な理由は以下のとおり。
 - 設立当時、女性のエンパワーメントの必要性から女子教育を促進するため。
 - 家庭内で家族をケアする役割を担う女性が教育を受けることで、より家庭環境が改善されると考えられたため。
 - 女性の教育を行うことで、女性がより自信を持ち自分の意見を表明できるようになるため。
- 理数科含めてPNGの中でもよい成績を残しており、2018年度には教育省から表彰された。よい成績を残している理由として、Mr. Raymond Kawanauur から以下の点があげられた。
 - マネジメントがしっかりしている。例えば、他校は今週を登録期間として授業を開始していないが、同校はすでに生徒登録を完了させ、今週から授業を開始している。
 - 教師のコミットメントがある。授業を時間通りに開始している。また、他の学校と違い空席がなく、必要な教員数を満たしている。なお、生徒と教師の比率は55:1と理想的な生徒：教師比率に対して生徒数が若干多い。
 - カトリック系なので宗教に関して学ぶ時間がある。宗教を学ぶことで生徒は穏やかな気持ちになり、勉強に集中できる。PNG全体でみてもミッション系の学校のほうが成績が良い傾向にある。
- 他方、数学は他の科目と比べると難しさを感じる生徒が多い。数学の抽象的な概念に慣れていない生徒が多く、初等学校など早期から数学の考え方に慣れ親しめば改善されるのではないかと思う。初等学校の教師の数学理解のレベルが十分でないことも影響している。
- Grade 9 から Grade 10、Grade 11 から Grade 12 での退学率は低い。国家試験がある Grade 10

および Grade 12 の最後では人数が減少する。Grade 12 の卒業後に進学するのは約半数であるが、たとえ勉強ができていても費用の問題で進学を断念する生徒がいる。生徒の多くは村出身で、両親は農業に従事している。学力的に進学が難しかった生徒はオープンキャンパスにより再受験を検討するか、職業訓練校に進むことが多い。

- 卒業後の進路としては47%が大学、教員養成校など何らかの形で進学している。昨年度の148名中大学に進学したのは8名で、うち3名が理数関係に進んでいる。教員養成校に進むのは約20%であり、そのほかは看護学校やビジネス関係の学校に進学している。
- 女性が就職しやすい職種は、教員、看護師が主であり、エンジニアなど男性優位の職業ではたとえ能力があっても、男性ばかりの環境を恐れて躊躇する女性が多い。

以上

34. Kabaleo Primary School (教師)

会議名	Kabaleo Primary School (教師)
日時	2020年2月5日(水) 13:30~14:20
場所	Kabaleo Primary School
参加者	<p>【先方】 Mr. Isaiac Abrahm, Deputy Head Teacher Ms. Millicent Bokalen, Assistant Teacher Ms. Miriam Romulus, Assistant Teacher</p> <p>【当方】 三反畑</p>

以下の面談記録について、特段記載がない場合はすべて先方の発言として記載する。

【学校内のジェンダー状況】

- 生徒数は360名程度で、1学年当たり60名(3クラス×20名)。男女比は若干男子が多いものの、ほぼ同数。学校校舎のリノベーションもあり、2020年の授業はまだ始まっていない。
- 教員数は20名で、女性教師15名、男性教師5名。校長および副校長は男性で、シニア教師5名(うち4名が女性)、アシスタント教師13名(うち11名が女性)である。女性教師・男性教師間のコミュニケーションは特に問題はなく、お互いに尊重しあい、自由に意見交換できている。
- 近年、同校では女子生徒の成績が男子生徒より良い傾向にある。期末の優秀賞なども女子生徒がとることが多い。
- 男子生徒は友人間の付き合いで授業をさぼることが女子生徒より多い。1週間のうち、女子生徒が学校を休むのは1日あるかないかだが、男子生徒は3-4日いない場合がある。
- またコミュニティ内のイベント(結婚式等)やスポーツ観戦のため学校に来ないこともある。このように授業の出席率が悪いため、男子生徒の成績が悪い傾向にある。
- 生徒が携帯を持ち友人間の連絡やイベントの情報の入手が手軽にできるようになったことが学校をさぼる原因の一つだと思う。学校への携帯持参は禁止されているが、携帯を所有している生徒は多い。また、家で使用することで宿題や勉強の時間が減っている。
- 男子生徒のほうが女子生徒より、飲酒、喫煙、チューイングなどの問題行動が多い。
- 同校には生徒の行動を規律するCode of Conductがあり、まず問題行動が発覚した場合は、クラス担当教師が注意を行う。3回以上問題行動の注意を受けた生徒は、親への連絡(Notification letter)が出され、副校長へ報告される。それでも直らない場合は、校長へ報告され、最終的に学校委員会で処分(退学・休学など)が決定される。
- 東ニューブリテン州ではGrade 5、Grade 7の期末にベンチマークテストを実施しており、既定の成績に満たない生徒は留年することになる。昨年、同校のベンチマークテストではGrade 5の64名中半分の32名、Grade 7の55名中20名が留年となった。具体的な数値は覚えていないが、男子生徒のほうが留年率が高い。
- 成績不振の主な原因は授業の欠席であり、その主な要因として以下があげられる。

- 教師の不在
- 学習内容の難しさ
- 友人間の付き合い、および、友人間の同調圧力（特に男子生徒）
- その他のイベントへの参加（コミュニティやスポーツイベントなど）
- 男子生徒が女子生徒をからかったりすることはあるが、暴力をふるったりなどの深刻なケースはほとんどない。
- 設備としては、女子トイレはあり清潔に使用されている。水の供給もあるが、タンク数が十分ではない。

【理数科における男子生徒・女子生徒の状況】

- 8科目のうち、特に数学の成績が良くない。理科が60点前後なのに対し、数学の平均点は約40点。数学の内容が抽象的なので、生徒になじみがなく理解が難しいのではないかと思う。
- 理科・数学においても、女子生徒のほうが成績が良い。

以上

35. Kabaleo Primary School (JICA ボランティア)

会議名	Kabaleo Primary School (JICA ボランティア)
日時	2020年2月5日(水) 14:20~14:40
場所	Kabaleo Primary School
参加者	【先方】 JOCV 合田尚人氏 【当方】 三反畑

以下の面談記録について、特段記載がない場合はすべて先方の発言として記載する。

- 昨年7月に PNG に着任し、同10月より Kabaleo Primary School に理科教師として赴任している。昨年は Grade 6 と 7 を担当した。
- 男女間の成績に関しては、学校教員と同じく、女子のほうがよいという印象を持っている。
- 子どもたちは比較的農村部出身が多い。本校自体が農村部にあり、学校よりさらに奥の農村部から通ってきている児童が多い。
- 特に女子は自分たちで注意しあえるなど、PNG の他学校の話と比較して、まじめな生徒が多い。
- 比較的高学年（日本での中学 1, 2 年に該当）を担当しているためか、男子生徒と女子生徒間の交流は少ない。着席も生徒に任せていると、男子と女子で別れて座っている。
- PNG における女性の状況は、事前に聞いていた内容よりはひどくないと感じている。女性が被害者となる犯罪が多いことや家庭内暴力の状況まではわからないが、通常、近隣に住む住人と接している範囲では女性も男性と対等に話している印象がある。これは、現在の居住地が都市部の高級住宅地にあるためかもしれない。

以上

36. 州教育局（州教育アドバイザー）

会議名	州教育局
日時	2020年2月5日（水）8:45～9:30
場所	州教育局
参加者	【先方】 Mr. Alkon Mararang, Acting Education Advisor/ Provincial Education Planner 【当方】 三反畑

以下の面談記録について、特段記載がない場合はすべて先方の発言として記載する。

- 州全体では360前後の初等学校、15の中等学校、8の職業訓練校がある。初等学校のうち約5%は遠隔地域にあり、また、同地域の居住者（生徒の両親）が食料や職業を求めて移動する傾向にあるため、生徒数が少なくなり閉校しているケースがある。
- 東ニューブリテン州全体での教育に関する課題は、主に以下の3点が挙げられる。
 - ① 州教育局にとって、地理的にアクセスしにくい場所にある学校の監督や視察が困難であること。
 - ② 学校の土地の所有者が土地代の支払いを求めていることが増加していること。もともと学校の土地は無償で提供されていたが、現金経済に移行するにつれて土地使用料の支払いを求める所有者が増えてきた。
 - ③ 教師に対する技術的・専門的なサポートが不足している。教師は同じ学校以外の教師との交流の機会が少ない。NZ政府による Volunteer Service Abroad (VSA) など、海外での経験を積む機会も増やしたいが資金が限られている。学外の交流が少ないのは、PNGが多文化・多民族であることも影響しており、同じコミュニティ内での相互協力には積極的だが、他コミュニティに対しては積極的に支援しない傾向がある。
- ココポにおける教育状況調査によると、全体的に女子生徒の成績のほうがよい。
- 教師について、初等学校は教師の男女比がほぼ同数であるのに対し、中等学校や職業訓練校では男性教師のほうが多い。また、校長や副校長などマネジメントレベルになると女性はさらに少なく、東ニューブリテン州全体で女性の校長は2-3名である。機会は同等に提供されているため、なぜ女性のマネジメント層が少ないかは不明。

以上

37. 州教育局 (TVET 視学官)

会議名	州教育局 (TVET 視学官)
日時	2020年2月5日 (水) 9:30~9:40
場所	州教育局
参加者	【先方】 Senior Inspector (TVET 担当) Ms. Fatima 【当方】 三反畑

初等学校、中等学校担当の視学官が不在にしているため、職業訓練校担当の視学官に聞き取りを実施した。以下の面談記録について、特段記載がない場合はすべて先方の発言として記載する。

- 視学官による学校視察は、昨年よりオンラインシステム化した。タブレットに結果を蓄積し、オンラインでデータを送るため、データの集積が簡単になった。
- 視察のチェックリストにはジェンダーの観点も含まれている。
- 男性教師と女性教師では、男性教師が6-7か月間不在になる人物がいるのに対して、女性教師ではそんなことがない。
- 職業訓練校には一般的に Grade 8 卒業後に進む。職業訓練校を卒業しても Grade 10 もしくは Grade 12 の卒業資格がないと、就職は難しい。そのため、職業訓練校で得たスキルを基に自身で小規模ビジネスを行う卒業生が大半である。
- 職業訓練校での訓練内容は電気工学 (Auto electronics)、自動車 (Auto mobile)、服飾 (Tailoring) など。服飾はほぼ 100%女子生徒だが、その他の分野 (電気工学、自動車) を学ぶ女子生徒もいる。

以上

38. 州教育局（初等学校視学官）

会議名	州教育局（初等学校の視学官）
日時	2020年2月5日（水）15:10～15:30
場所	州教育局
参加者	【先方】 Ms. Mosi, Senior Inspector (初等学校担当) 【当方】 三反畑

以下の面談記録について、特段記載がない場合はすべて先方の発言として記載する。

- 初等学校のモニタリングを通して、女性教師のコミットメントが高く、パフォーマンスがよい傾向にある。男性教師もパフォーマンスがよいケースがあるが、長期不在にしがちなのは男性教師のほうが多い。また、女性教師は母のように生徒たちに接するのに対し、男性教師は生徒より自身の昇進に関心が高いことが多い。
- 初等学校の8科目の中で理数科、特に数学の成績が良くない。特に問題なのは高学年のGrade 7とGrade 8で、内容に自信がない教師は該当のトピックを飛ばしてしまうことがある。
- 教師の授業内容に対する理解が深いと自信をもって授業を行うため、生徒たちの理解もよくなるが、教師の理解が不十分だと自信がない項目は上記のように飛ばしてしまうので生徒の成績が悪くなる。
- 初等教員の理数科に対する理解や自信を深めることが特に重要であると感じている。
- チェックリストでは直接的にジェンダーに関する課題の聞き取りは実施していないが、教師や生徒数を男女別で確認して男女のバランスを確認したり、施設面では男女別に寮の数を確認している。

以上

39. Sacred Heart Teacher College (教員)

会議名	Sacred Heart Teacher College (教員)
日時	2020年2月7日(金) 10:30~12:10
場所	Sacred Heart Teacher College
参加者	<p>【先方】 Mrs. Theckler Aknonero, Principle Ms. Rose Polume, Deputy Principle for Academics Mr. Caspar Nakau, Deputy Principle for Administration Mr. Gerard Buzauic, Head of Department of Mathematics Ms. Lynette Toliman, Science Lecturer Mr. Augustine Mara, Mathematics Lecturer</p> <p>【当方】 三反畑</p>

以下の面談記録について、特段記載がない場合はすべて先方の発言として記載する。

【学校概要、ジェンダーに関する取り組み】

- 教師数は24名(うち女性10名)。理数科教師は5名(うち女性2名)。
- 生徒数は以下のとおり。第1学年はまだ入学登録時点なので正確な数はわからないが、70名近く登録が完了しており、最終的に150名程度を想定している。

学年	合計	男性	女性
第2学年	130	65	48
第3学年	105	55	50

- 教師が不足している遠隔地域の教師を増やすというミッションを持つため、積極的に南部地域の遠隔地出身の生徒を受け入れている。そのため、教育費の支払いに問題を抱える生徒が多い。今までは教育費を支払えない生徒も引き続き受け入れて卒業させていたが、学校運営委員会のメンバーが変わったため方針が変わるかもしれない。
- ジェンダーに関する取り組みとしては以下がある。
 - 入学する生徒を選考する際に性別と地域を考慮している。地域の考慮もあるため、完全に同数にはならないが、極力男女同数になるように配慮している。
 - 学内の生徒組織(Student Representative Council: SRC)の役職を決める際に、男女それぞれ1名ずつ同じ役職につくようにしている。
 - 授業において、座席の配置やグループワークの際に男女混合になるようにしている。
 - 近隣の初等学校での教育実習の際も1グループのジェンダーバランスが同数になるようにしている。
- 男子生徒・女子生徒間のコミュニケーションに大きな問題はないが、年1回程度男女交際から問題が生じることがある。その場合は、クラスを分けるなどしてそれぞれ勉強に集中できるようにする。
- 年間で1-5名程度、妊娠により学校を離れる女子生徒がいる。ただ、同校は児童保護政策(Child Protection Policy)を取っているため、多くの場合は女子生徒が2年間学校を休学し

育児に専念した後、再入学して教員資格を取得することが多い。男子生徒・女子生徒間の子供の場合、2人とも子供が2歳になるまで休学する。

【数学】

- 数学に関しては、男子生徒の成績が女子生徒よりよい。例として第2学年の数学の成績ではA（最も好成績）を取得した14名のうち、男子生徒が11名、女子生徒が3名だった。理由としては、理数科の知識が主に必要とされる職業（エンジニア、会計士、医者など）が主に男性がつく職業と認識されていることが影響しているのではないかと。
- 中等学校の第11、12学年時の数学で上級数学を専攻しているのは同校生徒の全体の2%程度でありその多くは男子生徒が占めている。残りの98%は一般数学を専攻している。
- 授業中の態度は男女あまり変わらない。ただ、女子生徒は答えがわかっている場合でも質問に積極的に回答しようとしなくて、他の生徒の出方をうかがう傾向にある。教師から指名した場合は女子生徒でもきちんと答えられることが多い。

【理科】

- 数学と同様に、男子生徒のほうが女子生徒より成績がよい。主な理由は、多くの女子生徒は中等学校の第11、12学年時に理数科目を専攻していないことが多いため。
- そのため女子生徒中心に11、12学年時の内容の復習を行うなど、苦手な生徒を巻き込む工夫をしている。
- 成績や授業中の発表では男子生徒が優れていることが多いが、実験や工作などに関しては女子生徒が積極的に活動することが多い。ただ、発表は男子生徒に譲る傾向にある。

【入学前（初等学校や中等学校）でのジェンダー状況】

- （校長の経験として）娘が中等学校時代に上級数学と理科を専攻しようとしたら、女子であることを理由に教師に止められたことがある。中等学校時代は理科を専攻しなかったが、その後エンジニア系のカレッジに入学し、同校で学んだ内容を活かして海軍に就職している。2人目の娘は理科を専攻し、最終的にゴロカ大学で化学を学んだ。また、自分自身の経験としても中等学校時代に理科室の薬品類がとても危険なものだと教師から言われ、その影響で理科を選択することを躊躇して専攻しなかった。科目選択における中等学校時の教師の影響は大きい。
- 中等学校では通常、キャリアエキスポが年1回開かれ、各種大学などの説明が実施される。PNGではエンジニアや会計士など男性が主につく職業という印象があるので、こうしたキャリアエキスポの時点で成功している女性のモデルケースを聞くことができると、女子生徒にとって将来のキャリア選択が広がるのではないかと。
- 数学・理科が得意になるかどうかは、初等学校の低学年時期の教師の影響が大きい。教師が科目を十分理解して自信をもって講義をしていると子供たちも関心を持つようになる。

以上

40. Sacred Heart Teacher College (男子生徒)

会議名	Sacred Heart Teacher College (男子生徒)
日時	2020年2月7日(金) 13:30~14:30
場所	Sacred Heart Teacher College
参加者	【先方】 Mr. Ben David, 3 year Mr. Tomas Jese Dakia, 2 year 【当方】 三反畑

以下の面談記録について、特段記載がない場合はすべて先方の発言として記載する。

【経歴】

氏名	Mr. Ben David	Mr Tomas Jese Dakia
学年(年齢)	第3学年(29歳)	第2学年(23歳)
出身地	セントラル州	ガルフ州
家族構成	両親、兄1人、姉妹3名 両親の職業は農業	母親、姉妹5人 父親は農家だったが死去しており、母が農業や清掃業に従事。

【教育・初等教員養成校】

- 教師を志した理由は共通しており、それぞれ出身地域の学校に教師が少なく、1名で100名以上の生徒の面倒を見ている状況を見て、自身も教師として出身コミュニティに貢献したいと考えたため。Mr. Tomas は初等学校および中等学校時に精神的につらかった時期に教師がカウンセリングをしてくれて助かったので、同じように子供たちを支えたいとも考えている。また、Mr. Ben は地元の学校で無償で Grade 1~Grade 3 の子供に教えていた経験が1年間あり、同学校の校長の勧めで正式に教師資格を取得することを目指している。
- Mr. Ben の得意科目は数学で、中等学校時に上級数学を専攻していた。Mr. Tomas の得意科目は数学、英語、Personal Development で、中等学校時代の専攻は一般数学、経済、歴史、地学、コンピューター、オートメカニクスだった。いずれも不得意科目は英語。
- 教員養成校の授業内容や教師のレベルは満足しているが、両名とも以下の点に課題を感じている
 - 寮：4人1部屋で十分なスペースがないため、空き教室棟で勉強している。
 - 図書室：資料が古く新しい本が入らない。
 - WIFI：他校と違い、生徒にWIFIが提供されておらず調べ物をするために自費で通信料を払っている。
 - 食事：量が十分ではない。
 - 水道：学内の飲料用の水道として、男子生徒女子生徒共通で1つしか水道がない。
 - 都市部への移動：他校とちがい、都市部へ出るための移動手段(バス)が提供されていない。公共交通を使わざるを得ないが、窃盗や強盗の被害にあうことがある。生徒が実際に大けがをしたことがあったが、いまだに安全な交通手段は提供されていない。

【ジェンダー状況】

- 学内での男子生徒・女子生徒間のコミュニケーションは良好である。
- Mr. Ben の家庭内では、父親が家長として物事を決めており、女性は従うことが一般的だった。3名姉妹がいるが教育費がないため、Grade 5以降は学校に通っておらず、結婚した。
- Mr. Tomas の場合、州政府職員だった父親の死去後、母親が清掃の仕事をしたり、農作物を販売して家を支えていた。男手がないため、家の修繕をしたりカヌーを作成する際は近隣の男性に食料や金品と引き換えに依頼していた。また、農作物の販売についても女性だけでいけないマーケットがあるため、男性の仲介人に手数料を払って販売を依頼するなど苦勞していた。5人の姉妹は Grade 5 卒業後に結婚した。

以上

41. Sacred Heart Teacher College (女子生徒)

会議名	Sacred Heart Teacher College (女子生徒)
日時	2020年2月7日(金) 14:30~15:30
場所	Sacred Heart Teacher College
参加者	【先方】 Ms. Mataneu, 2 year Ms. Wede, 2 year 【当方】 三反畑

以下の面談記録について、特段記載がない場合はすべて先方の発言として記載する。

【経歴】

氏名	Ms. Mataneu	Ms. Wede
学年(年齢)	第2学年(27歳)	第2学年(22歳)
出身地	ミルン湾州	ミルン湾州
家族構成	両親、妹1人、弟3人 父親は農家、母親は専業主婦	両親、兄弟5人 父親は事務員、母親は専業主婦

【教育・初等教員養成校】

- 教師を志した理由は共通しており、出身地域の学校に教師が少なく、自身も教師として出身コミュニティに貢献したいと考えたため。Ms. Mataneu は子どもが好きであること、Ms. Wede は教えることが好きであることも教師を目指す理由の一つ。
- 両名とも得意科目は英語で、苦手科目は数学。数学は項目によっては好きであるが、苦手な項目が多い。2人とも同じ中等学校に通っており、中等学校の数学教師が授業のトピックだけ読み上げ、あとは生徒に問題を解かせるという授業スタイルで説明が少なかったため、苦手になった。質問をしても、説明がわかりにくくあまり理解できなかった。
- 中学時代の専攻は一般数学と社会科学、経済学であり、2人とも理科(物理、化学、生物、地学)は先行していなかった。
- 教員養成校での理科は、生物と地学は問題ないが、物理と化学は難しい。
- 教員養成校での数学は、中等学校時代と比べてわかりやすいがやはり苦手意識はまだある。
- 教員養成校の授業内容や教師のレベルは満足しているが、以下の点に課題を感じている。
 - 寮：4人1部屋で十分なスペースがない。また寮内で盗難がある。
 - 水道：飲料用、手洗い用の水供給が十分ではない。水が少ないときは下の寮から上の寮へ水を運んでいる。
 - トイレ：数が十分でない。
- 都市部への移動は女子生徒にとって危険が多いため、学校から外出することは基本的になく、必要な場合は男子生徒に要件の依頼している。

【ジェンダー状況】

- 教員養成校での男子生徒とのコミュニケーションは特に問題はなく、お互い成熟しているため、双方尊重しあってコミュニケーションを取れている。

- 初等学校および中等学校時は男女の座る席がわかれていたり、男子生徒が女子生徒をからかったりいじめたりした。教師から男子生徒が注意されることはあったが、その場では収まっても男子生徒の態度が直ることはなかった。
- 家庭内では父親が主に物事を決めている。ただ、母親が銀行カードを預かるなど、買い物や生活に関する決定は母親に任されている。また、自分が家にいるときは母親を手伝っていたが、今は男子しかいないため、彼らが母親の手伝い（皿洗い、料理、農作業など）をしている。

以上

42. Bomana Primary School (教員)

会議名	Bomana Primary School (教員)
日時	2020年2月10日(月) 9:00~10:30
場所	Bomana Primary School
参加者	<p>【先方】 Ms. Maryanne Ari, Head Teacher Ms. Margaret Kum, Senior Teacher Ms. Taiva Karava, Senior Teacher Ms. Catthy Toi, Assistant Teacher Ms. Julie Yok, Assistant Teacher Ms. Jerina Dosabo, Assistant Teacher Ms. Jennie T. Menei, Assistant Teacher</p> <p>【当方】 三反畑</p>

以下の面談記録について、特段記載がない場合はすべて先方の発言として記載する。

【学校内のジェンダー状況】

- 生徒数は以下のとおり。Grade 3~Grade 6までは男女生徒数は大きく変わらないが、Grade 7, 8になると男子生徒のほうが増加しているのに対し、女子生徒は微減している。

学年	男子生徒	女子生徒	合計
Grade 3	130	97	227
Grade 4	111	118	229
Grade 5	112	100	212
Grade 6	101	103	204
Grade 7	125	100	225
Grade 8	138	93	231
合計	717	611	1328

- 教師数は22名、うち男性教師3名、女性教師19名。
- 男女ともに成績に影響する要因として、家庭環境がある。離婚などで片親になったり、家庭内に何等か問題があると学校に来なくなったり、集中力がなくなり成績が悪くなる。
- 男子生徒は女子生徒より好戦的 (aggressive) であるが、女子生徒に対してのからかいやいじめはなく、主に男子生徒内で問題が起きることが多い。教科書を複数人でシェアしているため、勉強のスピードが異なるため喧嘩になるなど。
- 男子生徒の好戦的な態度は年齢が上がると落ち着く傾向にある。学年が若いほうが、男子生徒内で自分を強く見せたがる傾向にある。地域的に父親が警察官である家庭が他地域より多いので、親の影響で自分を強く見せたがる傾向にあるのではないかと。
- Code of Conductがあり、学生の行動の規律を保っている。深刻な問題になることはなく、昨年起こった問題としては教室内の落書きなどである。
- 学校に来なくなる原因は、授業料が負担できない、(女子の場合) 早婚・妊娠、親から他の弟妹の世話を依頼されるなど。一部、貧困な家庭の女子は15, 16歳ごろから売春や性産業にかかわるようになり、学校に来なくなることもある。
- Grade 6~Grade 8にかけて Personal Development (PD) の関係性 (Relationship) の項目で、人

権や平等について教えている。男女平等については「男性と女性が仕事を行う際、職場で平等に扱われるべきである。男性と女性が同じ仕事を行う場合、同額の給与が払われるべきである」という記載がある。

- PD の項目にはリプロダクティブヘルスや男女の身体的構造の違いの内容も含まれている。もともと PNG では文化的にこうした性的な内容はタブーだったため、同内容が導入された 2000 年代直後は戸惑ったが、今では問題ない。現在では、メディア、インターネットがあるため、教える前から内容を知っている生徒が増えてきた。他方、地方部ではまだこうしたテーマをタブー扱いする傾向にあるのではないかと思う。
- UNICEF の支援で WASH プログラム (Water, Sanitation Hygiene Programme) を 2 年前から実施している。同プログラムの啓発活動の一環で、男女の違いやお互いに尊重しあう重要性を教えている。また、同プログラムの活動により、水道や手洗い場の増設やトイレのリノベーションを実施した。女子トイレにシャワーや着替えができるスペースを作ることで、生理中の女子も安心して登校できるようになった。

【理数科における男子生徒・女子生徒の状況】

- 数学および理科を含め、女子生徒のほうが成績が良い。男子生徒は友人の影響で喫煙やチューイングなどにより、勉強への集中力にかけることが主な原因である。
- 数学は他の教科と比べて成績が良くなく、50 点満点中で平均 25 点程度。女子は 30 点前後を習得する傾向にある。理科は 50 点満点中平均 32-33 点であり、数学よりは成績が良い。
- シニア教師が教え方について校長や副校長の承認を得て決めている。一般的に初等学校では 1 人の教師が全科目を教えることが多いが、高学年だと授業準備で負担になるため、2 年前からシニア教師の提案により、英語、数学、理科、社会は専任の教師が教えるようになっている。その他の科目 (生活、芸術、Personal Development) はクラス担任が担当している。

以上

43. Bomana Primary School (授業観察)

会議名	Bomana Primary School (授業観察)
日時	2020年2月10日(月) 10:30~11:30
場所	Bomana Primary School
参加者	【先方】 Ms. Taiva Karava, Senior Teacher 【当方】 三反畑

- Ms. Taiva Karava の案内により、Grade 6~8 の理数科授業を各 10 分程度、観察した。
- 男子生徒および女子生徒数は以下のとおり。

学年	教科	男子生徒	女子生徒	合計
Grade 8	数学	18	18	36
Grade 8	理科	30	21	51
Grade 7	数学	17	26	43
Grade 7	理科	14	16	30
Grade 6	数学	18	26	44
Grade 6	理科	27	19	46

- いずれの教室でも 3 人掛けの机に 2-3 名の生徒が座っていた。新たな学年が始まったばかりのため、登録遅れや制服や文具の準備不足によりまだ登校できていない生徒もいるため、人数は通常より少ない。
- 生徒は文具（ノートやペン）は持参しているが、教科書はない。
- 教師からの質問に関しては、男女ともに手を挙げている。教師からあてる際も男女偏らず、交互にあてている。
- 座席は生徒が好きな座席を選んで座っており、おおよそ男女別に分かれている。
- 教室内の壁に落書きが多い。

以上

44. Koyari High School (副校長)

会議名	Koyari High School (副校長)
日時	2020年2月10日(月) 13:40~14:20
場所	Koyari High School
参加者	【先方】 Ms. Kaiposu Murray, Deputy Principal Academic 【当方】 三反畑

以下の面談記録について、特段記載がない場合はすべて先方の発言として記載する。

- 生徒数は以下のとおり。Grade9, 10 は各 6 クラス、Grade 11, 12 は各 3 クラスある。

学年	男子生徒	女子生徒	合計
Grade 9	221	206	427
Grade 10	148	221	369
Grade 11	71	103	174
Grade 12	105	99	204
合計	545	629	1174

- 教師数は 31 名、うち男性教師 11 名、女性教師 20 名。
- 数学・理科を含め、女子生徒の成績が男子生徒より良い。男子生徒はスポーツなど他の活動に意識が向きがちであり、女子生徒のほうが勉強に集中している。他方、女子生徒は家では親から家事手伝いを頼まれ、勉強時間がとりにくいという課題がある。
- ミッション系の学校なので宗教の時間があり、平等や倫理について学ぶ。そのため、学内で男子生徒が女子生徒をいじめたり、生徒間での喧嘩はない。
- 妊娠により学校へ来なくなる女子生徒は年間 2-3 年いる。ただ、1 年休学したのち、復学できるシステムがある。
- Grade 10 で生徒数が約半数になる。進学できない児童の多くは家庭に問題がある場合が多く、片親であったり、自宅に電気がないなど勉強できる環境がないことが多い。
- Grade 12 卒業後のデータはない。
- 男女ともトイレは 12 ずつあり、問題なく使用されている。
- 1 クラスあたりの平均人数は 71 名であり、これは理想とされる 30-40 人よりかなり多い。
- 生徒の家庭は平均もしくは平均以下の収入の家庭が多い。公的機関や会社で働く親が多い。
- 授業料の 1300Kina/年は政府系学校よりは高く、私立学校よりは安い。

以上

45. Koyari High School (授業観察)

会議名	Koyari High School (授業観察：数学)
日時	2020年2月10日(月) 14:30~15:00
場所	Koyari High School
参加者	【先方】 Mr. Simon Kayaka, Head of Department Mathematics and computer/ICT 【当方】 三反畑

- Grade 10の数学クラスを視察した。男子生徒21名、女子生徒25名、合計56名。
- 6名前後1グループで座っており、合計9グループある。座席は男女混合になっている。
- 座席は1人につき、机・いす1脚がある。
- 教科書は1グループにつき、2-3冊配布されており、2-3人につき1冊を共有している。
- パーセンテージの計算を教える授業であり、教科書の内容だけではなく、実際の生活（買い物と行う際の割引）と結び付けて授業を行うことで、日常生活と数学の接点がわかるように工夫されている。
- 質問への回答は、回答者を指名するのではなく教師の呼びかけに対し、生徒全員で回答する形式。
- 問題演習の際は、教師が各グループを回って進捗を確認のうえ、答え合わせを実施している。
- 板書はホワイトボードに書かれている。一番後ろの席からだと、文字サイズ的に見えにくい。

46. Koyari High School (数学教科主任)

会議名	Koyari High School (数学教科主任)
日時	2020年2月10日(月) 15:00~15:40
場所	Koyari High School
参加者	【先方】 Mr. Simon Kayaka, Head of Department Mathematics and computer/ICT 【当方】 三反畑

以下の面談記録について、特段記載がない場合はすべて先方の発言として記載する。

- 数学教師は5人おり、全員男性である。
- 1クラスの授業時間は50分。数学は基本的に週に4授業ある。以前は40分×5授業/週だったが、教師の負荷が高かったため、1時間当たりの時間を増やすことで授業数を減らした。
- 数学は以前は男子生徒の成績のほうがよかったが、現在は女子生徒の成績のほうがよい。
- 成績に影響するのは特に家庭環境であり、家庭環境に問題がある場合、授業料不払いになったり、家での勉強時間が取れないなど、学習環境に問題が起きやすい。一方、そうした悪い環境にある生徒がハングリー精神でよい成績を収めることもある。
- 数学は生徒にとって難しい科目にあたる。生徒が数学を苦手になる理由は以下の4点。
 - 教師の教え方：数学は抽象的なので教科書をただ読み上げるだけでは、生徒が退屈し興味を持たない。そのため、自身は日常生活と関係づけて説明を行うようにしているが(パーセンテージの説明の際に買い物での割引を例に使うなど)、ただ教科書の内容だけを説明する教師もいる。
 - 初等学校での教え方：小学校では1人の教師が全科目を教えているので、専任の教師ではないため、教え方が不十分になる。数学が苦手な初等学校教師もいる。
 - 教材不足：教科書等の教材がない。授業中は2-3人に1冊貸し出している。ただ、1人一冊ではないため、家には持って帰れない。ただ、生徒からの希望があれば数日間の貸し出しは可能。
 - 家庭環境：数学に限らないが、片親や両親がおらず親戚住んでいる生徒など、複雑な家庭環境の生徒は成績が悪くなる傾向にある。
- Grade 11・12は理数科1クラス、社会科学2クラスに分かれている。
- 女子生徒は理数科が得意であっても、周囲の同性の友人の選択に影響されて社会科学クラスに進むことが多い。教師として、女子生徒を含め得意な生徒には理数科に進むよう奨励している。
- 理数科に進む場合でも女子は、エンジニアより医学系を選考する場合がある。
- 男子は成績が不十分な場合でも、理科(特にエンジニアリング)を希望するケースが多い。エンジニアは男性が付く領域の
- キャリアエキスポは開催しており、進学候補先となる学校やコースの紹介が実施されている。

以上

47. Sacred Heart Teacher College (授業観察：数学)

会議名	Sacred Heart Teacher College (授業観察：数学)
日時	2020年2月11日(月) 8:20~9:00
場所	Sacred Heart Teacher College
参加者	【先方】 Mr. Augustine Mara, Mathematics Lecturer 【当方】 三反畑

【授業内容】

- 8時開始の予定だが、教師の遅れにより 8:20 に開始。
- 男子生徒 16名、女子生徒 11名の合計 27名。
- 座り方は3-5人ごとに8つのグループになって固まって座っている。男女混合の席が4つ、男子のみが3つ、女子のみが1つ。
- 初回の授業ということで、今学期の流れについて説明。
- 資料はプリントで配布。今回の授業では教科書は使用せず。
- 授業の最後に教師から生徒へ質問があるかよびかけるが、特に質問はなし。
- 中等学校時に Advanced Mathematics を受講していたのは2名(男女各1名)。他は General Mathematics 専攻。理科は6名(男子1名が物理と化学、女子5名が科学と生物)。

【授業環境】

- 教室前方のホワイトボード2面を使用。
- 各生徒ごとに机・いすの1セットあり。
- 生徒は各自でノートやペン等の文具を持参。
- 教室の設備としては蛍光灯6つ、ファンが4つ。ファンは稼働している。

以上

48. Sacred Heart Teacher College (授業観察：理科)

会議名	Sacred Heart Teacher College (授業観察：理科)
日時	2020年2月11日(月) 9:00~10:00
場所	Sacred Heart Teacher College
参加者	【先方】 Ms. Lynette Toliman, Science Lecturer 【当方】 三反畑

【授業内容】

- 時間通り、9:00 開始、10:00 終了。
- 男子生徒 16 名、女子生徒 13 名の合計 29 名。座席の座り方は男女混合。生徒の出欠を取ることから開始。
- 授業計画表が事前に作成されており、その内容に基づいて授業を実施。Introduction (10 分)、Body (40 分)、Conclusion (10 分) でほぼ構成とおりに実施していた。
- 教科書は 1 グループにつき 2 冊配布され、2-3 人で 1 冊を一緒に使用している。
- 教科書の読み上げについて、男女交互に指名して実施。
- グループワークの際は教師が各グループを回り、進捗確認をしつつアドバイスを実施。グループワークの発表者は教師が指名しており、男女交互に指名している。
- 授業の内容だけでなく、どのように教えるのか(単純に科目内容を教師が教えるのではなく、キークエスチョンを与えて生徒に考えさせることが重要であるなど)についても言及している。
- 中等学校時代の理科の選択者は、女子生徒 3 名、男子生徒 5 名の合計 8 名。なお、Ms. Toliman が別クラスの授業で確認した際には 30 名中 2 名(男女各 1 名)のみだったとのこと。

【授業環境】

- 教室前方のホワイトボード 2 面を使用。
- 各生徒ごとに机・いすの 1 セットあり。
- 生徒は各自でノートやペン等の文具を持参。
- 教室の設備としては蛍光灯 6 つ、ファンが 4 つ。蛍光灯・ファンともに稼働している。

以上

49. 高等教育省（データアナリスト）

会議名	高等教育省（データアナリスト）
日時	2020年2月11日（火）15:10~15:40
場所	高等教育省
参加者	【先方】 Mr. Blaise Savinio, Senior Data Analyst 【当方】 三反畑

当初ジェンダー担当官の Ms. Allannah Leahy も同席予定だったが、体調不良のため欠席だったため、高等教育省において統計データを管理している Mr. Blaise Savinio のみと面談した。以下の面談記録について、特段記載がない場合はすべて先方の発言として記載する。

- Mr. Blaise は 2017 年より本職についているが、高等教育省における教育に関する統計データ収集・データベース構築は 2009 年より開始した。
- 主に中等学校、高等教育（大学、教員養成校、その他専門学校）に関するデータを収集、管理している。
- 3 年分の以下のデータの共有を依頼した。
 - 中等学校における男女別の就学数・卒業数・Grade 12 時点の国家試験の成績
 - 教員養成校の男女別の就学数・卒業数
 - 大学の学部・男女別の就学数・卒業数
- 当方から本調査の調査結果（別添 2）を共有し、意見を求めたところ、以下のコメントを得た。
 - 学校におけるジェンダー状況および理数科の男女別の傾向について、基本的に同意する。
 - 提案については、特に初等学校で科目選任教師を持つこと、中等学校で女子生徒に理数科目の専攻を奨励することがいい。

以上

50. Human Right Defender

会議名	Human Right Defender
日時	2020年2月11日（月）13:00~14:20
場所	UN Women
参加者	【先方】 Mr. Tom Oaveta, Community Leader/HRD Ms. Madlyn Po'o, Councillor/HRD 【当方】 三反畑

以下の面談記録について、特段記載がない場合はすべて先方の発言として記載する。

【Human Right Defender の概要】

- 両名とも2018年にHuman Right Defender（HRD）の研修（3日間）を受講し、HRDとしての活動を開始した。
- HRDにはUN Womenによる研修を受けた第1陣（33名）と、UN Womenの支援を受けたNCDCが研修を実施した第2陣（50名、World Visionが支援）が元となり、83名が各コミュニティメンバーに対して研修を実施することで活動を拡大している。
- 第1陣HRD33名でHuman Right Defender Associationを立ち上げており、NCDCとの窓口として機能している。
- HRDの活動は無償であるが、両名とも現在働いてはおらず、HRDの活動に専念している。Mr. TomはHRDの活動が無償であることに対して家族から文句を受けることがあり、HRD活動をきっかけに職に就きたいと考えている。
- 主な活動として、暴力を受けた女性被害者への対応、コミュニティでの啓発活動、女性の経済的エンパワーメント支援を実施している。

【女性被害者への対応】

- 被害女性への対応は連絡が来た場合に、女性被害者、および、必要があれば加害者の話を聞き、直接HRDによる仲裁が可能な場合は、仲裁を行う。女性被害者に対して外部機関からの支援が必要な場合には、適切な機関を紹介する。病院や警察への訪問に同行することもある。
- 紹介先としては、セーフハウス、医療機関、警察のFSVUなど。紹介する際に所定のフォーマットに記入し、状況を共有する。また、NCDCに対しても所定のフォーマットに記入し報告を行う。
- 被害者からの問い合わせは早朝や夜に来ることもあるので、そうした際は公的機関への連絡ができなくて困る。女性HRDのもとに女性被害者と加害者が一緒に来た場合は、両名を引き離すのにHRDの男性の助けが必要になる。
- 1日に3-4件問い合わせが来ることもある。問い合わせ件数は変動があり、2019年12月にHRD1名（Mr. Tom Oaveta）で1か月で9件の問い合わせを受けていた。

【啓発活動】

- 主に自身の所属するコミュニティを対象に実施する。主なテーマはジェンダーに基づく暴力、児童保護であり、来週より新しいテーマ：男性に対するアドボカシーを行う。
- 参加者は50-60名ほどであり、1時間程度実施している。参加者のうち10-15名程度が後日問い合わせに来る。
- 啓発活動を実施する場所は公園など公共スペースを利用している。
- ジェンダーに基づく暴力は学校内における暴力（男子生徒から女子生徒への暴力、教師から生徒への暴力、身体的な暴力だけでなく言葉による暴力など）も含むため、学校で意識啓発活動を実施することがある。現在は主に中等学校を対象にしている。今後、初等学校も対象にしていきたい。学校での啓発活動の際はドラマ仕立てにするなど、生徒が理解しやすいよう工夫している。

【経済的エンパワーメント】

- 暴力の再発を防止するため、女性自身が経済的に自立することが重要である。
- 小規模ビジネスを始めたり、銀行の口座開設を支援したりしている。
- 支援している女性は貧困家庭が多いため、70-80%が非識字である。成人識字教育が必要であると考えているが、現在は支援機関がないため実施できていない。

以上

51. 教育省カリキュラム開発局

会議名	教育省カリキュラム開発局
日時	2020年2月12日(水) 10:00~10:50
場所	教育省カリキュラム開発局
参加者	<p>【先方】 Mrs. Lepapa Haoda, Acting A/Secretary-Guidance & Counselling Ms. Claribel Waide, National Coordinator, Gender Equity and Social Inclusion Branch</p> <p>【当方】 三反畑</p>

当方より、調査結果概要と提案案(別添2)を説明した後、以下の協議を実施した。以下の面談記録について、特段記載がない場合はすべて先方の発言として記載する。

- 調査結果についてはおおむね同意する。提案内容に関するコメントは以下のとおり。
 - 初等学校の高学年における科目専門教師の必要性に同意する。教育システムが既存の3-6-4制から1-6-6制に代わると、Grade 7および8が中等学校の範囲になるため、科目専門教師制度が実現できる。
 - 初等教員養成校に進む生徒が、中等学校の時点で上級数学・理科を選んでいない傾向は確かにあり、こうした理数科が得意な生徒が教員養成校へ進む仕掛けづくりが必要であると思う。他方、すぐの変更は難しいため、提案にあるような中等学校の理数科目内容の復習プログラムを初等教員養成校に組み込むことは重要である。
 - Grade 11・12の科目選択は、女子生徒が数学・理科を選ばない傾向は確かにあり、教師等による数学・理科が得意な生徒への理数科選択の奨励は重要である。
 - 職業選択については、近年パイロット、エンジニア、医者などになる女性が出てきており、徐々に変わってきていると思う。中等学校に対するキャリアエキスポは地域ごとに毎年1回実施しており(今年は6-7月)、大学等の教育機関だけではなく、実際に職業についている人を招きロールモデルの提示を実施している。具体的には警察、軍、医者、弁護士などを招き、生徒が直接質問できるようにしている。男女のバランスが同等になるように留意している。
- 初等学校及び中等学校の成績に関する統計資料は、Measurement Services Divisionで管理している。Grade 8時点の試験に関しては、国(教育省)ではなく、州教育局が管轄しており、教育省ではその報告を受けている。Grade 10およびGrade 12時点での国家試験は教育省により、実施・結果の管理もされている。

以上

52. 教育省測定サービス局

会議名	教育省測定サービス局
日時	2020年2月12日(水) 11:00~11:20
場所	教育省測定サービス局
参加者	【先方】 Mr. Packiam Arulappan, A/Assistant Secretary, Measurement Service 【当方】 三反畑

当方より、調査概要および実施してきた調査内容（別添2）について説明の上、以下のデータの共有を依頼した。以下の面談記録について、特段記載がない場合はすべて先方の発言として記載する。

- 調査内容結果については、おおむね同意する。
- 初等学校の Grade 8 時点での男女別の成績のデータに関してはまとめるのに少々時間がかかる。中等学校の Grade 10, 12 時点での男女別の成績のデータは提供可能である。

以上

53. 首都区 家庭内・性的暴力対策委員会事務局

会議名	首都区 家庭内・性的暴力対策委員会事務局
日時	2020年2月13日(木) 10:20~10:50
場所	首都区 家庭内・性的暴力対策委員会事務局
参加者	【先方】 Ms. Lavinia Raula, GBV case coordinator, NCD FSVAC Secretariat Ms. Oliver, Gender Officer, Gender Division 【当方】 三反畑

以下の面談記録について、特段記載がない場合はすべて先方の発言として記載する。

- 首都区の家庭内・性的暴力対策委員会事務局 (Family Sexual Violence Action Committee Secretariat: FSVAC) は2016年に設立された。もともと首都区のジェンダー局で扱っていたジェンダーに基づく暴力の被害者女性の問い合わせが増加したため、別部署として分離独立した。
- 問合せ件数は増加しており、昨年は全体で約1000件、問合せを受けて他機関へ紹介した件数が440件に上った。増加要因は、首都の人口自体が増加していることと、意識啓発活動の影響で被害女性が公的機関に問い合わせる件数が増えたためによると理解している。
- 問合せがきたケースは、3段階 (High risk, Meddle risk, Low risk) に分けられており、High risk のケースが多い。その場合は、女性被害者をセーフハウスに紹介し、併せて Protection Order の手続きを取る。
- 研修を実施した Human Right Defender (HRD) は286名 (女性: 273名、男性: 13名) であり、女性被害者が話をしやすいのは女性であるため大半を女性が占めている。ただ、男性への意識啓発活動を実施するため、今後男性の HRD を増やす予定である。
- HRD 育成研修は、全内容を網羅した2週間研修 (理論1週間、実地研修1週間) と、3日間の集中講座もある。そのほか、コミュニティで関心がある人材向けの Community Referral and Mentoring Service training (CRAMS) も実施している。
- HRD は無償のボランティア活動であり、HRD の活動インセンティブの一つとして、HRD 向けの研修を実施している。HRD の活動に直結するカウンセリング研修だけでなく、スキルアップにつながるコンピューター研修も実施している。
- HRD はあくまで女性被害者が問い合わせる窓口の一つであり、他の機関や直接問い合わせが来ることもある。FSVAC に持ち込まれたケースは被害女性に対して ID がつけられ、再度問い合わせがあった際に記録を追えるようにしている。分析したことはないが、被害女性が時間をおいて再訪するケースは多い。
- もともとは HRD 個人から連絡を受けていたが、件数が増えたので HRD Association 経由で月に1度連絡を受けるようにしている。

以上

54. 首都区 ジェンダー局

会議名	首都区ジェンダー局
日時	2020年2月13日(水) 11:00~11:50
場所	首都区ジェンダー局
参加者	【先方】 Ms. Oliver, Gender Officer, Gender Division 【当方】 三反畑

以下の面談記録について、特段記載がない場合はすべて先方の発言として記載する。

- 首都区ジェンダー局で実施した支援候補対象に関する調査結果概要は以下のとおり。現在レポートをまとめている段階である。
 - 対象：18グループ、767名（女性：759名、男性8名⁷）
 - 教育レベル：非識字が半数弱を占めている。基礎学校修了レベルだとアルファベットや数字を読めるレベルで読み書きはできないため、読み書きができない層は約半数を占める。

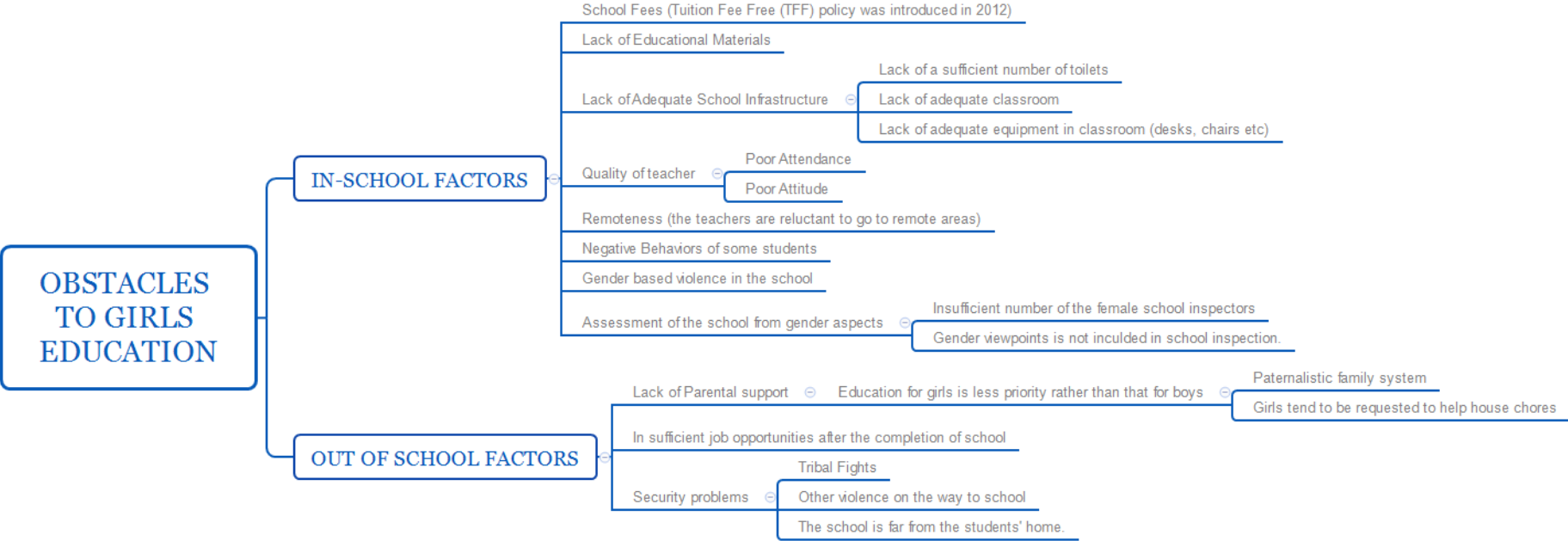
非識字	303
基礎学校修了	51
初等学校修了	252
中等学校修了	102
国立中等学校修了	22
大学卒業	6
その他	31

 - 出身：90%は他の地域からきている
 - 職業：多くはインフォーマルセクターで働いている。
- 地方部では教育・医療や電機などインフラの基本的サービスが不十分なため、ポートモレスビーやレイに出てくる人々が増え続けている。他方、これらの人々は主に農業に従事していたので出身地域で仕事や食料に困ることはないが、都市部に来ると農業を行う土地がないため、インフォーマルセクターで働くことになる。
- 首都区ジェンダー局では学校における意識啓発活動を休憩やランチタイムの30分を利用して実施している。対象は初等学校と中等学校であり、ジェンダー局スタッフ4名がUN Womenの活動で開発されたSANAP WANTAIMの資料を使用して、実施している。

以上

⁷ 女性だけではなく、家庭内暴力を受けたり、極度の貧困にある男性も支援対象としている。

別添 1 : 教育省・高等教育省における面談にて使用した資料 (1 週目)



別添 2 : 教育省・高等教育省における面談にて使用した資料 (4 週目)

**Collection Survey on Exploring of Gender Support in Education Sector
in Papua New Guinea**

11 February 2020

1. The result of the survey in the Primary schools, Secondary/High schools and TCs

- According to the hearing of each school, gender equality is recognized by teachers and they consider it into their education.
 - ➔ Schools could be considered as an “entry point” of gender equality.
- The following tendency of the performance on mathematics and science could be observed on the mathematics and science.
 - Primary school: Female > Male / Female \cong Male
 - Secondary school: Female > Male or Male > Female
 - Teacher college: Female \cong Male
 - ➔ Male and female students have the same ability of learning mathematics and science. Their performance could be affected by the environment rather than gender. Female students tend to be affected the stereotype, when they select the subjects at the secondary school. The stereotype of the occupation also affects their selection of the subjects.

School	Gender	Performance of Math & Science
Primary School	<ul style="list-style-type: none"> - Male students sometimes bully female students (Wabag PS in Enga, Kabaleo PS in East New Britain). - There are few problems between the male and female students, although male students sometimes fight among them (Bomana PS in POM). 	<ul style="list-style-type: none"> - Performance of male and female students are almost same at the mathematics & science (Wabag PS in Enga). - Female students perform better than male students (Kabaleo PS in East New Britain, Bamona PS in POM)
Secondary School	<ul style="list-style-type: none"> - There are few problems between the male and female students and gender equality is realized. (Kokopo Secondary, Malabanga High school in East New Britain, Bomana High school in POM) 	<ul style="list-style-type: none"> - Female students perform better than male students (Koyari High School in POM) - Male students perform better than female students in mathematics, although the performance of science is almost same between male and female students (Malabanga High school in East New Britain) - Female students tend to select General Math rather than Advanced math (Kokopo secondary school in East New Britain, Koyari High school in POM)
Teacher College	<ul style="list-style-type: none"> - There are few problems between the male and female students and gender equality is realized, since most of the students are already mature. 	<ul style="list-style-type: none"> - Both male and female students are not good mathematics & science, since most of the students did not select Advanced math and science at the secondary schools. (Enga TC, Divine,

		Sonoma) - Performance of male students is better than female students (Gauline TC)
--	--	---------------------------------------------------------------------------------------

2. Analysis and suggestion

(1) Quality of the teachers at primary school

Students who are not good at mathematics and science tends to go to teacher colleges whereas the students who performs well tends to go to the university.

- ➔ (Teacher colleges) To give follow-up/review about the mathematics & science of the secondary school level at the teacher college, especially for the students who did not select advanced mathematics & science.
- ➔ (Primary schools) To consider having subject-specialized teachers for the important subjects (mathematics, science and language), especially for upper grades.

(2) Selection of the subjects at the secondary schools

Female students tend to select the general mathematics and social science although some of them perform well in the mathematics and science. Their selections are influenced by the peer pressure among the students, the advice of parents/teachers.

- ➔ (Secondary schools) To encourage the female students who are good at mathematics and science to select advanced mathematics and science subjects.

(3) Stereotype image of occupation in the mathematics & science area

The occupation in the mathematics & science area, such as engineer, doctor have the stereotype image that it is the occupation for men.

- ➔ (Teacher colleges) To increase the number of female mathematics/science teachers as a familiar model.
- ➔ (Secondary schools) To introduce the women who is actively working in the mathematics & science area for female students at the career expo.

(End)